工事成績表

工事成績表の考査項目別運用表（別紙－１～３）
土木・その他
（R8.4）

三好市

工事成績表の考査項目別運用表　様式一覧

評定者	考査項目	細別	様式番号	備考
監督員	施工体制	施工体制一般	別紙1-1	
		配置技術者	別紙1-1	
	施工状況	施工管理	別紙1-2	
		工程管理	別紙1-2	
		安全対策	別紙1-3	
		対外関係	別紙1-3	
	出来形及び出来ばえ	出来形（一般工事）	別紙1-4	
		出来形（機械設備工事）	別紙1-4-2	
		出来形（電気設備・通信設備・受変電設備工事	別紙1-4-3	
		品質（一般工事）	別紙1-5	
		品質（機械設備工事）	別紙1-5-2	
		品質（電気設備・通信設備・受変電設備工事）	別紙1-5-3	
		品質（維持修繕工事）	別紙1-5-4	
	創意工夫	創意工夫	別紙1-6	
課長等	施工状況	工程管理	別紙2-1	
		安全対策	別紙2-1	
	工事特性	施工条件等への対応	別紙2-2	
	社会性等	地域への貢献等	別紙2-3	
	法令遵守等		別紙2-4	

評定者	考査項目	細別	品種別	様式番号	備考	品種別	様式番号	備考
検査員	施工状況	施工管理		別紙3-1				
	出来形及び出来ばえ	出来形	一般工事	別紙3-2				
			機械設備工事	別紙3-2-2				
			電気設備・通信設備・受変電設備工事	別紙3-2-3				
			港湾ブロック据付工事	別紙3-2-4				
		品質	コンクリート構造物工事	別紙3-3-1		鋼橋工事（堰・水門等の工場製作の鋼構造物を含む	別紙3-3-18	
			土工事（切土・盛土・築堤等）	別紙3-3-2		コンクリート橋の上部工事（PC・RCを対象）	別紙3-3-19	
			護岸・根固め・水制工事	別紙3-3-3		塗装工事	別紙3-3-20	
			舗装工事	別紙3-3-4		砂防構造物・地すべり防止工事（集水井戸を含む）	別紙3-3-21	
			基礎工事（地盤改良等を含む）	別紙3-3-5		植栽工事	別紙3-3-22	
			現場打ち用水路・コン2次製品水路工事	別紙3-3-6		浚渫工事	別紙3-3-23	
			ブロック舗装工事（ｲﾝﾀｰﾛｯｷﾝｸﾞ・ﾀｲﾙ系舗装	別紙3-3-7		防護柵・防護網・標識・区画線等設置工事	別紙3-3-24	
			解体工事	別紙3-3-8		維持・清掃・除草付属物等工事	別紙3-3-25	
			補強土壁工事（盛土・築堤等工事）	別紙3-3-9		修繕工事（橋脚補強・耐震補強・落橋防止等）	別紙3-3-26	
			軽量盛土工	別紙3-3-10		ほ場整備工事	別紙3-3-27	
			法面工事	別紙3-3-11		管水路工事	別紙3-3-28	
			法面工事（ｶｰﾃﾝﾈｯﾄ工・CCM協会用）	別紙3-3-12		ため池工事	別紙3-3-29	
			法面工事（ﾛｯｸﾈｯﾄ工）	別紙3-3-13		機械設備工事	別紙3-3-30	
			法面工事（ﾛｰﾌﾟﾈｯﾄ工・CCM協会用）	別紙3-3-14		電気設備工事	別紙3-3-31	
			アンカー工事	別紙3-3-15		通信設備・受変電設備工事	別紙3-3-32	
			暗渠排水管工事	別紙3-3-16		電線共同溝工事	別紙3-3-33	
			鋼製ふとん籠工事	別紙3-3-17		下水道工事（開削・推進・シールド）	別紙3-3-34	
						港湾築造工事	別紙3-3-35	
						港湾ブロック据付工事	別紙3-3-36	
						港湾維持修繕工事（電気・防食塗装・被覆防食工）	別紙3-3-37	
						港湾維持修繕工事（電気防食材設置工）	別紙3-3-38	
						港湾維持修繕工事（防舷材設置工事）	別紙3-3-39	
						海岸工事	別紙3-3-40	
						トンネル工事	別紙3-3-41	
						その他（バラツキによる評価が適切な工事）	別紙3-3-42	
						その他（バラツキによる評価が不適切な工事）	別紙3-3-43	
		出来ばえ	コン構造物・砂防構造物・海岸・トンネル工事	別紙3-4-1		鋼橋工事（堰・水門等の工場製作を含む）	別紙3-4-5	
			土工事(盛土・築堤等)			コンクリート橋工事		
			土工事(切土)			塗装工事（工場塗装を除く）		
			護岸・根固め・水制工事			地すべり防止工事		
			舗装工事			植栽工事		
			基礎工事（地盤改良等を含む）			浚渫工事		
			現場打ち用水路・コン2次製品水路工事			防護柵・防護網工事	別紙3-4-6	
			ブロック舗装工事（ｲﾝﾀｰﾛｯｷﾝｸﾞ・ﾀｲﾙ系舗装	別紙3-4-2		標識工事		
			解体工事			区画線工事		
			補強土壁工事（盛土・築堤等工事）			維持修繕工事		
			軽量盛土工			区画整理工事	別紙3-4-7	
			法面工事	別紙3-4-3		管水路工事		
			法面工事（ｶｰﾃﾝﾈｯﾄ工）			ため池工事		
			法面工事（ﾛｯｸﾈｯﾄ工）			機械設備工事	別紙3-4-8	
			法面工事（ﾛｰﾌﾟﾈｯﾄ工）			電気設備・照明設備・その他類似工事		
			アンカー工事	別紙3-4-4		通信設備・受変電設備・その他類似工事		
			暗渠排水管工事			電線共同溝工事		
			鋼製ふとん籠工事			下水道工事(開削工)	別紙3-4-9	
						下水道工事(推進工)		
						下水道工事（シールド工）		
						港湾築造工事	別紙3-4-10	
						港湾ブロック据付工事		
						港湾維持修繕工事（電気・防食塗装・被覆防食工）		
						港湾維持修繕工事（電気防食材設置工）		
						港湾維持修繕工事（防舷材設置工）		
						上記以外の工事	別紙3-4-11	

別紙1-1

工事成績表の考査項目別運用表

［記入方法］該当する項目の□に レ マークを記入する。

監督員

1. 施工体制

Ⅰ. 施工体制一般

a	b	c	d	e
適切である	ほぼ適切である	他の評価に該当しない	やや不適切である	不適切である

「評価対象項目」

1 □ 「施工プロセスチェックリスト」、又は「工事施工体制チェックリスト」のうち、施工体制一般について、指示事項がない。
2 □ 作業分担の範囲を、施工体制台帳・施工体系図に明確に記載している。
3 □ 工事カルテの登録は、監督員の確認を受けた上で契約後、指定する期日までに行われている。
4 □ 社内検査では、社内検査員（責任者・補助者）とその資格が確認でき、社内検査の時期・検査項目が、工事全般にわたりよく把握されている。
5 □ 建設業退職金共済制度の趣旨を作業員等に説明するとともに、証紙の購入が適切に行われ、標識（シール）が貼り付けられている。
6 □ 施工体制台帳・施工体系図が整備され、施工体系図も現場に掲げられ、現場と一致している。
7 □ 工事規模に応じた人員・船舶・機械配置がなされ施工している。
8 □ 元請けが下請けの作業成果を検査している。
9 □ 緊急指示・災害・事故等が、発生した場合の対応が速やかである。
10 □ 現場に対する、本店や支店による支援体制を整えている。
11 □ 工場製作期間における技術者を適切に配置している。
12 □ 機械設備・電気設備について、製作工場における社内検査体制（規格値の設定や確認方法等）を整えている。
13 □ その他
理由（　　）

□ 施工体制一般に関して、監督員等から文書により、改善指示を行った。

□ 施工体制一般に関して、監督員等からの文書による、改善指示に従わなかった。

●判断基準

該当項目が90%以上・・・・・・・・・・・・・ a
該当項目が80%以上90%未満・・・・・ b
該当項目が80%未満・・・・・・・・・・・・・ c

① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は横線を引いて削除する。
② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率（%）計算の値で評価する。
③ 対象評価項目数（　　）＝全項目数（ 13 ）-対象外項目数（　　）
評価値（　%）＝評価数（　　）／対象評価項目数（　　）
④ なお、削除後の評価項目数が2項目以下の場合は c 評価とする。

Ⅱ. 配置技術者（現場代理人等）

a	b	c	d	e
適切である	ほぼ適切である	他の評価に該当しない	やや不適切である	不適切である

「評価対象項目」

［全体を評価する項目］

1 □ 「施工プロセスチェックリスト」のうち、配置技術者について、指示事項がない。
2 □ 現場代理人が常駐し、専任主任技術者（監理技術者）が専任している。
3 □ 作業に必要な作業主任者及び専門技術者を選任し、配置している。

［現場代理人を評価する項目］

4 □ 現場代理人として、工事全体の把握ができている。
5 □ 設計図書と現場との相違があった場合は、監督員と協議するなどの必要な対応を行っている。
6 □ 監督員への報告を適時及び適確に行っている。

［主任（監理）技術者を評価する項目］

7 □ 書類を共通仕様書及び諸基準に基づき適切に作成し、整理している。
8 □ 施工に先立ち、創意工夫または提案をもって工事を進めている。
9 □ 契約書・設計図書・適用すべき諸基準等を理解し、施工に反映している。
10 □ 施工上の課題となる条件（作業環境・気象・地質等）への対応を図っている。
11 □ 下請けの施工体制・施工状況を把握し、技術的な指導を行っている。
12 □ 主任（監理）技術者が、明確な根拠に基づいて、技術的な判断を行っている。
13 □ その他
理由（　　）

□ 配置技術者に関して、監督員等から文書により、改善指示を行った。

□ 配置技術者に関して、監督員等からの文書による、改善指示に従わなかった。

●判断基準

該当項目が90%以上・・・・・・・・・・・・・ a
該当項目が80%以上90%未満・・・・・ b
該当項目が80%未満・・・・・・・・・・・・・ c

① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は横線を引いて削除する。
② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率（%）計算の値で評価する。
③ 対象評価項目数（　　）＝全項目数（ 13 ）-対象外項目数（　　）
評価値（　%）＝評価数（　　）／対象評価項目数（　　）
④ なお、削除後の評価項目数が2項目以下の場合は c 評価とする。

別紙1-2

工事成績表の考査項目別運用表

［記入方法］該当する項目の□に レ マークを記入する。

監督員

考査項目	細別		a	b	c	d	e
			適切である	ほぼ適切である	他の評価に該当しない	やや不適切である	不適切である
2. 施工状況	Ⅰ. 施工管理		「評価対象項目」			□ 施工管理に関して、監督員等から文書により、改善指示を行った。	□ 施工管理に関して、監督員等からの文書による、改善指示に従わなかった。
		1	□ 「施工プロセスチェックリスト」のうち施工管理について、指示事項がない。				
		2	□ 契約約款第18条第1項第1号から5号に係わる、設計図書の照査を行い、監督員の確認を受けて施工がなされている。				
		3	□ 施工計画書の内容と現場施工方法が一致している。				
		4	□ 施工計画書が設計図書および現場条件を、反映したものとなっている。				
		5	□ 現場条件の変化に応じて、適切に対応している。				
		6	□ 工事材料の品質に影響がないように保管している。				
		7	□ 日常の出来形管理を、設計図書および施工計画書に基づき、適時および的確に行っている。				
		8	□ 日常の品質管理を、設計図書および施工計画書に基づき、適時および的確に行っている。				
		9	□ 現場内の整理・整頓を日常的に行い、資機材の保管が適切に行われている。				
		10	□ 指定材料の品質証明書および写真等を整理している。				
		11	□ 段階確認の時期が適切に行われ、立会確認の手続きが事前になされている。				
		12	□ 工事打ち合わせ簿を不足なく整理している。				
		13	□ 建設副産物の再利用等への取り組みを適切に行っている。				
		14	□ 工事全般において、低騒音型・低振動型・排出ガス対策型の建設機械・車両を使用している。				
		15	□ その他 理由（　　）				
			●判断基準 該当項目が90%以上・・・・・・・・・・・・・ a 該当項目が80%以上90%未満・・・・・・ b 該当項目が80%未満・・・・・・・・・・・・・ c		① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は横線を引いて削除する。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率(%)計算の値で評価する。 ③ 対象評価項目数（　　）＝全項目数（ 15 ）-対象外項目数（　　） 評価値（　%）＝評価数（　　）／対象評価項目数（　　） ④ なお、削除後の評価項目数が2項目以下の場合は c 評価とする。		
	Ⅱ. 工程管理		a	b	c	d	e
			適切である	ほぼ適切である	他の評価に該当しない	やや不適切である	不適切である
			「評価対象項目」			□ 工程管理に関して、監督員等から文書により、改善指示を行った。	□ 工程管理に関して、監督員等からの文書による、改善指示に従わなかった。
		1	□ 「施工プロセスチェックリスト」のうち、工程管理について、指示事項がない。				
		2	□ 工程に与える要因を的確に把握し、それらを反映した工程表を作成している。				
		3	□ 実施工程表の作成およびフォローアップを行っており、適切に工程を管理し、工程履行報告が適性に行われている。				
		4	□ 現場条件の変化への対応が迅速であり、施工の停滞がみられない。				
		5	□ 時間制限や片側通行等の各種制約への対応が適切であり、大きな工程の遅れがない。				
		6	□ 工事の進捗を早めるための取り組みを行っている。				
		7	□ 適切な工程管理を行い、工程の遅れがない。				
		8	□ 休日の確保を行っている。				
		9	□ 計画工程以外の時間外作業がほとんどない。				
		10	□ その他 理由（　　）				
			●判断基準 該当項目が90%以上・・・・・・・・・・・・・ a 該当項目が80%以上90%未満・・・・・・ b 該当項目が80%未満・・・・・・・・・・・・・ c		① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は横線を引いて削除する。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率(%)計算の値で評価する。 ③ 対象評価項目数（　　）＝全項目数（ 10 ）-対象外項目数（　　） 評価値（　%）＝評価数（　　）／対象評価項目数（　　） ④ なお、削除後の評価項目数が2項目以下の場合は c 評価とする。		

別紙1-3

工事成績表の考査項目別運用表

［記入方法］該当する項目の□に レ マークを記入する。

監督員

考査項目	細別	a	b	c	d	e
		適切である	ほぼ適切である	他の評価に該当しない	やや不適切である	不適切である
2. 施工状況	Ⅲ. 安全対策	「評価対象項目」 1 □「施工プロセスチェックリスト」のうち安全対策について、指示事項がない。 2 □ 各種安全パトロールで指摘を受けた事項について、速やかに改善を図り、かつ関係者に是正報告をしている。 3 □ 安全教育・安全訓練等を、半日／月以上実施している。 4 □ 安全巡視・TBM(ツールボックスミーティング)、KY(危険予知活動)等を実施している。 5 □ 新規入場者教育の内容に、当該工事の現場特性を十分に反映している。 6 □ 工期を通じて、労働災害および公衆災害が発生しなかった。 7 □ 過積載防止に取り組んでいる。 8 □ 使用機械・車両等の点検整備等がなされ、管理されている。 9 □ 重機操作に際して、誘導員配置や、重機と人の行動範囲の分離措置がなされている。 10 □ 山留・仮締切等の、点検および管理を、チェックリスト等を用いて実施している。 11 □ 足場や支保工の組み立て完了時や、使用中の点検および管理を、チェックリスト等を用いて実施している。 12 □ 保安施設等の設置及び管理を、管理基準および関係者の協議に基づき実施している。 13 □ 地下埋設物および架空線等に関する、事故防止対策に取り組んでいる。 14 □ トラック(クレーン装置付)において、上空施設への接触事故防止装置付きの車両を使用している。 15 □ その他 理由(　　) ●判断基準 該当項目が90%以上・・・・・・・・・・・・・ a 該当項目が80%以上90%未満・・・・・・ b 該当項目が80%未満・・・・・・・・・・・・・ c ① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は横線を引いて削除する。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率(%)計算の値で評価する。 ③ 対象評価項目数(　　)＝全項目数(15)-対象外項目数(　　) 評価値(　%)＝評価数(　　)／対象評価項目数(　　) ④ なお、削除後の評価項目数が2項目以下の場合は c 評価とする。		□ 安全対策に関して、 監督員等から文書により、 改善指示を行った。	□ 安全対策に関して、 監督員等からの文書による、 改善指示に従わなかった。
	Ⅳ. 対外関係	「評価対象項目」 1 □「施工プロセスチェックリスト」のうち、対外関係について、指示事項がない。 2 □ 関係官公庁等と調整を行い、トラブルの発生がない。 3 □ 地元との調整を行い、トラブルの発生がない。 4 □ 第3者からの苦情がない。 もしくは、苦情に対して適切な対応を行っている。 5 □ 関連工事との調整を行い、円滑な進捗に取り組んでいる。 6 □ 工事の目的及び内容を、工事看板などにより、地域住民や通行者等にわかりやすく周知している。 7 □ 現場でのイメージアップに取り組んでいる。 8 □ その他 理由(　　) ●判断基準 該当項目が90%以上・・・・・・・・・・・・・ a 該当項目が80%以上90%未満・・・・・・ b 該当項目が80%未満・・・・・・・・・・・・・ c ① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は横線を引いて削除する。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率(%)計算の値で評価する。 ③ 対象評価項目数(　　)＝全項目数(8)-対象外項目数(　　) 評価値(　%)＝評価数(　　)／対象評価項目数(　　) ④ なお、削除後の評価項目数が2項目以下の場合は c 評価とする。		□ 対外関係に関して、 監督員等から文書により、 改善指示を行った。	□ 対外関係に関して、 監督員等からの文書による、 改善指示に従わなかった。

別紙1-4

工事成績表の考査項目別運用表

［記入方法］ 該当する項目の□に レ マークを記入する。

監督員

考査項目	a	b	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ Ⅰ. 出来形	□ 出来形の測定が必要な測定項目について、所定の測定基準に基づき行われており、測定値が規格値を満足し、そのばらつきが規格値の 概ね50%以内である。	□ 出来形の測定が必要な測定項目について、所定の測定基準に基づき行われており、測定値が規格値を満足し、そのばらつきが規格値の 概ね80%以内である。	□ 出来形の測定が必要な測定項目について、所定の測定基準に基づき行われており、測定値が規格値を満足し、a および b に該当しない。	□ 出来形の測定方法または測定値が不適切であったため、監督員等が文書で改善指示、または修補指示を行った。	□ 出来形の測定方法または測定値が不適切であったため、契約約款第17条に基づき、監督員等が改造請求を行った。
	＊ ばらつきの判断は別図参照 ① 出来形の評定は、工事全般を通したものとする。 ② 出来形とは、設計図書に示された工事目的物の形状寸法である。 ③ 出来形管理とは、「徳島県土木工事施工管理基準」の測定項目・測定基準及び規格値に基づく、形状寸法を確保する管理体系である。 ④出来形管理項目を設定していない工事は、「c」評価とする。 ⑤ ばらつきの考え方は別図参照。				

別紙1-4-2

工事成績表の考査項目別運用表

［記入方法］該当する項目の□に レ マークを記入する。

監督員

考査項目	工種		a	b	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ Ⅰ. 出来形	機械設備工事		適切である	ほぼ適切である	他の事項に該当しない	□ 出来形の測定方法または測定値が不適切であったため、監督員等が文書で改善指示、または修補指示を行った。	□ 出来形の測定方法または測定値が不適切であったため、契約約款第17条に基づき、監督員等が改造請求を行った。
			「評価対象項目」				
		1	□ 据え付けに関する出来形管理が容易に把握できるよう、出来形管理図などを工夫している。				
		2	□ 設備全般にわたり、形状および寸法の実測値が許容範囲内である。				
		3	□ 施工管理基準の撮影記録が、撮影基準を満足している。				
		4	□ 設計図書で定められていない出来形管理項目について、監督員と協議のうえで管理している。				
		5	□ 不可視部分の出来形が、写真で確認できる。				
		6	□ 塗装管理基準の塗膜厚管理が、適切にまとめられている。				
		7	□ 溶接管理基準の出来形管理が、適切にまとめられている。				
		8	□ 社内の管理基準に基づき管理している。				
		9	□ 設計図書に定められている予備品に不足がない。				
		10	□ 分解整備における既設部品等の磨耗・損傷等について、整備前と整備後の老化状況及び回復状況を、図表等に記録している。				
		11	□ その他 理由（　　）				
			① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は横線を引いて削除する。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率（%）計算の値で評価する。 ③ 対象評価項目数（　　）＝全項目数（ 11 ）-対象外項目数（　　） 評価値（　　%）＝評価数（　　）／対象評価項目数（　　） ④ なお、削除後の評価項目数が2項目以下の場合は c 評価とする。 該当項目が90%以上・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・a 該当項目が80%以上90%未満・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・b 該当項目が80%未満・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・c				

別紙1-4-3

工事成績表の考査項目別運用表

［記入方法］該当する項目の□に レ マークを記入する。

監督員

考査項目	工種		a	b	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ Ⅰ. 出来形	電気設備工事 通信設備工事 受変電設備工		適切である	ほぼ適切である	他の事項に該当しない	□ 出来形の測定方法または測定値が不適切であったため、監督員等が文書で改善指示、または修補指示を行った。	□ 出来形の測定方法または測定値が不適切であったため、契約約款第17条に基づき、監督員等が改造請求を行った。
			「評価対象項目」				
		1	□ 据え付けに関する出来形管理が容易に把握できるよう、出来形管理図などを工夫している。				
		2	□ 機器等の測定（試験）結果が、その都度管理図表などに記録され、適切に管理している。				
		3	□ 写真管理基準等の管理項目を満足している。				
		4	□ 不可視部分の出来形が、写真で確認できる。				
		5	□ 設計図書で定められていない出来形管理項目について、監督員と協議のうえで管理している。				
		6	□ 設備全般にわたり、形状・寸法の実測値が許容範囲内である。				
		7	□ 設備の据え付け・固定方法が、設計図書または承諾書の通りに施工している。				
		8	□ 配管及び配線を、設計図書または承諾図書の通りに敷設している。				
		9	□ 行く先などを表示した名札を、ケーブルなどにわかりやすく、堅固に取り付けている。				
		10	□ 配管及び配線の支持間隔や絶縁抵抗等について、設計図書の仕様を満足している。				
		11	□ 社内の管理基準に基づき管理している。				
		12	□ その他 理由（　　）				
			① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は横線を引いて削除する。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率（%）計算の値で評価する。 ③ 対象評価項目数（　　）＝全項目数（ 12 ）-対象外項目数（　　） 評価値（　　%）＝評価数（　　）／対象評価項目数（　　） ④ なお、削除後の評価項目数が2項目以下の場合は c 評価とする。 該当項目が90%以上・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・a 該当項目が80%以上90%未満・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・b 該当項目が80%未満・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・c				

別紙1-5

工事成績表の考査項目別運用表

［記入方法］該当する項目の□に レ マークを記入する。

監督員

考査項目	a	b	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ Ⅱ. 品質	□ 品質の測定が必要な測定項目について、所定の測定基準に基づき行われており、測定値が規格値を満足し、そのばらつきが規格値の概ね50%以内である。	□ 品質の測定が必要な測定項目について、所定の測定基準に基づき行われており、測定値が規格値を満足し、そのばらつきが規格値の概ね80%以内である。	□ 品質の測定が必要な測定項目について、所定の測定基準に基づき行われており、測定値が規格値を満足し、a および b に該当しない。	□ 品質の測定方法または測定値が不適切であったため、監督員等が文書で改善指示、または修補指示を行った。	□ 品質の測定方法または測定値が不適切であったため、契約約款第17条に基づき、監督員等が改造請求を行った。
	① 品質の評定は、工事全般を通したものとする。 ② 品質とは、設計図書に示された工事目的物の規格である。 ③ 品質管理とは、「徳島県土木工事施工管理基準」の試験項目・試験基準及び規格値に基づく、すべての段階における品質確保のための管理体系である。 ④試験結果の打点数等が少なく、ばらつきの判断ができない場合は、別紙3－3－1～41の評価対象項目により評価する。 ⑤ ばらつきの考え方は別図参照。				

別紙1-5-2

工事成績表の考査項目別運用表

［記入方法］該当する項目の□に レ マークを記入する。

監督員

考査項目	工種		a	b	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ Ⅱ. 品質	機械設備工事		品質管理が適切である	品質管理がほぼ適切である	他の事項に該当しない	□ 品質の測定方法または測定値が不適切であったため、監督員等が 文書で改善指示、または修補指示を行った。	□ 品質の測定方法または測定値が不適切であったため、契約約款第17条に基づき、監督員等が改造請求を行った。
			「評価対象項目」				
		1	□ 材料・部品の品質照合の書類（現物照合）を整理している。				
		2	□ 設備の機能及び性能が、承諾図書のとうり確保されている。				
		3	□ 設計図書の仕様を踏まえた詳細設計を行い、承諾図書として提出している。				
		4	□ 機器の機能及び性能に係る成績書が整理されている。				
		5	□ 溶接管理基準の品質管理項目について、品質管理書類を整理している。				
		6	□ 塗装管理基準の品質管理項目について、品質管理書類を整理している。				
		7	□ 操作制御設備について、操作スイッチや表示灯が承諾図書のとうり設置され、操作性に優れている。				
		8	□ 操作制御設備の安全装置及び保護装置の機能・性能確認試験について、試験書類を整理している。				
		9	□ 小配管・電気配線・配管が承諾図書の通り敷設している。				
		10	□ 設備の取扱説明書を工夫している。				
		11	□ 完成図書（取扱説明書）に、部品等の交換方法についてが、まとめられている。				
		12	□ 機器の配置を、点検しやすいように工夫している。				
		13	□ 設備の構造や機器の配置を、交換頻度の高い部品等の交換作業を容易にできるように、工夫している。				
		14	□ 二次コンクリートの配合試験及び試験練りを実施し、試験成績表にまとめている。				
		15	□ バルブ類の平時の状態を示すラベルなどを、見やすい状態で表示している。				
		16	□ 計器類に運転時の適用範囲を、見やすく表示している。				
		17	□ 回転部や高温部等の危険個所に、表示または防護をしている。				
		18	□ 構造物の劣化状況をよく把握して、適切な対策を施している。				
		19	□ 現地状況を勘案し、施工方法等について、適切な対策を施している。				
		20	□ その他。 理由（　　）				
			① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は横線を引いて削除する。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率（%）計算の値で評価する。 ③ 対象評価項目数（　　）＝全項目数（ 20 ）-対象外項目数（　　） 評価値（　　%）＝評価数（　　）／対象評価項目数（　　） ④ なお、削除後の評価項目数が2項目以下の場合は c 評価とする。				
			該当項目が90%以上・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・a 該当項目が80%以上90%未満・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・b 該当項目が80%未満・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・c				

別紙1-5-3

工事成績表の考査項目別運用表

［記入方法］該当する項目の□に レ マークを記入する。

監督員

考査項目	工種		a	b	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ Ⅱ. 品質	電気設備工事 通信設備工事 受変電設備工		品質管理が適切である	品質管理がほぼ適切である	他の事項に該当しない	□ 品質の測定方法または測定値が不適切であったため、監督員等が 文書で改善指示、または修補指示を行った。	□ 品質の測定方法または測定値が不適切であったため、契約約款第17条に基づき、監督員等が改造請求を行った。
			「評価対象項目」				
		1	□ 製作着手前に、品質や性能の確保に係る技術検討を実施している。				
		2	□ 材料・部品の品質照合の結果が、品質保証書等（現物照合を含む）で確認でき、設計図書の仕様を満足してい				
		3	□ 機器の品質・機能及び性能が、設計図書を満足して、成績書にまとめられている。				
		4	□ 操作スイッチや表示灯が、承諾図書のとうり配置され、操作性に優れている。				
		5	□ ケーブル及び配管の接続などの作業が、施工計画書に記載された手順に沿って行われ、不具合がない。				
		6	□ 設備の機能及び性能が、設計図書の仕様を満足している。				
		7	□ 操作制御関係の機能及び性能が、設計図書の仕様を満足しているとともに、必要な安全装置及び保護装置の作動に不具合がない。				
		8	□ 設備の総合性能が、設計図書の仕様を満足している。				
		9	□ 現場条件によって、機器（製品）の機能及び性能が確認できない場合において、工場試験などで確認している。				
		10	□ 設備全体についての取扱説明書を、工夫し作成（修繕（改造・更新を含む）の場合は、修正または更新）している。				
		11	□ 完成図書で、定期的な点検や交換を要する部品及び箇所を明示している。				
		12	□ 設備の構造において、点検や消耗品の取り換え作業が、容易にできるように工夫している。				
		13	□ その他 理由（　　）				
			① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は横線を引いて削除する。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率（%）計算の値で評価する。 ③ 対象評価項目数（　　）＝全項目数（ 13 ）-対象外項目数（　　） 評価値（　　%）＝評価数（　　）／対象評価項目数（　　） ④ なお、削除後の評価項目数が2項目以下の場合は c 評価とする。				
			該当項目が90%以上・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・a 該当項目が80%以上90%未満・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・b 該当項目が80%未満・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・c				

別紙1-5-4

工事成績表の考査項目別運用表

［記入方法］該当する項目の□に レ マークを記入する。

監督員

考査項目	工種		a	b	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ Ⅱ. 品質	維持修繕工事		品質管理が適切である	品質管理がほぼ適切である	他の事項に該当しない	□ 品質の測定方法または測定値が不適切であったため、監督員等が 文書で改善指示、または修補指示を行った。	□ 品質の測定方法または測定値が不適切であったため、契約約款第17条に基づき、監督員等が改造請求を行った。
			「評価対象項目」 1 □ 常に緊急的な作業に対応できる体制を整えている。 2 □ 緊急的な作業において、迅速に対応している。 3 □ 監督職員の指示事項に対して、現地状況を勘案し、施工方法や構造についての提案を行うなど、積極的に取り組んでいる。 4 □ 施工後のメンテナンスに対する提言や修繕サイクル等を、勘案した提案等を行っている。 5 □ 6 □ 7 □ 8 □ 注）記載の4項目を必須の評価対象項目とし、この他に適宜項目を追加して、評価するものとする。 ただし、評価対象項目は、最大8項目とする。 該当項目が6項目以上・・・・・ａ 該当項目が4～5項目・・・・・ｂ 該当項目が3項目以下・・・・・ｃ				

別紙1-6

工事成績表の考査項目別運用表

［記入方法］該当する項目の□に レ マークを記入する。　　監督員

考査項目	細別		
5. 創意工夫	Ⅰ. 創意工夫	■ 施工 □ 1. 施工に伴う器具・工具・装置類の工夫、または設備据付後の試運転調整の工夫 □ 2. コンクリート2次製品の利用等の代替材の適用と工夫 □ 3. 土工・地盤改良・橋梁架設・舗装・コンクリート打設等の施工関係の工夫 □ 4. 部材・機材等の運搬・吊り方式等を含む施工方法等の工夫 □ 5. 設備工事で加工・組立等の工夫、または電気工事の配線・配管等での工夫 □ 6. 給排水・衛生設備工事等の配管・ポンプ類の凍結防止策、つなぎ等の工夫 □ 7. 照明・視界確保等の工夫 □ 8. 仮排水・仮道路・迂回路等の計画施工の工夫 □ 9. 運搬車両・施工機械等の工夫 □ 10. 支保工・型枠工・足場工及び仮桟橋・覆工板・山留め等の仮設工関係の工夫 □ 11. 施工計画書の作成、写真管理等に関する工夫 □ 12. 出来形・品質の計測関係等の工夫、及び集計・管理図等の工夫 □ 13. 施工管理ソフト・土量管理システム等の活用に関する工夫 ■ 品質 □ 14. 土工関係・設備関係・電気関係の工夫 □ 15. コンクリートの打設関係の工夫（材料・打設・養生・出来高・品質等） □ 16. 鉄筋・PCケーブル・コンクリート2次製品等の使用材料の工夫 □ 17. 配筋・溶接作業等に関する工夫 ■ 安全衛生関係 □ 18. 建設業労働災害防止協会が定める指針にもとずく、安全衛生教育を実施している。 □ 19. 安全を確保するための仮設備等に関する工夫。（落下物・墜落・転落・挟まれ・看板・立入禁止柵・手摺り・足場等） □ 20. 安全教育、技術向上講習会等、安全パトロール、安全帯使用等に関する工夫 □ 21. 現場事務所、労働者宿舎等の居住空間及び設備等の工夫 □ 22. 有毒ガス・可燃ガスの処理、及び粉じん防止策や作業中の換気等の工夫 □ 23. 一般車両突入時の被害軽減対策、又は一般交通の安全確保に関する工夫 □ 24. 厳しい作業環境の改善に関する工夫。 □ 25. 環境保全に関する工夫。	■ その他 □ 【働き方改革】週休2日の確保に向けた企業の取組みが図られている。 □ 【働き方改革】若手や女性技術者の登用など、担い手確保に向けた取組みが図られている。 □ 【生産性向上】生産性向上に資する取組が図られている。 □ その他1 □ その他2 □ その他3 □ その他4
	記述評価 ［レ マークを付したキーワード項目について、評価内容を詳細に記述］	評点：　　点 ・ 特に評価すべき工夫事例を評価する。 ・ 加点は＋7点～0点の範囲とする。 ・ 該当キーワード数の数と重みを勘案して評価する。 ・ 1項目1点を目安とするが、内容によってはそれ以上の点数を与えても良い。	［創意工夫の詳細評価］

＊1. 上記の考査項目のほかに評価する企業の工夫等があれば、その他に具体の内容を記載して加点する。 なお、課長等が評価する「工事特性」との二重評価はしない。
＊2. 入札時の総合評価の提案に係る項目は評価しない。

別紙2-1

工事成績表の考査項目別運用表

[記入方法] 該当する項目の□に レ マークを記入する。

課長等

<table>
<tr><th>考査項目</th><th>細別</th><th>a</th><th>b</th><th>c</th><th>d</th><th>e</th></tr>
<tr><td rowspan="4">2. 施工状況</td><td>Ⅱ. 工程管理</td><td>工程管理が非常に優れている</td><td>工程管理がやや優れている</td><td>他の事項に該当しない</td><td>工程管理がやや不備である</td><td>工程管理が不備である</td></tr>
<tr><td colspan="5">□ 社会的に影響の大きい災害復旧工事、及び施工条件の変更等による工期的な制約がある中で、余裕を持って工事を完成させた。
□ 隣接する他の工事等との積極的な工程調整を行い、トラブルを回避した。
□ 地元調整を積極的に行い、トラブルも少なく、工期内に工事を完成させた。
□ 代休等を確保するなどの、適切な人員管理と工程管理が、地域住民に好印象を与えている。
□ 配置技術者（現場代理人等）の積極的な工程管理の姿勢がみられた。
□ 週休2日の確保を行っている。

＊ 上記該当項目を総合的に判断して、a・b・c・d・e 評価を行う。</td></tr>
<tr><td>Ⅲ. 安全対策</td><td>a</td><td>b</td><td>c</td><td>d</td><td>e</td></tr>
<tr><td colspan="5">安全対策が非常に優れている | 安全対策がやや優れている | 他の事項に該当しない | 安全対策がやや不備である | 安全対策が不備である
□ 建設労働災害・公衆災害の防止への努力が顕著である。
□ 安全衛生管理体制を確立し、組織的に取り組んでいる。
□ 安全衛生管理活動が活発で、他の模範となっている。
□ 安全管理に関する技術開発や創意工夫に取り組んでいる。
□ 安全協議会活動に積極的に取り組むなど、リーダーシップを発揮している。
□ 安全職場実現への取り組みが、地域全体から評価されている。
□ その他 （理由:　　）

＊ 上記該当項目を総合的に判断して、a・b・c・d・e 評価を行う。</td></tr>
</table>

別紙2-2

工事成績表の考査項目別運用表

[記入方法] 該当する項目の□に レ マーク、・に○を記入する。　　課長等

考査項目	細別	対 応 事 項	[事例] 具体的な施工条件等への対応事項
4. 工事特性	1. 施工条件等への対応	Ⅰ 構造物の特殊性への対応	
		□ 1. 対象構造物の高さ・延長・施工(断)面積・施工深度等の規模が特殊な工事	・ 土工　切土の土工量が20万m3以上、または盛土の土工量が15万m3以上 ・ 河川　護岸または築堤の平均高さが10m以上 ・ トンネル　トンネル(シールド)の直径8m以上の断面、トンネル(開削工法)の開削深さ20m以上、トンネル(NATM)の内空平均面積100m2以上、トンネル(沈埋工法)の内空平均面積300m2以上 ・ ダム　ダム用水門で設計水深25m以上、ダム堤高150m以上、転流トンネルの流下能力400m3／s以上 ・ 樋門等　樋門または樋管の内空断面積が15m2以上、揚排水機場の吐出し管径2，000mm以上、堰又は水門の最大径間長25m以上、堰又は水門の径間数3径間以上、堰又は水門の扉体面積50m2／1門以上 ・ 海岸　海岸堤防、護岸、突堤または離岸堤の水深が10m以上 ・ 浚渫　浚渫土量が100万m3以上 ・ 砂防等　地すべり防止工で、幅100m以上かつ法長150m以上 流路工の計画高水流量500m3／s、砂防ダムの堤高15m以上 ・ 橋梁　橋梁下部工の高さ30m以上、橋梁上部工の最大支間長100m以上
		□ 2. 対象構造物の形状が複雑であることなどから、施工条件が特に変化する工事	・ 砂防工事等において、現地あわせに基づいて再設計が必要な工事 ・ 鉄道に隣接した橋脚の耐震補強工事、または河道内の流水部における橋脚の撤去工事 ・ 供用中の道路トンネルの拡幅工事
		□ 3. その他(理由:　　)	・ その他、構造物固有の難しさへの対応が特に必要な工事 ・ その他、技術固有の難しさへの対応が必要である工事 ・ 地山強度が低い、または土被りが薄いため、FEM解析等による検討が必要な工事
		＊ 上記の対応事項に1つ以上 レ 点が付けば、4点の加点とする。	
		Ⅱ 都市部等の作業環境、社会条件等への対応	
		□ 4. 地盤の変形、近接構造物、地中埋設物への影響に配慮する工事	・ 供用中の鉄道又は道路と交差する、橋梁などの工事 ・ 市街地等の家屋密集地での、鉄道又は道路をアンダーパスする工事 ・ 監視などの結果に基づき、工法の変更を行った工事
		□ 5. 周辺環境条件により、作業条件・工程等に大きな影響を受ける工事	・ ガス管、水道管、電話線等の支障物件の移設について、施工工程の管理に特に注意を要した工事 ・ 地元調整や環境対策の制約が、特に多い工事 ・ そのほか各種制約があり、施工に特に厳しい制限を受けた工事
		□ 6. 周辺住民等に対する騒音・振動を特に配慮する工事	・ 市街地での夜間工事 ・ DID地区での工事
		□ 7. 現道上での交通規制に大きく影響する工事	・ 日交通量が概ね1万台以上の道路で、片側交互通行の交通規制をした工事 ・ 供用している自動車専用道路等の路上工事で、交通規制が必要な工事 ・ 工事期間中の大半にわたって、交通解放を行うため、規制標識類の設置・撤去を日々行った工事
		□ 8. 緊急時に対応が特に必要な工事	・ 緊急時の作業があり、その作業すべてに対応した工事
		□ 9. 施工箇所が広範囲にわたる工事	・ 作業現場が広範囲に分布している工事
		□ 10. その他(理由:　)	・ 施工ヤードに広さや高さに制限があり、機械の使用など施工に制約を受けた工事

				・ その他、周辺環境または社会条件への対応が、特に必要な工事
			＊ 上記の対応事項に1つ以上 レ 点が付けば、6点の加点とする	
		Ⅲ	厳しい自然・地盤条件への対応 □ 11. 特殊な地盤条件への対応等が必要な工事	・ 河川内の橋脚工事等で、地下水位が高く、ウエルポイント等の排水設備のほか、 大規模な山留工法が必要な工事 ・ 支持地盤の形状が複雑な為、深礎杭基礎毎に地質調査を実施するなど、 支持地盤を確認しながら再設計した工事 ・ 施工不可能日が多いことから、施工機械の稼働率や台数などを、的確に把握する必要が生じた工事
			□ 12. 雨・雪・風・気温・波浪等の自然条件の影響が 大きな工事	・ 海岸または河川区域内のため、設計書で計上する以上に波浪等の影響で不稼働日が多く、 主に作業船や台船を使用する工事 ・ 潜水夫を多用した工事、または波浪や水位変動が大きいため、作業構台等を設置した工事
			□ 13. 急峻な地形及び土石流危険渓流内での工事	・ 急峻な地形のため、作業構台や作業床の設置が制限される工事 または命綱を使用する必要があった工事（法面工事は除く） ・ 斜面上または急峻な地形直下での工事のため、工事に伴う地すべり防止対策等の安全対策施工後に、 施工した工事 ・ 土石流危険渓流に指定された区域内における工事、またはこれに類似する渓流内の工事
			□ 14. 動植物等の自然環境の保全に、 特に配慮しなければならない工事	・ イヌワシ等の猛禽類などの貴重な動植物への配慮のため、工程や施工方法に制約を受けた工事
			□ 15. その他（理由： ）	・ その他、自然条件または地盤条件への対応が必要であった工事 ・ そのた、災害等における臨機の措置のうち、特に評価すべき事項が認められる工事
			＊ 上記対応事項に1つ以上 レ 点が付けば、4点の加点とする	
		Ⅳ	長期工事における安全確保への対応 □ 16. 12ヶ月を超える工期で、事故がなく完成した工事 （全面一時中止期間は除く） （文書注意にもならない事故は除く）	
			□ 17. その他（理由： ）	
			＊ 上記の対応事項に1つ以上 レ 点が付けば、6点の加点とする	
	技術評価		評点： 点	[高度技術のキーワードの詳細]

＊1. 工事特性は、最大20点の加点とする。
＊2. 監督員が評価する「5. 創意工夫」との二重評価は行わない。
＊3. 評価にあたっては、監督員の意見も参考に評価する。

別紙2-3

工事成績表の考査項目別運用表

[記入方法] 該当する項目の□に レ マークを記入する。

課長等

考査項目	細別	a	a’	b	b’	c
6. 社会性等	Ⅰ. 地域への貢献等	地域への貢献が非常に優れている	b よりやや優れている	やや優れている	c よりやや優れている	他の評価に該当しない

□ 周辺環境への配慮に積極的に取り組んだ。

□ 現場事務所や作業現場の環境を、周辺地域との景観に合わせる等、積極的に周辺地域との調和を図った。

□ 定期的に広報活動や現場見学会等を実施して、積極的に地域とのコミュニケーションを図った。

□ 道路清掃等を積極的に実施し、地域に貢献した。

□ 地域生活に密着したゴミ拾い・道路清掃等のボランティア活動等へ、積極的に参加し、地域に貢献した。

□ 災害時等において、地域への支援、または行政などによる救援活動への、積極的な協力を行った。

□ その他 （理由: ）

□ その他 （理由: ）

＊ 上記該当項目を総合的に判断して、 a・a’・b・b’・c 評価を行う。

＊ 地域への貢献等とは、工事の施工に伴って、地域社会や住民に対する配慮等の貢献について加点評価する。

別紙2-4

工事成績表の考査項目別運用表

［記入方法］該当する項目の□に レ マークを記入する。　　課長等

考査項目	法令遵守等の該当項目一覧表
7．法令遵守等	

措置内容	点数
□　1．入札参加資格停止6ヶ月以上	－20点
□　2．入札参加資格停止4ヶ月以上6ヶ月未満	－15点
□　3．入札参加資格停止2ヶ月以上4ヶ月未満	－13点
□　4．入札参加資格停止1ヶ月以上2ヶ月未満	－10点
□　5．入札参加資格制限または指名不選定	－8点
□　6．文書注意、または文書による改善命令	－5点
□　7．工事関係者事故または公衆災害が発生したが、ヒューマンエラー等軽微なため、文書注意以上の処分がなかった場合。（不問で処分した案件。 もらい事故や交通事故は含まない。）	－3点
□　8．その他 理由（　　）	点

□　該当項目なし

① 本評価項目（7．法令遵守等）で評価する事例は、「工事の施工にあたり、工事関係者が下記の適応事例で上表の措置があった」場合に適用する。

② 「工事の施工にあたり」とは、請負契約書の記載内容（工事名・工期・施工場所等）を履行することに限定する。

③ 「工事関係者」とは、②を履行する工事現場に従事する現場代理人・監理技術者・主任技術者・社内検査員・請負会社の現場従事職員、及び②を履行するために下請け契約し、その履行をするために従事する者に限定する。

④ 総合評価落札方式における技術提案等（技術提案及び簡易な施工計画）の履行が確認できない場合は、「8．その他」の項目で減ずる措置を行う。

［上記で評価する場合の適用事例］

1．入札前に提出した調査資料等が、虚偽であった事実が判明した。
2．承諾なしに権利義務等を第3者に譲渡、または承継を行った。
3．宿舎環境等の使用人等に関する労働条件に問題があり、送検等された。
4．産業廃棄物処理法に違反する不法投棄・砂利採取法に違反する無許可採取等、関連法令に違反する事実が判明した。
5．当該工事関係者が、贈収賄等により逮捕または公訴された。
6．建設業法に違反する事実が判明した。（一括下請け・技術者の専任違反等）
7．入国管理法に違反する外国人の不法就労者が判明し、送検等された。
8．使用人等の就労に関する労働基本法に違反する事実が判明し、送検等された。
9．監督または検査の実施にあたり、職務の執行を妨げた。　あるいは不当な政治力等の圧力をかけ妨害した。
10．下請代金遅延防止法第4条に規定する下請代金の支払いを、期日以内に行っていない。 あるいは不当に下請代金の額を減じている。 あるいはそれに類する行為がある。
11．過積載等の道路交通法違反により、逮捕または送検された。
12．受注企業の社員に、「指定暴力団」あるいは「指定暴力団の傘下組織（団体）」に所属する構成員・準構成員・企業舎弟等、暴力団関係者がいることが判明した。
13．下請けに暴力団関係企業が入っていることが判明した。　あるいは暴力団対策法第9条に記されている、砂利・砂・防音シート・軍手等の物品の納入、土木作業員やガードマンの受け入れ、土木作業員用の自動販売機の設置等を行っている事実が判明した。
14．安全管理の処置が不適切であったために、死傷者を生じさせた工事関係者事故、または重大な損害を与えた公衆災害を起こした。
15．受注者が社会保険等未加入建設業者と下請け契約を締結した。（発注者が特別の事情を有しないと認めた場合、又は特別の事情を有する認めた場合で、発注者が定める一定の期間内に、当該社会保険等未加入建設業者が社会保険等につき届出の義務を履行した事実を確認できる書類が提出されなかった場合）
16．週休2日確保工事で、受注者の責により工事完成時に週休2日（通期）を達成できなかった。

別紙3-1

工事成績表の考査項目別運用表

［記入方法］ 該当する項目の□に レ マークを記入する。　　検査員

考査項目	細別		a	b	c	d	e
2. 施工状況	Ⅰ. 施工管理		施工管理が優れている	施工管理がやや優れている	他の事項に該当しない	やや劣っている	劣っている
			「評価対象項目」				
		1	□ 三好市公共工事標準請負契約約款第18条第1項第1号から5号に基づく設計図書の照査を行い施工をしていることが確認できる。			□ 施工管理について、監督員等が文書による改善指示を行った。	□ 施工管理について、監督員等からの文書による改善指示に従わなかった。
		2	□ 施工計画書が工事着手前に提出され、所定の項目が記載されているとともに、設計図書の内容及び現場条件を、反映したものとなっていることが確認できる。				
		3	□ 工事期間を通じて、施工計画書の記載内容と現場施工方法が、一致していることが確認できる。				
		4	□ 工事材料の品質に影響がないよう、工事材料を保管していることが確認できる。				
		5	□ 立会確認の手続きを、事前に行っていることが確認できる。				
		6	□ 建設副産物の再利用等への取り組みを、行っていることが確認できる。				
		7	□ 施工体制台帳及び施工体系図を、適確に整備していることが確認できる。				
		8	□ 下請けに対する引取り(完成)検査を、書面で実施していることが確認できる。				
		9	□ 社内検査体制が確立され、有効に機能している。				
		10	□ 作業分担と責任の範囲が、書面で確認できる。				
		11	□ 工事の関係書類を不足なく、簡潔に整理していることが確認できる。				
		12	□ 社内の管理基準に基づき、管理していることが確認できる。				
		13	□ その他 理由(　　)				
			① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は横線を引いて削除する。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率(%)計算の値で評価する。 ③ 対象評価項目数(　　)＝全項目数(13)-対象外項目数(　　) 評価値(　%)＝評価数(　　)／対象評価項目数(　　) ④ なお、削除後の評価項目数が2項目以下の場合は c 評価とする。				
			●判断基準 該当項目が90%以上・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　a 該当項目が80%以上90%未満・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　b 該当項目が80%未満・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　c				

別紙3-2

工事成績表の考査項目別運用表

［記入方法］該当する項目の□に レ マークを記入する。　　検査員

考査項目	a	a’	b	b’	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ Ⅰ. 出来形	□ 出来形の測定が必要な測定項目について、所定の測定基準に基づき行われており、測定値が規格値を満足し、そのバラツキが規格値の概ね50%以内で、下記の「評価対象項目」の4項目以上が該当する。	□ 出来形の測定が必要な測定項目について、所定の測定基準に基づき行われており、測定値が規格値を満足し、そのバラツキが規格値の概ね50%以内で、下記の「評価対象項目」の3項目以上が該当する。	□ 出来形の測定が必要な測定項目について、所定の測定基準に基づき行われており、測定値が規格値を満足し、そのバラツキが規格値の概ね80%以内で、下記の「評価対象項目」の3項目以上が該当する。	□ 出来形の測定が必要な測定項目について、所定の測定基準に基づき行われており、測定値が規格値を満足し、そのバラツキが規格値の概ね80%以内で、下記の「評価対象項目」の2項目以上が該当する。	□ 出来形の測定が必要な測定項目について、所定の測定基準に基づき行われており、測定値が規格値を満足し、a～b’に該当しない。	出来形がやや不適切である。	出来形が不適切である。

「評価対象項目」
□ 出来形管理が容易に把握できるよう、出来形管理図及び出来形管理表を工夫していることが確認できる。
□ 社内管理基準に基づき管理していることが確認できる。
□ 不可視部分の出来形が写真で確認できる。
□ 写真管理基準等の管理項目を満足している。
□ 出来形管理基準が定められていない工種について、監督員と協議の上で管理していることが確認できる。
□ その他
　理由（　　）

① 出来形の評定は、工事全般を通したものとする。
② 出来形とは、設計図書に示された工事目的物の形状寸法である。
③ 出来形管理とは、「徳島県土木工事施工管理基準」の測定項目・測定基準及び規格値に基づく、形状寸法を確保する管理体系である。
④ ばらつきの考え方は別図参照。

□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員等が文書で改善指示を行った。

□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、検査規程第8条に基づき検査員等が、文書で修補指示を行った。

上記1項目該当・・・・・・ d
2項目該当・・・・・・ e

□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員等が改造請求を指示した。
または、検査規程第7条に基づき、契約担当者が修補工事の請求を行った。

上記項目該当があれば・・・e

別紙3-2-2

工事成績表の考査項目別運用表

［記入方法］該当する項目の□に レ マークを記入する。　　検査員

考査項目	工種		a	a’	b	b’	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ	機械設備工事		優れている	bより優れている	やや優れている	cより優れている	他の評価に該当しない	出来形がやや不適切である	出来形が不適切である
Ⅰ. 出来形			「評価対象項目」						
		1	□ 据付に関する出来形管理が容易に把握できるよう、出来形管理図などを工夫していることが確認できる。					□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員等が文書で改善指示を行った。	
		2	□ 設備全般にわたり、形状及び寸法の実測値が許容範囲内であり、出来形の確認ができる。						
		3	□ 施工管理基準の撮影記録が撮影基準を満足し、出来形の確認ができる。						
		4	□ 設計図書で定められていない出来形管理項目について、監督員と協議の上で管理していることが確認できる。					□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、検査規程第8条に基づき検査員等が文書で修補指示を行った。	
		5	□ 不可視部分の出来形が写真で確認できる。						
		6	□ 塗装管理基準の塗膜厚管理が適切にまとめられており、出来形の確認ができる。						
		7	□ 溶接管理基準の出来形管理が適切にまとめられており、出来形の確認ができる。						
		8	□ 社内の管理基準に基づき管理していることが確認できる。						
		9	□ 設計図書に定められている予備品に不足がないことが確認できる。						
		10	□ 分解整備における既設部品等の摩耗・損傷等について、整備前と整備後の老化状況及び回復状況を、図表等に記録していることが確認できる。						
		11	□ その他 理由（　　）					□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員等が改造請求を指示した。 または、検査規程第7条に基づき、契約担当者が修補工事の請求を行った。	
			① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は横線を引いて削除する。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率（%）計算の値で評価する。 ③ 対象評価項目数（　　）＝全項目数（ 11 ）-対象外項目数（　　） 評価値（　　%）＝評価数（　　）／対象評価項目数（　　） ④ なお、削除後の評価項目数が2項目以下の場合は c 評価とする。					上記1項目該当・・・・・・・・d 2項目該当・・・・・・・・e 上記項目該当があれば・・・・・e	
			●判断基準 該当項目が90%以上・・・・・・・・・・・・・・・・・a 該当項目が80%以上90%未満・・・・・・・・・a’ 該当項目が70%以上80%未満・・・・・・・・・b 該当項目が60%以上70%未満・・・・・・・・・b’ 該当項目が60%未満・・・・・・・・・・・・・・・・・c						

別紙3-2-3

工事成績表の考査項目別運用表

［記入方法］該当する項目の□に レ マークを記入する。　　検査員

考査項目	工種		a	a’	b	b’	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ	電気設備工事 通信設備工事 受変電設備工事		優れている	bより優れている	やや優れている	cより優れている	他の評価に該当しない	出来形がやや不適切である	出来形が不適切である
Ⅰ. 出来形	照明設備工事 その他類似工		「評価対象項目」						
		1	□ 据付に関する出来形管理が容易に把握できるよう、出来形管理図などを工夫していることが確認できる。					□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員等が文書で改善指示を行った。	
		2	□ 機器等の測定(試験)結果が、その都度管理図表などに記録され、適切に管理していることが確認できる。						
		3	□ 写真管理基準等の管理項目を満足している。					□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、検査規程第8条に基づき検査員等が文書で修補指示を行った。	
		4	□ 不可視部分の出来形が、写真で確認できる。						
		5	□ 設計図書で定められていない出来形管理項目について、監督員と協議の上で管理していることが確認できる。					上記1項目該当・・・・・・・・d	
		6	□ 設備全般にわたり、形状及び寸法の実測値が、許容範囲内であることが確認できる。					2項目該当・・・・・・・・e	
		7	□ 設備の据付・固定方法が、設計図書又は承諾書のとおり施工していることが確認できる。						
		8	□ 配管及び配線を、設計図書又は承諾図書通り敷設していることが確認できる。						
		9	□ 行き先などを表示した名札を、ケーブルなどにわかりやすく堅固に取り付けている。						
		10	□ 配管及び配線の支持間隔や絶縁抵抗等について、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。						
		11	□ 社内の管理基準に基づき管理していることが確認できる。					□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員等が改造請求を指示した。 または、検査規程第7条に基づき、契約担当者が修補工事の請求を行った。	
		12	□ その他 理由(　　)					上記項目該当があれば・・・・・e	

① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は横線を引いて削除する。
② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率(%)計算の値で評価する。
③ 対象評価項目数(　　)＝全項目数(12)-対象外項目数(　　)
　評価値(　　%)＝評価数(　　)／対象評価項目数(　　)
④ なお、削除後の評価項目数が2項目以下の場合は c 評価とする。

●判断基準
該当項目が90%以上・・・・・・・・・・・・・・・・・a
該当項目が80%以上90%未満・・・・・・・・・a’
該当項目が70%以上80%未満・・・・・・・・・b
該当項目が60%以上70%未満・・・・・・・・・b’
該当項目が60%未満・・・・・・・・・・・・・・・・・c

別紙3-2-4

工事成績表の考査項目別運用表

［記入方法］該当する項目の□に レ マークを記入する。　　検査員

考査項目	工種		a	a’	b	b’	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ	港湾ブロック据付工事		優れている	bより優れている	やや優れている	cより優れている	他の評価に該当しない	出来形がやや不適切である	出来形が不適切である
Ⅰ. 出来形			「評価対象項目」 1 □ 凹凸がないことが確認できる。 2 □ 幅・勾配が、定規等の範囲に、概ね入っていることが確認できる。 3 □ 天端が、計画高さから、ブロックの高さの概ね1／3以内である、ことが確認できる。 4 □ 据付個数の確認が、写真等で確認できる。 5 □ 全体的な美観が良い。 6 □ その他 理由（　　） ① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は横線を引いて削除する。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率（%）計算の値で評価する。 ③ 対象評価項目数（　　）＝全項目数（　６　）-対象外項目数（　　） 評価値（　　%）＝評価数（　　）／対象評価項目数（　　） ④ なお、削除後の評価項目数が2項目以下の場合は c 評価とする。 ●判断基準 該当項目が90%以上・・・・・・・・・・・・・・・・・a 該当項目が80%以上90%未満・・・・・・・・・a’ 該当項目が70%以上80%未満・・・・・・・・・b 該当項目が60%以上70%未満・・・・・・・・・b’ 該当項目が60%未満・・・・・・・・・・・・・・・・・c					□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員等が文書で改善指示を行った。 □ 測定方法又は測定値が不適切であったため、検査規程第8条に基づき検査員等が文書で修補指示を行った。 上記1項目該当・・・・・・　d 2項目該当・・・・・・　e □ 測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員等が改造請求を指示した。 または、検査規程第7条に基づき、契約担当者が修補工事の請求を行った。 上記項目該当があれば・・・・・e	

別紙3-3-1

工事成績表の考査項目別運用表

［記入方法］該当する項目の□に レ マークを記入する。　　検査員

考査項目	工種		a	a’	b	b’	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ Ⅱ. 品質	コンクリート構造物工事		□ 品質関係の試験結果のバラツキと評価対象項目の履行状況（評価値）から判断する。＜判断基準参照＞ ［関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験］ ＊ばらつきの判断は別図参照。						
			優れている	bより優れている	やや優れている	cより優れている	他の評価に該当しない	品質がやや不適切である	品質が不適切である
			「評価対象項目」						
		1	□ コンクリートの配合試験及び試験練りが行われており、コンクリートの品質（強度・W／C・最大骨材粒径・塩基総量・単位水量・アルカリ骨材反応等）が確認できる。					□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員等が文書で改善指示を行った。	
		2	□ コンクリート受け入れ時に必要な試験を実施しており、強度・スランプ・空気量等の測定結果が確認できる。						
		3	□ 圧縮強度試験に使用したコンクリート供試体が、当該現場の供試体であることが確認できる。					□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、検査員等が文書で、検査規程第8条に基づく修補指示を行った。	
		4	□ 施工条件及び気象条件に適した運搬時間・打設時の投入高さ・締固め方法が、定められた条件を満足していることが確認できる。（寒中及び暑中コンクリート等を含む）						
		5	□ コンクリートの圧縮強度を管理し、必要な強度に達した後に、型枠・支保工の取り外しを行っていることが確認できる。					上記1項目該当・・・・・・・・d 2項目該当・・・・・・・・ e	
		6	□ コンクリート打設前に、打ち継ぎ目処理を適切に行っていることが確認できる。						
		7	□ 鉄筋の品質が証明書類で確認できる。						
		8	□ コンクリート打設までに、さび・泥・油等の有害物が鉄筋に付着しないよう、管理していることが確認できる。						
		9	□ 鉄筋の組立・加工が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。						
		10	□ 圧接作業にあたり、作業員の技量確認をおこなっていることが確認できる。					□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員等が改造請求を指示した。 または、検査規程第7条に基づき、契約担当者が修補工事の請求を行った。	
		11	□ コンクリートの養生が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。						
		12	□ スペーサーの品質及び個数が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。						
		13	□ 有害なクラックがない。						
		14	□ その他 理由（　　）					上記項目該当があれば・・e	
			進行性または有害なクラックがある場合で、無処理の場合は状況に応じて、d 又は e とする。						
			① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は横線を引いて削除する。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率（%）計算の値で評価する。 ③ 対象評価項目数（　　）＝全項目数（ 14 ）-対象外項目数（　　） 評価値（　% ）＝評価数（　　）／対象評価項目数（　　） ④ なお、削除後の評価項目数が2項目以下の場合は c 評価とする。						

●判断基準

		ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能
		50%以下	80%以下	80%を超える	
評価値	90%以上	a	a’	b	b
	75%以上90%未満	a’	b	b’	b’
	60%以上75%未満	b	b’	c	c
	60%未満	b’	c	c	c

注） 試験結果の打点数等が少なく、ばらつきの判断ができない場合は、評価対象項目（評価値）だけで評価する。

別紙3-3-2

工事成績表の考査項目別運用表

［記入方法］該当する項目の□に レ マークを記入する。　　検査員

考査項目	工種		a	a’	b	b’	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ Ⅱ. 品質	土工事 (切土・盛土築堤等工事)		□ 品質関係の試験結果のバラツキと評価対象項目の履行状況（評価値）から判断する。＜判断基準参照＞ ［関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験］ ＊ばらつきの判断は別図参照。						
			優れている	bより優れている	やや優れている	cより優れている	他の評価に該当しない	品質がやや不適切である	品質が不適切である
			「評価対象項目」						
		1	□ 雨水による崩壊が起こらないように、排水対策を実施していることが確認できる。					□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員等が文書で改善指示を行った。	
		2	□ 段切りを設計図書に基づき行っていることが確認できる。						
		3	□ 置き換えのための掘削を行うにあたり、掘削面以下を乱さないように施工していることが確認できる。					□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、検査員等が文書で、検査規程第8条に基づく修補指示を行った。	
		4	□ 締固めが、設計図書に定められた条件を、満足していることが確認できる。						
		5	□ 1層当たりのまきだし厚さを管理していることが確認できる。					上記1項目該当・・・・・・・・d	
		6	□ 筋芝または種子吹き付けを、設計図書に定められた条件で行っていることが確認できる。					2項目該当・・・・・・・・ e	
		7	□ 構造物周辺の締固めを、設計図書に定められた条件で行っていることが確認できる。						
		8	□ 土羽土の土質が、設計図書を満足していることが確認できる。						
		9	□ CBR試験などの、品質管理に必要な試験を行っていることが確認できる。						
		10	□ 法面に有害な亀裂がない。					□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員等が改造請求を指示した。 または、検査規程第7条に基づき、契約担当者が修補工事の請求を行った。	
		11	□ 伐開除根作業が、設計図書に定められた条件を満足していることが確認できる。						
		12	□ その他 理由（　　）					上記項目該当があれば・・e	

① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は横線を引いて削除する。
② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率（%）計算の値で評価する。
③ 対象評価項目数（　　）＝全項目数（ 12 ）-対象外項目数（　　）
　評価値（　% ）＝評価数（　　）／対象評価項目数（　　）
④ なお、削除後の評価項目数が2項目以下の場合は c 評価とする。

●判断基準

		ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能
		50%以下	80%以下	80%を超える	
評価値	90%以上	a	a’	b	b
	75%以上90%未満	a’	b	b’	b’
	60%以上75%未満	b	b’	c	c
	60%未満	b’	c	c	c

注） 試験結果の打点数等が少なく、ばらつきの判断ができない場合は、評価対象項目（評価値）だけで評価する。

別紙3-3-3

工事成績表の考査項目別運用表

［記入方法］該当する項目の□に レ マークを記入する。　　検査員

考査項目	工種		a	a’	b	b’	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ Ⅱ. 品質	護岸・根固め・水制工事		□ 品質関係の試験結果のバラツキと評価対象項目の履行状況（評価値）から判断する。＜判断基準参照＞ ［関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験］ ＊ばらつきの判断は別図参照。						
			優れている	bより優れている	やや優れている	cより優れている	他の評価に該当しない	品質がやや不適切である	品質が不適切である
			「評価対象項目」						
		1	□ 施工基面を平滑に仕上げていることが確認できる。					□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員等が文書で改善指示を行った。	
		2	□ 裏込め材及び胴込めコンクリートの締固めを、空隙が生じないよう十分に行っていることが確認できる。						
		3	□ 緑化ブロック・石積み（張り）・法枠・かごマット等で、材料のかみ合わせ又は連結が適切で、裏込め材の吸い出しの恐れがない。					□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、検査員等が文書で、検査規程第8条に基づく修補指示を行った。	
		4	□ 石積み（張り）工において、大きさ及び重さが設計図書の仕様を満足していることが確認できる。						
		5	□ 護岸工の端部や曲線部の処理が適切であり、必要な強度及び水密性を確保していることが確認できる。						
		6	□ 遮水シートが所定の幅で重ね合わされ、端部処理が設計図書の仕様を満足していることが確認できる。						
		7	□ 植生工で、植生の種類・品質・配合及び養生が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。					上記1項目該当・・・・・・・・d 2項目該当・・・・・・・・ e	
		8	□ 根固め工・水制工・沈床工・捨て石工等において、材料の連結及びかみ合わせが設計図書の仕様を満足していることが確認できる。						
		9	□ 指定材料の品質が、証明書類で確認できる。						
		10	□ 基礎工において、掘りすぎがなく施工していることが確認できる。					□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員等が改造請求を指示した。 または、検査規程第7条に基づき、契約担当者が修補工事の請求を行った。	
		11	□ コンクリートブロック等を、損傷なく設置していることが確認できる。						
		12	□ 施工にあたって床堀箇所の湧き水及び滞水等は、排除して施工していることが確認できる。						
		13	□ 埋め戻し材料について、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。						
		14	□ 有害なクラックがない。						
		15	□ 搬入された矢板は、所要の規格を満足していることが確認できる。					上記項目該当があれば・・e	
		16	□ 打ち込み方法及び打ち込み精度が、適切であることが確認できる。						
		17	□ その他 理由（　　）						

① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は横線を引いて削除する。
② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率（%）計算の値で評価する。
③ 対象評価項目数（　　）＝全項目数（ 17 ）-対象外項目数（　　）
　評価値（　% ）＝評価数（　　）／対象評価項目数（　　）
④ なお、削除後の評価項目数が2項目以下の場合は c 評価とする。

●判断基準

		ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能
		50%以下	80%以下	80%を超える	
評価値	90%以上	a	a’	b	b
	75%以上90%未満	a’	b	b’	b’
	60%以上75%未満	b	b’	c	c
	60%未満	b’	c	c	c

注） 試験結果の打点数等が少なく、ばらつきの判断ができない場合は、評価対象項目（評価値）だけで評価する。

別紙3-3-4

工事成績表の考査項目別運用表

[記入方法] 該当する項目の□に レ マークを記入する。　　検査員

考査項目	工種		a	a'	b	b'	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ Ⅱ. 品質	舗装工事		□ 品質関係の試験結果のバラツキと評価対象項目の履行状況(評価値)から判断する。<判断基準参照> [関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験] ＊ばらつきの判断は別図参照。						
			優れている	bより優れている	やや優れている	cより優れている	他の評価に該当しない	品質がやや不適切である	品質が不適切である
			「評価対象項目」						
			[路床・路盤工関係]						
		1	□ 設計図書に定められた試験方法で、CBR試験を測定していることが確認できる。						
		2	□ 路床・路盤工のプルーフローリングを行っていることが確認できる。						
		3	□ 路床・路盤工の密度管理が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。						
		4	□ 路盤の安定処理は、材料が均一になるよう施工していることが確認できる。						
		5	□ 路盤の施工に先立って、路床面・下層路盤の浮石及び有害物を除去していることが確認できる。						
		6	□ 路床盛り土において、一層の仕上がり厚を20cm以下とし、各層ごとに締め固め施工していることが確認できる。						
		7	□ 路床盛り土において、構造物の隣接箇所や狭い箇所における締固めが、タンパ等の小型締め固め機械により施工していることが確認できる。						
		8	□ その他 理由(　　)						
			[アスファルト舗装工関係]						
		9	□ アスファルト混合物の品質が、配合設計及び試験練りの結果又は「徳島県土木工事用生アスファルト合材の品質審査要綱」の証明書類により確認できる。						
		10	□ 舗装工の施工に先立って、上層路盤の浮石および有害物を除去していることが確認できる。						
		11	□ プラント出荷時・現場到着時・舗設時において、アスファルト混合物の温度管理を記録していることが確認できる。						
		12	□ 舗設後の交通解放が、定められた条件を満足していることを確認できる。						
		13	□ 各層の継ぎ目の位置が、設計図書または仕様書に定められた数値以上に、ずらしていることが確認できる。						
		14	□ 縦継ぎ目及び横継ぎ目の位置・構造物との接合面の処理等が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。						
		15	□ アスファルト混合物の運搬及び舗設にあたって、気象条件を配慮していることが確認できる。						
		16	□ 密度管理が、設計図書の仕様を満足していることを確認できる。						
		17	□ 乳剤(プライムコート・タックコート)の塗布量が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。						
		18	□ その他 理由(　　)						
			[コンクリート舗装関係]						
		19	□ コンクリートの配合試験及び試験練りが行われており、コンクリートの品質(強度・W／C・最大骨材粒径・塩基総量・単位水量・アルカリ骨材反応等)が確認できる。						
		20	□ 舗装工の施工に先立って、上層路盤の浮石および有害物を除去していることが確認できる。						
		21	□ コンクリート受け入れ時に必要な試験を実施しており、強度・スランプ・空気量等の測定結果が確認できる。						
		22	□ 圧縮強度試験に使用したコンクリート供試体が、当該現場の供試体であることが確認できる。						
		23	□ 運搬時間・打設方法・養生方法が、施工条件及び気象条件に適しており、設計図書に定められた条件を満足していることが確認できる。						
		24	□ 材料が分離しないよう、コンクリートを敷き均していることが確認できる。						
		25	□ チェアー・タイバーを損傷などが発生しないよう保管していることが確認できる。						
		26	□ その他 理由(　　)						
								□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員等が文書で改善指示を行った。	
								□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、検査員等が文書で、検査規程第8条に基づく修補指示を行った。 上記1項目該当・・・・・・・・　d 2項目該当・・・・・・・・　e	
								□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員等が改造請求を指示した。 または、検査規程第7条に基づき、契約担当者が修補工事の請求を行った。 上記項目該当があれば・・・e	

① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は横線を引いて削除する。
② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率(%)計算の値で評価する。
③ 対象評価項目数(　　)＝全項目数(26)-対象外項目数(　　)
　評価値(　%)＝評価数(　　)／対象評価項目数(　　)
④ なお、削除後の評価項目数が2項目以下の場合は c 評価とする。

●判断基準

		ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能
		50%以下	80%以下	80%を超える	
評価値	90%以上	a	a'	b	b
	75%以上90%未満	a'	b	b'	b'
	60%以上75%未満	b	b'	c	c
	60%未満	b'	c	c	c

注) 試験結果の打点数等が少なく、ばらつきの判断ができない場合は、評価対象項目(評価値)だけで評価する。

別紙3-3-5

工事成績表の考査項目別運用表

［記入方法］ 該当する項目の□に レ マークを記入する。　　検査員

考査項目	工種		a	a’	b	b’	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ Ⅱ. 品質	基礎工工事 （地盤改良等を含む）		□ 品質関係の試験結果のバラツキと評価対象項目の履行状況（評価値）から判断する。＜判断基準参照＞ ［関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験］ ＊ばらつきの判断は別図参照。						
			優れている	bより優れている	やや優れている	cより優れている	他の評価に該当しない	品質がやや不適切である	品質が不適切である

「評価対象項目」

［杭関係（コンクリート、鋼管、鋼管井筒、場所打ち杭、深礎等）］

1 □ 杭に損傷及び補修痕がないことが確認できる。
2 □ 既製杭の打ち止め管理の方法、及び場所打ち杭の施工管理の方法が整備され、その記録を整理していることが確認できる。
3 □ 杭頭処理において、杭本体を損傷していないことが確認できる。
4 □ 水平度・鉛直度等が、設計図書を満足していることが確認できる。
5 □ 溶接の品質管理に関して、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
6 □ 支持地盤に達していることが、掘削深さ・掘削土砂等により確認できる。
7 □ 場所打ち杭について、トレミー管をコンクリート内に2m以上入れて、施工していることが確認できる。
8 □ 掘削深度・排出土砂・孔内水位の変動・及び安定液を用いる場合の孔内の安定液濃度・比重等が、設計図書を満足していることが確認できる。
9 □ 配筋・スペーサーの配置・及びコンクリートの打設等が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
10 □ ライナープレートの組立にあたり、偏心と歪みに配慮して施工していることが確認できる。
11 □ 裏込め材注入の圧力等が、施工記録により確認できる。
12 □ 強度確認・セメントミルクの比重管理などの、品質に係わる事項の管理資料を、整理していることが確認できる。
13 □ その他
理由（　　）

［地盤改良関係］

14 □ 改良材のバッチ管理記録が整備され、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
15 □ セメントミルクの比重・スラリー噴出量・強度等の管理資料を、整理していることが確認できる。
16 □ 事前に土質試験を実施し、改良材の選定・必要添加量の設定等を行っていることが確認できる。
17 □ 施工箇所が均一に改良されていると共に、充分な強度及び支持力を確保していることが確認できる。
18 □ その他
理由（　　）

□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員等が文書で改善指示を行った。

□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、検査員等が文書で、検査規程第8条に基づく修補指示を行った。

上記1項目該当・・・・・・・・ d
2項目該当・・・・・・・・ e

□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員等が改造請求を指示した。
または、検査規程第7条に基づき、契約担当者が修補工事の請求を行った。

上記項目該当があれば・・e

① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は横線を引いて削除する。
② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率（%）計算の値で評価する。
③ 対象評価項目数（　　）＝全項目数（ 18 ）-対象外項目数（　　）
評価値（　%）＝評価数（　　）／対象評価項目数（　　）
④ なお、削除後の評価項目数が2項目以下の場合は c 評価とする。

●判断基準

		ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能
		50%以下	80%以下	80%を超える	
評価値	90%以上	a	a’	b	b
	75%以上90%未満	a’	b	b’	b’
	60%以上75%未満	b	b’	c	c
	60%未満	b’	c	c	c

注） 試験結果の打点数等が少なく、ばらつきの判断ができない場合は、評価対象項目（評価値）だけで評価する。

別紙3-3-6

工事成績表の考査項目別運用表

［記入方法］該当する項目の□に レ マークを記入する。　　検査員

考査項目	工種	a	a’	b	b’	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ Ⅱ. 品質	現場打ち用水路及びコンクリート二次製品水路工事	品質関係の試験結果のバラツキと評価対象項目の履行状況（評価値）から判断する。＜判断基準参照＞ ［関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験］ ＊ばらつきの判断は別図参照。						
		優れている	bより優れている	やや優れている	cより優れている	他の評価に該当しない	品質がやや不適切である	品質が不適切である

「評価対象項目」

［現場打ち用水路］

1 □ 施工基面が平滑に仕上げられていることが確認できる。
2 □ 埋戻しは指定された厚さに敷きならした後、コンパクター等で十分締め固められていることが確認できる。
3 □ 基礎の施工にあたって、常に良好な排水状態を維持していることが確認できる。
4 □ コンクリート表面が平滑に仕上げられており、気泡による穴がないことが確認できる。
5 □ アンダードレイン及びウィープホールが、適正に取り付けられていることが確認できる。
6 □ 止水版・伸縮目地・ダウエルバーが、適正に設置されていることが確認できる。
7 □ その他
　理由（　　）

［コンクリート二次製品、排水柵渠］

8 □ 施工基面が平滑に仕上げられていることが確認できる。
9 □ 埋戻しは指定された厚さに敷きならした後、コンパクター等で十分締め固められていることが確認できる。
10 □ 基礎の施工にあたって、常に良好な排水状態を維持していることが確認できる。
11 □ H鋼や二次製品に、損傷がみられないことが確認できる。
12 □ 水路の継ぎ目が、設計図書等の仕様に基づき、適切に施工されていることが確認できる。
13 □ 水路底の高さが、受台や基礎により調整され、平滑に仕上げられていることが確認できる。
14 □ 材料の品質が、証明書類で確認できる。
15 □ 二次製品の保管、吊り込み等に十分注意を払っていることが確認できる。
16 □ その他
　理由（　　）

□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員等が文書で改善指示を行った。

□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、検査員等が文書で、検査規程第8条に基づく修補指示を行った。

上記1項目該当・・・・・・・・d
2項目該当・・・・・・・・ e

□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員等が改造請求を指示した。
または、検査規程第7条に基づき、契約担当者が修補工事の請求を行った。

上記項目該当があれば・・e

① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は横線を引いて削除する。
② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率（%）計算の値で評価する。
③ 対象評価項目数（　　）＝全項目数（ 16 ）-対象外項目数（　　）
　評価値（　% ）＝評価数（　　）／対象評価項目数（　　）
④ なお、削除後の評価項目数が2項目以下の場合は c 評価とする。

●判断基準

		ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能
		50%以下	80%以下	80%を超える	
評価値	90%以上	a	a’	b	b
	75%以上90%未満	a’	b	b’	b’
	60%以上75%未満	b	b’	c	c
	60%未満	b’	c	c	c

注） 試験結果の打点数等が少なく、ばらつきの判断ができない場合は、評価対象項目（評価値）だけで評価する。

別紙3-3-7

工事成績表の考査項目別運用表

［記入方法］該当する項目の□に レ マークを記入する。　　検査員

考査項目	工種		a	a’	b	b’	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ Ⅱ. 品質	ブロック舗装工事 （ｲﾝﾀｰﾛｯｷﾝｸﾞ・タイル系舗装）		品質関係の試験結果のバラツキと評価対象項目の履行状況（評価値）から判断する。＜判断基準参照＞ ［関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験］ ＊ばらつきの判断は別図参照。						
			優れている	bより優れている	やや優れている	cより優れている	他の評価に該当しない	品質がやや不適切である	品質が不適切である

「評価対象項目」

1 □ 路盤層はコンパクター等で十分に締め固められ、平坦に仕上げられていることが確認できる。
2 □ 基礎の施工にあたっては、常に良好な排水状態を維持していることが確認できる。
3 □ クッション材は必要な厚さで敷均し、転圧して所定の高さに仕上げられていることが確認できる。
4 □ ブロック敷設完了後、ブロック層の転圧が適切に行われていることが確認できる。
5 □ 目地の通りが確保され、ブロック表面まで目地材で目地詰めが、均一に十分充填されていることが確認できる。
6 □ 端部にはカットブロックやエンドブロックを使用し、適切に施工されていることが確認できる。
7 □ ブロックに損傷がみられない。
8 □ クッション材および目地材の規格が証明書類で確認できる。
9 □ ブロックの規格が証明書類で確認できる。
10 □ その他
理由（　　）

□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員等が文書で改善指示を行った。

□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、検査員等が文書で、検査規程第8条に基づく修補指示を行った。

上記1項目該当・・・・・・・・d
2項目該当・・・・・・・・ e

□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員等が改造請求を指示した。
または、検査規程第7条に基づき、契約担当者が修補工事の請求を行った。

上記項目該当があれば・・e

① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は横線を引いて削除する。
② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率（%）計算の値で評価する。
③ 対象評価項目数（　　）＝全項目数（ 10 ）-対象外項目数（　　）
評価値（　% ）＝評価数（　　）／対象評価項目数（　　）
④ なお、削除後の評価項目数が2項目以下の場合は c 評価とする。

●判断基準

		ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能
		50%以下	80%以下	80%を超える	
評価値	90%以上	a	a’	b	b
	75%以上90%未満	a’	b	b’	b’
	60%以上75%未満	b	b’	c	c
	60%未満	b’	c	c	c

注） 試験結果の打点数等が少なく、ばらつきの判断ができない場合は、評価対象項目（評価値）だけで評価する。

別紙3-3-8

工事成績表の考査項目別運用表

［記入方法］該当する項目の□に レ マークを記入する。　　検査員

考査項目	工種		a	a’	b	b’	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ Ⅱ. 品質	解体工事		品質関係の試験結果のバラツキと評価対象項目の履行状況（評価値）から判断する。＜判断基準参照＞ ［関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験］ ＊ばらつきの判断は別図参照。						
			優れている	bより優れている	やや優れている	cより優れている	他の評価に該当しない	品質がやや不適切である	品質が不適切である
			「評価対象項目」						
		1	□ 建設廃棄物の処分記録の内容が、適切であることが確認できる。						
		2	□ 各施工段階ごとの施工状況が、施工計画書等に基づき適切であることが確認できる。						
		3	□ 整地等における施工の品質が、良好であることが確認できる。						
		4	□ 各施工段階ごとに、施工品質確認のための工事写真・施工記録等が、整備されていることが確認できる。						
		5	□ 解体施工等において、品質確保のための工夫をしていることが確認できる。						
		6	□ 中間検査や既済検査で、工夫や良好な施工の品質が、継続して確認できる。						
		7	□ その他 理由（　　）						
								□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員等が文書で改善指示を行った。 □ 測定方法又は測定値が不適切であったため、検査員等が文書で、検査規程第8条に基づく修補指示を行った。 上記1項目該当・・・・・・・・d 2項目該当・・・・・・・・ e □ 測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員等が改造請求を指示した。 または、検査規程第7条に基づき、契約担当者が修補工事の請求を行った。 上記項目該当があれば・・e	
			① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は横線を引いて削除する。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率（%）計算の値で評価する。 ③ 対象評価項目数（　　）＝全項目数（　7　）-対象外項目数（　　） 評価値（　%　）＝評価数（　　）／対象評価項目数（　　） ④ なお、削除後の評価項目数が2項目以下の場合は c 評価とする。 ●判断基準 該当項目が90%以上・・・・・・・・・・・・・・・・・a 該当項目が80%以上90%未満・・・・・・・・・a’ 該当項目が70%以上80%未満・・・・・・・・・b 該当項目が60%以上70%未満・・・・・・・・・b’ 該当項目が60%未満・・・・・・・・・・・・・・・・・c						

別紙3-3-9

工事成績表の考査項目別運用表

［記入方法］該当する項目の□に レ マークを記入する。　　検査員

考査項目	工種		a	a’	b	b’	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ Ⅱ. 品質	補強土壁工事		品質関係の試験結果のバラツキと評価対象項目の履行状況（評価値）から判断する。＜判断基準参照＞ ［関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験］ ＊ばらつきの判断は別図参照。						
			優れている	bより優れている	やや優れている	cより優れている	他の評価に該当しない	品質がやや不適切である	品質が不適切である
			「評価対象項目」						
		1	□ 施工基面の整正は人力のより施工され、重機等による乱れがないことが確認できる。					□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員等が文書で改善指示を行った。	
		2	□ 補強土工に使用する締固め機械が、適切であることが確認できる。 （壁面から1m以内及び隅角部は、タンパーまたは小型振動ローラーで締固めているか）						
		3	□ 基礎底面は、水平または表面排水に必要な勾配が、確保されていることが確認できる。					□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、検査員等が文書で、検査規程第8条に基づく修補指示を行った。 上記1項目該当・・・・・・・・d 2項目該当・・・・・・・・ e	
		4	□ 湧水がある場合は、排水対策が講じられていることが確認できる。						
		5	□ 盛土材が設計図書を満足していることが確認できる。						
		6	□ 盛土材料のまき出し・敷均しは、壁面工側から順次、奥側に施工されていることが確認できる。						
		7	□ 盛土に先行して組み立てられる壁面工が、2段までとされていることが確認できる。						
		8	□ 補強材敷設において、必要なラップ長が確保されていることが確認できる。						
		9	□ 盛土1層当たりの仕上がり厚が、30cm以下かつユニット高の半分で施工されていることが確認できる。						
		10	□ その他 理由（　　）					□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員等が改造請求を指示した。 または、検査規程第7条に基づき、契約担当者が修補工事の請求を行った。 上記項目該当があれば・・e	

① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は横線を引いて削除する。
② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率（%）計算の値で評価する。
③ 対象評価項目数（　　）＝全項目数（ 10 ）-対象外項目数（　　）
　評価値（　% ）＝評価数（　　）／対象評価項目数（　　）
④ なお、削除後の評価項目数が2項目以下の場合は c 評価とする。

●判断基準

		ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能
		50%以下	80%以下	80%を超える	
評価値	90%以上	a	a’	b	b
	75%以上90%未満	a’	b	b’	b’
	60%以上75%未満	b	b’	c	c
	60%未満	b’	c	c	c

注） 試験結果の打点数等が少なく、ばらつきの判断ができない場合は、評価対象項目（評価値）だけで評価する。

別紙3-3-10

工事成績表の考査項目別運用表

［記入方法］該当する項目の□に レ マークを記入する。　　検査員

考査項目	工種		a	a’	b	b’	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ Ⅱ. 品質	軽量盛土工事		品質関係の試験結果のバラツキと評価対象項目の履行状況（評価値）から判断する。＜判断基準参照＞ ［関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験］ ＊ばらつきの判断は別図参照。						
			優れている	bより優れている	やや優れている	cより優れている	他の評価に該当しない	品質がやや不適切である	品質が不適切である
			「評価対象項目」						
		1	□ 盛土材（EPS・FCB）・アンカー等の品質が、証明書等で確認できる。					□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員等が文書で改善指示を行った。	
		2	□ 盛土材（EPS・FCB）・アンカー等の、施工管理状況の良さが確認できる。						
		3	□ 盛土材（EPS・FCB）の、設置状況及び打設状況の良さが確認できる。					□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、検査員等が文書で、検査規程第8条に基づく修補指示を行った。	
		4	□ 材料の保管状況の良さが確認できる。						
		5	□ パネルの間詰め状況の良さが確認できる。					上記1項目該当・・・・・・・・d 2項目該当・・・・・・・・ e	
		6	□ 遮水シート・防水シートで、所定の重ね合わせ・端部処理が、設計図書の仕様を満足していることを確認できる。						
		7	□ 圧縮強度試験に使用した供試体が、当該現場の供試体であることが確認できる。					□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員等が改造請求を指示した。 または、検査規程第7条に基づき、契約担当者が修補工事の請求を行った。	
		8	□ エアーモルタルの試験練りが行われており、モルタルの品質が確認できる。						
		9	□ その他 理由（　　）					上記項目該当があれば・・e	

① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は横線を引いて削除する。
② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率（%）計算の値で評価する。
③ 対象評価項目数（　　）＝全項目数（　9　）-対象外項目数（　　）
　評価値（　%　）＝評価数（　　）／対象評価項目数（　　）
④ なお、削除後の評価項目数が2項目以下の場合は c 評価とする。

●判断基準

		ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能
		50%以下	80%以下	80%を超える	
評価値	90%以上	a	a’	b	b
	75%以上90%未満	a’	b	b’	b’
	60%以上75%未満	b	b’	c	c
	60%未満	b’	c	c	c

注）試験結果の打点数等が少なく、ばらつきの判断ができない場合は、評価対象項目（評価値）だけで評価する。

別紙3-3-11

工事成績表の考査項目別運用表

［記入方法］該当する項目の□に レ マークを記入する。　　検査員

考査項目	工種		a	a’	b	b’	c	d	e
3．出来形及び出来ばえ Ⅱ．品質	法面工事		□ 品質関係の試験結果のバラツキと評価対象項目の履行状況（評価値）から判断する。＜判断基準参照＞ ［関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験］ ＊ばらつきの判断は別図参照。						
			優れている	bより優れている	やや優れている	cより優れている	他の評価に該当しない	品質がやや不適切である	品質が不適切である
			「評価対象項目」 **［共通］**					□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員等が文書で改善指示を行った。	
		1	□ 施工基面が平滑に仕上げられている。（特に法枠工、コンクリートまたはモルタル吹き付け工関係。）						
		2	□ 施工に際して、品質に害となる施工面の浮石やゴミ等を除去してから、施工していることが確認できる。						
		3	□ 盛り土の施工にあたり、法面の崩壊が起こらないよう、締固めを十分おこなっていることが確認できる。						
		4	□ 雨水による崩壊がおこらないように、排水対策を実施していることが確認できる。					□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、検査員等が文書で、検査規程第8条に基づく修補指示を行った。	
		5	□ その他 理由（　　）						
			［種子吹き付け工、客土吹き付け工、植生基材吹き付け工関係］					上記1項目該当・・・・・・・・ d 2項目該当・・・・・・・・ e	
		6	□ 土壌試験を実施し、施工に反映していることが確認できる。						
		7	□ ネット等の境界に、隙間が生じていないことが確認できる。						
		8	□ ネット等が破損を生じていないことが確認できる。						
		9	□ 吹き付け厚さが均等であることが確認できる。					□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員等が改造請求を指示した。 または、検査規程第7条に基づき、契約担当者が修補工事の請求を行った。	
		10	□ 使用する材料の種類・品質・配合等が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。						
		11	□ 施工時期が、定められた条件を満足していることが確認できる。						
		12	□ その他 理由（　　）					上記項目該当があれば・・・e	
			［コンクリートまたはモルタル吹き付け工関係］						
		13	□ 使用する材料の種類・品質・配合等が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。						
		14	□ 金網等の重ね幅が、10cm以上確保されていることが確認できる。						
		15	□ 金網が破損を生じていないことが確認できる。						
		16	□ 吸水性の吹き付け面において、事前に吸水させてから施工していることが確認できる。						
		17	□ 吹き付け厚さが均等であることが確認できる。						
		18	□ 吹き付け厚さに応じて、2層以上に分割して施工していることが確認できる。						
		19	□ 圧縮強度試験に使用したコンクリート供試体が、当該現場の供試体であることが確認できる。						
		20	□ 不良箇所が生じないよう、跳ね返り材料の処理を行っていることが確認できる。						
		21	□ 法肩の吹き付けにあたり、地山に沿って巻き込んで施工していることが確認できる。						
		22	□ その他 理由（　　）						
			［現場打ち法枠工関係（プレキャスト法枠工を含む）］						
		23	□ 使用する材料の種類・品質・配合等が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。						
		24	□ アンカーを設計図書どおりの長さで、施工していることが確認できる。						
		25	□ 現場養生が設計図書の仕様を満足するよう、実施されていることが確認できる。						
		26	□ 強度試験に使用したコンクリート供試体が、当該現場の供試体であることが確認できる。						
		27	□ 枠内に空隙がないことが確認できる。						
		28	□ 層間にはく離がないことが確認できる。						
		29	□ 不良箇所が生じないよう、跳ね返り材料の処理を行っていることが確認できる。						
		30	□ その他 理由（　　）						
			① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は横線を引いて削除する。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率（%）計算の値で評価する。 ③ 対象評価項目数（　　）＝全項目数（ 30 ）-対象外項目数（　　） 評価値（　%）＝評価数（　　）／対象評価項目数（　　） ④ なお、削除後の評価項目数が2項目以下の場合は c 評価とする。						

●判断基準

		ばらつきで判断可能			ばらつきで判断
		50%以下	80%以下	80%を超える	不可能
評価値	90%以上	a	a’	b	b
	75%以上90%未満	a’	b	b’	b’
	60%以上75%未満	b	b’	c	c
	60%未満	b’	c	c	c

注） 試験結果の打点数等が少なく、ばらつきの判断ができない場合は、評価対象項目（評価値）だけで評価する。

別紙3-3-12

工事成績表の考査項目別運用表

［記入方法］該当する項目の□に レ マークを記入する。　　検査員

考査項目	工種		a	a’	b	b’	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ Ⅱ. 品質	法面工事 (ｶｰﾃﾝﾈｯﾄ工・CCM協会用)		品質関係の試験結果のバラツキと評価対象項目の履行状況（評価値）から判断する。＜判断基準参照＞ ［関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験］ ＊ばらつきの判断は別図参照。						
			優れている	bより優れている	やや優れている	cより優れている	他の評価に該当しない	品質がやや不適切である	品質が不適切である
			「評価対象項目」						
		1	□ 縦・横ロープの通りがよく、金網に関しても緩み・たるみ等がないことが確認できる。					□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員等が文書で改善指示を行った。	
		2	□ 使用部材の仕様・耐力・規格寸法は、技術仕様・仕様書・強度計算等を満足していることが確認できる。						
		3	□ 法面勾配・地質状況等を考慮し、アンカー（岩盤用・土砂部用）が基準通りに施工され、かつアンカー方向が適切であることが確認できる。					□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、検査員等が文書で、検査規程第8条に基づく修補指示を行った。	
		4	□ 地形的にカーテンネット工の能力が落ちる場合は、補助工法を併用し、設計図書を満足した施工がなされていることを確認できる。					上記1項目該当・・・・・・・・d 2項目該当・・・・・・・・ e	
		5	□ 支柱の設置位置・支柱長さ・建込み角度が適正で、落石を受ける開口部が十分に確保され、施工されていることが確認できる。						
		6	□ 支柱設置位置の地質により、岩盤用・土砂部用の使い分けが、設計図書の仕様を満足していることを確認できる。						
		7	□ アンカーの品質確認検査が、適切に行われていることが確認できる。						
		8	□ ロープの間隔・金網の重ねしろが、設計図書の仕様を満足していることを確認できる。						
		9	□ 使用材料の設置までの保管管理が、適切であることが確認できる。					□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員等が改造請求を指示した。 または、検査規程第7条に基づき、契約担当者が修補工事の請求を行った。	
		10	□ その他 理由（　　）					上記項目該当があれば・・e	

アンカーの品質確認検査

岩盤部用アンカー
- 最上段横・吊りロープ用アンカー　・・・・・・・・ 耐力確認（引き抜き）試験 ： 施工本数の25%
- 支柱用アンカー　・・・・・・・・・耐力確認（引き抜き）試験 ： 施工本数の50%
- 横・支柱サイド控えロープ用アンカー　・・・・・・・・・耐力確認（引き抜き）試験 ： 施工本数の20%

土砂部用アンカー
- 最上段横・吊りロープ用エフアールアンカー　・・・・・付着力確認試験 ： 供試体1群当たり1本
- 横・支柱サイド控えロープ用エフアールアンカー　・・耐力確認試験（横方向引張試験）： 1本

＊（引張試験が困難な場合は、供試体アンカーで確認試験を行う）

① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は横線を引いて削除する。
② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率（%）計算の値で評価する。
③ 対象評価項目数（　　）＝全項目数（ 10 ）-対象外項目数（　　）
　評価値（　% ）＝評価数（　　）／対象評価項目数（　　）
④ なお、削除後の評価項目数が2項目以下の場合は c 評価とする。

●判断基準

		ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能
		50%以下	80%以下	80%を超える	
評価値	90%以上	a	a’	b	b
	75%以上90%未満	a’	b	b’	b’
	60%以上75%未満	b	b’	c	c
	60%未満	b’	c	c	c

注） 試験結果の打点数等が少なく、ばらつきの判断ができない場合は、評価対象項目（評価値）だけで評価する。

別紙3-3-13

工事成績表の考査項目別運用表

［記入方法］該当する項目の□に レ マークを記入する。　　検査員

考査項目	工種		a	a’	b	b’	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ Ⅱ. 品質	法面工事 (ﾛｯｸﾈｯﾄ工)		品質関係の試験結果のバラツキと評価対象項目の履行状況（評価値）から判断する。＜判断基準参照＞ ［関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験］ ＊ばらつきの判断は別図参照。						
			優れている	bより優れている	やや優れている	cより優れている	他の評価に該当しない	品質がやや不適切である	品質が不適切である

「評価対象項目」

［共通］

1 □ 縦・横ロープの通りがよく、金網に関しても緩み・たるみ等がないことが確認できる。
2 □ 使用部材の仕様・耐力・規格寸法は、技術資料・仕様書・強度計算等を満足していることが確認できる。
3 □ 法面勾配・地質状況等を考慮し、アンカー（岩盤用・土砂部用）が基準通りに施工され、かつアンカー方向が適切であることが確認できる。
4 □ アンカーの品質確認検査が、適切に行われていることが確認できる。
5 □ ロープの間隔・金網の重ねしろが、設計図書の仕様を満足していることを確認できる。
6 □ 結合コイル・クロスクリップ等の配置が、設計図書の仕様を満足していることを確認できる。
7 □ 使用材料の設置までの保管管理が、適切であることが確認できる。
8 □ その他
理由（　　）

［ポケット式］

9 □ 支柱の設置位置・支柱長さ・建込み角度が適正で、落石を受ける開口部が十分に確保され、施工されていることが確認できる。
10 □ 支柱設置位置の地質により、岩盤用・土砂部用の使い分けが、設計図書の仕様を満足していることを確認できる。

□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員等が文書で改善指示を行った。

□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、検査員等が文書で、検査規程第8条に基づく修補指示を行った。

上記1項目該当・・・・・・・・d
2項目該当・・・・・・・・ e

□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員等が改造請求を指示した。
または、検査規程第7条に基づき、契約担当者が修補工事の請求を行った。

上記項目該当があれば・・e

アンカーの品質確認検査

岩盤用　・・・・・・・・・・・・ 軸方向引張試験 ： 施工本数の20%、もしくわ最小本数3本
土砂部用　・・・・・・・・・・・・ 横方向引張試験 ： 施工本数が10本以上の場合は供試体2本
施工本数が10本未満の場合は供試体1本

① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は横線を引いて削除する。
② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率（%）計算の値で評価する。
③ 対象評価項目数（　　）＝全項目数（ 10 ）-対象外項目数（　　）
評価値（　% ）＝評価数（　　）／対象評価項目数（　　）
④ なお、削除後の評価項目数が2項目以下の場合は c 評価とする。

●判断基準

		ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能
		50%以下	80%以下	80%を超える	
評価値	90%以上	a	a’	b	b
	75%以上90%未満	a’	b	b’	b’
	60%以上75%未満	b	b’	c	c
	60%未満	b’	c	c	c

注） 試験結果の打点数等が少なく、ばらつきの判断ができない場合は、評価対象項目（評価値）だけで評価する。

別紙3-3-14

工事成績表の考査項目別運用表

［記入方法］該当する項目の□に レ マークを記入する。　　検査員

考査項目	工種		a	a’	b	b’	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ Ⅱ. 品質	法面工事 (ﾛｰﾌﾟネットエ CCM協会用)		品質関係の試験結果のバラツキと評価対象項目の履行状況（評価値）から判断する。＜判断基準参照＞ ［関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験］ ＊ばらつきの判断は別図参照。						
			優れている	bより優れている	やや優れている	cより優れている	他の評価に該当しない	品質がやや不適切である	品質が不適切である
			「評価対象項目」						
		1	□ 縦・横ロープの通りがよく、金網に関しても緩み・たるみ等がなく、斜面の起伏に密着し、押さえ込みができていることが確認できる。					□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員等が文書で改善指示を行った。	
		2	□ 使用部材の仕様・耐力・規格寸法は、技術資料・仕様書・強度計算等を満足していることが確認できる。						
		3	□ アンカーは設置位置の地質により、決められた選定フロー図等に従って使い分けができ、基準通りに施工されていることが確認できる。					□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、検査員等が文書で、検査規程第8条に基づく修補指示を行った。	
		4	□ アンカーは、設置間隔・法面勾配・風化状況・亀裂の状態等を考慮し、適切に配置されていることが確認できる。						
		5	□ 地形的にロープネットエの機能が損なわれる場合は、補助工法を併用し、設計図書を満足する施工がなされていることが確認できる。					上記1項目該当・・・・・・・・d 2項目該当・・・・・・・・ e	
		6	□ アンカーの品質確認検査が、適切に行われていることが確認できる。						
		7	□ ロープ・十字グリップ等の主要部材の品質が、性能確認試験等で確認できる。						
		8	□ ロープが十字グリップ等で、適切に配置・締結されていることが確認できる。						
		9	□ 使用材料の設置までの保管管理が、適切であることが確認できる。					□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員等が改造請求を指示した。 または、検査規程第7条に基づき、契約担当者が修補工事の請求を行った。	
		10	□ その他 理由（　　）						
			アンカーの品質確認検査 岩盤用　・・・・・・・・・・・・軸方向引張試験：施工本数の5%、もしくわ最小本数3本 土被り部用　・・・・・・・・・・軸方向引張試験：施工本数の5%、もしくわ最小本数3本 横方向引張試験：施工本数が10本以上の場合は供試体2本 施工本数が10本未満の場合は供試体1本 土砂部用　・・・・・・・・・・・横方向引張試験：施工本数が10本以上の場合は供試体2本 施工本数が10本未満の場合は供試体1本					上記項目該当があれば・・e	
			① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は横線を引いて削除する。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率（%）計算の値で評価する。 ③ 対象評価項目数（　　）＝全項目数（ 10 ）-対象外項目数（　　） 評価値（　% ）＝評価数（　　）／対象評価項目数（　　） ④ なお、削除後の評価項目数が2項目以下の場合は c 評価とする。						

●判断基準

		ばらつきで判断可能			ばらつきで判断
		50%以下	80%以下	80%を超える	不可能
評価値	90%以上	a	a’	b	b
	75%以上90%未満	a’	b	b’	b’
	60%以上75%未満	b	b’	c	c
	60%未満	b’	c	c	c

注） 試験結果の打点数等が少なく、ばらつきの判断ができない場合は、評価対象項目（評価値）だけで評価する。

別紙3-3-15

工事成績表の考査項目別運用表

［記入方法］該当する項目の□に レ マークを記入する。　　検査員

考査項目	工種		ⓐ	ⓐ’	b	b’	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ Ⅱ. 品質	アンカー工事		品質関係の試験結果のバラツキと評価対象項目の履行状況（評価値）から判断する。＜判断基準参照＞ ［関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験］ ＊ばらつきの判断は別図参照。						
			優れている	bより優れている	やや優れている	cより優れている	他の評価に該当しない	品質がやや不適切である	品質が不適切である
			「評価対象項目」					□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員等が文書で改善指示を行った。 □ 測定方法又は測定値が不適切であったため、検査員等が文書で、検査規程第8条に基づく修補指示を行った。 上記1項目該当・・・・・・・・d 2項目該当・・・・・・・・ e □ 測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員等が改造請求を指示した。 または、検査規程第7条に基づき、契約担当者が修補工事の請求を行った。 上記項目該当があれば・・e	
		1	□ 材料の品質確認で、証明書と現物照合ができることが確認できる。						
		2	□ 材料の保管管理が適正で、傷・損傷等がないことが確認できる。						
		3	□ 削孔・材料の設置等の施工管理状況が、適正であることが確認できる。						
		4	□ 受圧板の配筋や打設等の施工管理状況が、写真等の資料で十分確認できる。						
		5	□ 品質確認試験が、基準に基づいて適正に行われていることが確認できる。						
		6	□ その他						
		7	□ その他						
		8	□ その他						

① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は横線を引いて削除する。
② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率（%）計算の値で評価する。
③ 対象評価項目数（　　）＝全項目数（　8　）-対象外項目数（　　）
　評価値（　%　）＝評価数（　　）／対象評価項目数（　　）
④ なお、削除後の評価項目数が2項目以下の場合は c 評価とする。

●判断基準

		ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能
		50%以下	80%以下	80%を超える	
評価値	90%以上	a	a’	b	b
	75%以上90%未満	a’	b	b’	b’
	60%以上75%未満	b	b’	c	c
	60%未満	b’	c	c	c

注）試験結果の打点数等が少なく、ばらつきの判断ができない場合は、評価対象項目（評価値）だけで評価する。

別紙3-3-16

工事成績表の考査項目別運用表

［記入方法］該当する項目の□に レ マークを記入する。　　検査員

考査項目	工種		a	a’	b	b’	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ Ⅱ. 品質	暗渠排水管工事		品質関係の試験結果のバラツキと評価対象項目の履行状況（評価値）から判断する。＜判断基準参照＞ ［関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験］ ＊ばらつきの判断は別図参照。						
			優れている	bより優れている	やや優れている	cより優れている	他の評価に該当しない	品質がやや不適切である	品質が不適切である
			「評価対象項目」					□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員等が文書で改善指示を行った。 □ 測定方法又は測定値が不適切であったため、検査員等が文書で、検査規程第8条に基づく修補指示を行った。 上記1項目該当・・・・・・・・d 2項目該当・・・・・・・・ e □ 測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員等が改造請求を指示した。 または、検査規程第7条に基づき、契約担当者が修補工事の請求を行った。 上記項目該当があれば・・e	
		1	□ 排水管材料の品質が、材料証明書で確認できる。						
		2	□ 排水管材料の保管管理が適切で、傷・損傷等がないことが確認できる。						
		3	□ 排水管の埋設時に、床掘面が十分に締固められていることが確認できる。						
		4	□ 排水管の埋設時に、砕石等が設計通りに使用されていることが確認できる。						
		5	□ 排水管の埋設延長が、管理写真等で確認できる。						
		6	□ その他						
		7	□ その他						
		8	□ その他						

① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は横線を引いて削除する。
② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率（%）計算の値で評価する。
③ 対象評価項目数（　　）＝全項目数（　8　）-対象外項目数（　　）
　評価値（　%　）＝評価数（　　）／対象評価項目数（　　）
④ なお、削除後の評価項目数が2項目以下の場合は c 評価とする。

●判断基準

		ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能
		50%以下	80%以下	80%を超える	
評価値	90%以上	a	a’	b	b
	75%以上90%未満	a’	b	b’	b’
	60%以上75%未満	b	b’	c	c
	60%未満	b’	c	c	c

注）試験結果の打点数等が少なく、ばらつきの判断ができない場合は、評価対象項目（評価値）だけで評価する。

別紙3-3-17

工事成績表の考査項目別運用表

［記入方法］該当する項目の□にレ マークを記入する。　　検査員

考査項目	工種		a	ⓐ’	b	b’	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ Ⅱ. 品質	鋼製ふとん籠工事		品質関係の試験結果のバラツキと評価対象項目の履行状況（評価値）から判断する。＜判断基準参照＞ ［関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験］ ＊ばらつきの判断は別図参照。						
			優れている	bより優れている	やや優れている	cより優れている	他の評価に該当しない	品質がやや不適切である	品質が不適切である
			「評価対象項目」					□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員等が文書で改善指示を行った。 □ 測定方法又は測定値が不適切であったため、検査員等が文書で、検査規程第8条に基づく修補指示を行った。 上記1項目該当・・・・・・・・d 2項目該当・・・・・・・・ e □ 測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員等が改造請求を指示した。 または、検査規程第7条に基づき、契約担当者が修補工事の請求を行った。 上記項目該当があれば・・e	
		1	□ 施工基面が、平滑に仕上げられていることが確認できる。						
		2	□ 材料の組立・設置が適切で、変位が生じていないことが確認できる。						
		3	□ 材料の品質・形状が、品質証明書及び写真で確認できる。						
		4	□ 中詰め石の大きさ・施工が、良好であることが確認できる。						
		5	□ 吸い出し防止材が、適切に施工されていることが確認できる。						
		6	□ その他						
		7	□ その他						
		8	□ その他						

① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は横線を引いて削除する。
② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率（%）計算の値で評価する。
③ 対象評価項目数（　　）＝全項目数（　8　）-対象外項目数（　　）
　評価値（　%　）＝評価数（　　）／対象評価項目数（　　）
④ なお、削除後の評価項目数が2項目以下の場合はｃ評価とする。

●判断基準

		ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能
		50%以下	80%以下	80%を超える	
評価値	90%以上	a	a’	b	b
	75%以上90%未満	a’	b	b’	b’
	60%以上75%未満	b	b’	c	c
	60%未満	b’	c	c	c

注）　試験結果の打点数等が少なく、ばらつきの判断ができない場合は、評価対象項目（評価値）だけで評価する。

別紙3-3-18

工事成績表の考査項目別運用表

［記入方法］ 該当する項目の□に レ マークを記入する。　　検査員

考査項目	工種		a	a’	b	b’	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ Ⅱ. 品質	鋼橋工事 （RC床版工事はコンクリート構造物に準じる） （堰・水門等工場製作の鋼構造物を含む）		□ 品質関係の試験結果のバラツキと評価対象項目の履行状況（評価値）から判断する。＜判断基準参照＞ ［関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験］ ＊ばらつきの判断は別図参照。						
			優れている	bより優れている	やや優れている	cより優れている	他の評価に該当しない	品質がやや不適切である	品質が不適切である
			「評価対象項目」 **［工場製作関係］**					□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員等が文書で改善指示を行った。	
		1	□ 鋼材の種別を、品質を証明する書類または現物により、照合していることが確認できる。						
		2	□ 溶接作業にあたり、作業員の技量確認を行っていることが確認できる。						
		3	□ 溶接作業にあたり、溶接材料の使用区分が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。					□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、検査員等が文書で、検査規程第8条に基づく修補指示を行った。	
		4	□ 溶接施工にかかる施工計画書等を、提出していることが確認できる。						
		5	□ 孔開けによって生じたまくれが削り取られているなど、きめ細やかに製作していることが確認できる。						
		6	□ 欠陥部の発生がみられないことが確認できる。						
		7	□ 塗装作業にあたり、塗布面を十分に乾燥させて施工していることが確認できる。						
		8	□ 素地調整を行う場合、第1種ケレン後、4時間以内に金属前処理塗装を実施していることが確認できる。						
		9	□ 塗料の空き缶管理について、写真等で確実に空であることが確認できる。						
		10	□ 塗料の品質が、出荷証明書・塗料成績表により、製造年月日・ロット番号・色彩・数量が確認できる。						
		11	□ 亜鉛メッキの付着量が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。					□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員等が改造請求を指示した。 または、検査規程第7条に基づき、契約担当者が修補工事の請求を行った。	
		12	□ その他 理由（　　）						
			［架設関係］						
		13	□ ボルトの締め付け確認が実施され、記録を保管していることが確認できる。						
		14	□ ボルトの締め付け機・測定機器のキャリブレーション（検定・調整）を実施していることが確認できる。						
		15	□ 高力ボルトの締め付けを、中心から外側に向かって行っていることが確認できる。						
		16	□ 高力ボルトの品質が、証明書類で確認できる。						
		17	□ 支承の据え付けで、コンクリート面のチッピング及び仕上げ面に、水切り勾配がついていることが確認できる。						
		18	□ 架設にあたって、部材の応力と変形等を十分検討していることが確認できる。						
		19	□ 架設に用いる仮設備及び仮設用機材について、品質・性能が確保できる規模及び強度を有していることが確認できる。						
		20	□ 現場塗装部のケレン及び膜厚管理を、適切に行っていることが確認できる。						
		21	□ 現場塗装において、温度・湿度・風速等の確認を行っていることが確認できる。						
		22	□ その他 理由（　　）						
			① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は横線を引いて削除する。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率（%）計算の値で評価する。 ③ 対象評価項目数（　　）＝全項目数（ 22 ）-対象外項目数（　　） 評価値（　%）＝評価数（　　）／対象評価項目数（　　） ④ なお、削除後の評価項目数が2項目以下の場合は c 評価とする。						

●判断基準

		ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能
		50%以下	80%以下	80%を超える	
評価値	90%以上	a	a’	b	b
	75%以上90%未満	a’	b	b’	b’
	60%以上75%未満	b	b’	c	c
	60%未満	b’	c	c	c

注） 試験結果の打点数等が少なく、ばらつきの判断ができない場合は、評価対象項目（評価値）だけで評価する。

上記1項目該当・・・・・・・・ d
2項目該当・・・・・・・・ e

上記項目該当があれば・・e

別紙3-3-19

工事成績表の考査項目別運用表

［記入方法］該当する項目の□に レ マークを記入する。　　検査員

考査項目	工種		a	a’	b	b’	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ Ⅱ. 品質	コンクリート橋 上部工事 PC及びRCを対象		□ 品質関係の試験結果のバラツキと評価対象項目の履行状況（評価値）から判断する。＜判断基準参照＞ ［関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験］ ＊ばらつきの判断は別図参照。						
			優れている	bより優れている	やや優れている	cより優れている	他の評価に該当しない	品質がやや不適切である	品質が不適切である
			「評価対象項目」						
		1	□ コンクリートの配合試験及び試験練りが行われており、コンクリートの品質（強度・W／C・最大骨材粒径・塩基総量・単位水量・アルカリ骨材反応等）が確認できる。					□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員等が文書で改善指示を行った。	
		2	□ コンクリート受け入れ時に必要な試験を実施しており、強度・スランプ・空気量等の測定結果が確認できる。						
		3	□ 圧縮強度試験に使用したコンクリート供試体が、当該現場の供試体であることが確認できる。					□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、検査員等が文書で、検査規程第8条に基づく修補指示を行った。	
		4	□ 施工条件及び気象条件に適した運搬時間・打設時の投入高さ・締固め方法が、定められた条件を満足していることが確認できる。（寒中及び暑中コンクリート等を含む）						
		5	□ コンクリートの圧縮強度を管理し、必要な強度に達した後に、型枠・支保工の取り外しを行っていることが確認できる。						
		6	□ コンクリート打設までに、さび・泥・油等の有害物が鉄筋に付着しないよう、管理していることが確認できる。					上記1項目該当・・・・・・・・d	
		7	□ 圧接作業にあたり、作業員の技量確認をおこなっていることが確認できる。					2項目該当・・・・・・・・ e	
		8	□ 鉄筋の組立・加工が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。						
		9	□ コンクリートの養生が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。						
		10	□ スペーサーの品質及び個数が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。					□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員等が改造請求を指示した。 または、検査規程第7条に基づき、契約担当者が修補工事の請求を行った。	
		11	□ プレビーム桁のプレフレクション管理が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。						
		12	□ 使用する装置及び機器のキャリブレーションを、事前に実施していることが確認できる。						
		13	□ PC鋼材の緊張及びグラウト注入管理値が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。						
		14	□ プレストレッシング時のコンクリート圧縮強度が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。						
		15	□ コンクリート圧縮強度の確認は、構造物等と同様な養生条件におかれた供試体を、用いていることが確認できる。					上記項目該当があれば・・e	
		16	□ 有害なクラックがない。						
		17	□ その他 理由（　　）						

① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は横線を引いて削除する。
② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率（%）計算の値で評価する。
③ 対象評価項目数（　　）＝全項目数（ 17 ）-対象外項目数（　　）
　評価値（　% ）＝評価数（　　）／対象評価項目数（　　）
④ なお、削除後の評価項目数が2項目以下の場合は c 評価とする。

●判断基準

		ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能
		50%以下	80%以下	80%を超える	
評価値	90%以上	a	a’	b	b
	75%以上90%未満	a’	b	b’	b’
	60%以上75%未満	b	b’	c	c
	60%未満	b’	c	c	c

注） 試験結果の打点数等が少なく、ばらつきの判断ができない場合は、評価対象項目（評価値）だけで評価する。

別紙3-3-20

工事成績表の考査項目別運用表

［記入方法］該当する項目の□に レ マークを記入する。　　検査員

考査項目	工種		a	a’	b	b’	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ Ⅱ. 品質	塗装工事（工場塗装を除く）		□ 品質関係の試験結果のバラツキと評価対象項目の履行状況（評価値）から判断する。＜判断基準参照＞ ［関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験］ ＊ばらつきの判断は別図参照。						
			優れている	bより優れている	やや優れている	cより優れている	他の評価に該当しない	品質がやや不適切である	品質が不適切である
			「評価対象項目」						
		1	□ 塗装作業にあたり、塗布面を十分に乾燥させて施工していることが確認できる。					□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員等が文書で改善指示を行った。	
		2	□ ケレンを入念に実施していることが確認できる。						
		3	□ 天候状況の確認・気温及び湿度の測定を行い、塗装作業を行っていることが確認できる。					□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、検査員等が文書で、検査規程第8条に基づく修補指示を行った。	
		4	□ 塗料を使用前に撹拌し、容器底部に顔料が沈殿していないことを確認できる。						
		5	□ 鋼材表面および被塗装面の汚れ・油類等を除去し、塗装を行っていることが確認できる。					上記1項目該当・・・・・・・・d 2項目該当・・・・・・・・ e	
		6	□ 塗料の空き缶管理について、写真等で確実に空であることが確認できる。						
		7	□ 塗り残し・ながれ・しわ等がなく、塗装されていることが確認できる。					□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員等が改造請求を指示した。 または、検査規程第7条に基づき、契約担当者が修補工事の請求を行った。	
		8	□ 溶接部・ボルトの結合部分・構造の複雑な部分について、必要な塗膜厚を確保していることが確認できる。						
		9	□ 塗料の品質で、出荷証明書・塗料成績表により、製造年月日・ロット番号・色彩・数量が確認できる。					上記項目該当があれば・・e	
		10	□ その他 理由（　　）						

① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は横線を引いて削除する。
② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率（%）計算の値で評価する。
③ 対象評価項目数（　　）＝全項目数（ 10 ）-対象外項目数（　　）
　評価値（　% ）＝評価数（　　）／対象評価項目数（　　）
④ なお、削除後の評価項目数が2項目以下の場合は c 評価とする。

●判断基準

		ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能
		50%以下	80%以下	80%を超える	
評価値	90%以上	a	a’	b	b
	75%以上90%未満	a’	b	b’	b’
	60%以上75%未満	b	b’	c	c
	60%未満	b’	c	c	c

注） 試験結果の打点数等が少なく、ばらつきの判断ができない場合は、評価対象項目（評価値）だけで評価する。

別紙3-3-21

工事成績表の考査項目別運用表

［記入方法］該当する項目の□にレ マークを記入する。　　検査員

考査項目	工種		a	a’	b	b’	c	d	e
3．出来形及び出来ばえ Ⅱ．品質	砂防構造物工事 および 地すべり防止工事 （集水井戸工事を含む）		□ 品質関係の試験結果のバラツキと評価対象項目の履行状況（評価値）から判断する。＜判断基準参照＞ ［関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験］ ＊ばらつきの判断は別図参照。						
			優れている	bより優れている	やや優れている	cより優れている	他の評価に該当しない	品質がやや不適切である	品質が不適切である
			「評価対象項目」					□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員等が文書で改善指示を行った。	
			［共通］						
		1	□ 設計図書に基づくコンクリートの配合試験及び試験練りが行われており、適切なコンクリートの規格（強度・W／C・最大骨材粒径・塩基総量等）が確認できる。						
		2	□ コンクリート受け入れ時に必要な試験を実施しており、強度・スランプ・空気量等の測定結果が確認できる。					□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、検査員等が文書で、検査規程第8条に基づく修補指示を行った。	
		3	□ 圧縮強度試験に使用したコンクリート供試体が、当該現場の供試体であることが確認できる。						
		4	□ 運搬時間・打設時の投入高さ・締め固め時のバイブレーターの機種・養生方法が、施工条件及び気象条件に適しており、定められた条件を満足していることが確認できる。（寒中及び暑中コンクリート等を含む）					上記1項目該当・・・・・・・・d 2項目該当・・・・・・・・ e	
		5	□ コンクリートの圧縮強度を管理しており、必要な強度に達した後に、型枠・支保工の取り外しを行っている。						
		6	□ 地山との取り合わせが適切に行われていることが確認できる。						
		7	□ 鉄筋または鋼材の品質が、証明書類で確認できる。						
		8	□ 有害なクラックがない。						
		9	□ コンクリートの打設前に、打ち継ぎ目処理を適切に行っていることが確認できる。					□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員等が改造請求を指示した。 または、検査規程第7条に基づき、契約担当者が修補工事の請求を行った。	
		10	□ その他 理由（　　）						
			［砂防構造物工事に適用］						
		11	□ コンクリート打設まで、さび・泥・油等の有害物が、鉄筋に付着しないよう管理していることが確認できる。					上記項目該当があれば・・e	
		12	□ 鉄筋の加工・組立が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。						
		13	□ 施工基面を平滑に仕上げていることが確認できる。						
		14	□ アンカーの施工が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。						
		15	□ ボルトの締め付け確認が実施され、記録を保管していることが確認できる。						
		16	□ ボルトの締め付け機及び測定機器の、キャリブレーションを実施していることが確認できる。						
		17	□ その他 理由（　　）						
			［地すべり対策工事（抑止杭・集水井戸工事を含む）］						
		18	□ アンカーが設計図書の仕様を満足していることを確認できる。						
		19	□ ライナープレートの組立に当たり、偏心と歪みに配慮し、施工していることが確認できる。						
		20	□ ライナープレートと地山との隙間が少なくなるように、施工していることが確認できる。						
		21	□ 集・排水ボーリング工の方向・角度が適正となるように、施工上の配慮をしていることが確認できる。						
		22	□ その他 理由（　　）						

進行性または有害なクラックがある場合で、無処理の場合は状況に応じて d または e とする。

① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は横線を引いて削除する。
② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率（%）計算の値で評価する。
③ 対象評価項目数（　　）＝全項目数（ 22 ）-対象外項目数（　　）
　評価値（　% ）＝評価数（　　）／対象評価項目数（　　）
④ なお、削除後の評価項目数が2項目以下の場合は c 評価とする。

●判断基準

		ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能
		50%以下	80%以下	80%を超える	
評価値	90%以上	a	a’	b	b
	75%以上90%未満	a’	b	b’	b’
	60%以上75%未満	b	b’	c	c
	60%未満	b’	c	c	c

注）試験結果の打点数等が少なく、ばらつきの判断ができない場合は、評価対象項目（評価値）だけで評価する。

別紙3-3-22

工事成績表の考査項目別運用表

［記入方法］該当する項目の□に レ マークを記入する。　　検査員

考査項目	工種		a	a’	b	b’	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ Ⅱ. 品質	植栽工事		□ 品質関係の試験結果のバラツキと評価対象項目の履行状況（評価値）から判断する。＜判断基準参照＞ ［関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験］ ＊ばらつきの判断は別図参照。						
			優れている	bより優れている	やや優れている	cより優れている	他の評価に該当しない	品質がやや不適切である	品質が不適切である
			「評価対象項目」						
		1	□ 活着が促されるよう管理していることが確認できる。					□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員等が文書で改善指示を行った。	
		2	□ 樹木等に損傷・はちくずれ等がなく、保護養生が適切に行われていることが確認できる。						
		3	□ 樹木等の生育に害のある、害虫等がいないことが確認できる。						
		4	□ 施工完了後、余剰枝の剪定・整形・その他必要な手入れが、行われていることが確認できる。					□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、検査員等が文書で、検査規程第8条に基づく修補指示を行った。	
		5	□ 肥料が直接、樹木の根に触れないよう、均一に施肥されていることが確認できる。						
		6	□ 植生する樹木に応じて、余裕のある植穴を掘り、植穴底部を耕していることが確認できる。					上記1項目該当・・・・・・・・d 2項目該当・・・・・・・・ e	
		7	□ 添え木を、ぐらつきがないように設置していることが確認できる。						
		8	□ 樹名板を視認しやすい場所に、据付していることが確認できる。						
		9	□ その他 理由（　　）					□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員等が改造請求を指示した。 または、検査規程第7条に基づき、契約担当者が修補工事の請求を行った。	
								上記項目該当があれば・・e	

① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は横線を引いて削除する。
② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率（%）計算の値で評価する。
③ 対象評価項目数（　　）＝全項目数（　9　）-対象外項目数（　　）
　評価値（　%　）＝評価数（　　）／対象評価項目数（　　）
④ なお、削除後の評価項目数が2項目以下の場合は c 評価とする。

●判断基準

		ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能
		50%以下	80%以下	80%を超える	
評価値	90%以上	a	a’	b	b
	75%以上90%未満	a’	b	b’	b’
	60%以上75%未満	b	b’	c	c
	60%未満	b’	c	c	c

注） 試験結果の打点数等が少なく、ばらつきの判断ができない場合は、評価対象項目（評価値）だけで評価する。

別紙3-3-23

工事成績表の考査項目別運用表

［記入方法］該当する項目の□に レ マークを記入する。　　検査員

考査項目	工種		a	a’	b	b’	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ Ⅱ. 品質	浚渫工事		品質関係の試験結果のバラツキと評価対象項目の履行状況（評価値）から判断する。＜判断基準参照＞ ［関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験］ ＊ばらつきの判断は別図参照。						
			優れている	bより優れている	やや優れている	cより優れている	他の評価に該当しない	品質がやや不適切である	品質が不適切である
			「評価対象項目」					□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員等が文書で改善指示を行った。	
		1	□ 材料等（製品を含む）の品質規格証明書が、整備されていることが確認できる。						
		2	□ 汚濁防止フェンス・遮水シート・吸出し防止シート等が、仕様書に定められたとおりに施工されていることが確認できる。						
		3	□ 潮位（水位）・潮流・波浪等の状況を十分に把握し、施工されていることが確認できる。						
		4	□ 浚渫土砂の処理及び沈砂池は、仕様書に定められたとおりに、施工されていることが確認できる。					□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、検査員等が文書で、検査規程第8条に基づく修補指示を行った。 上記1項目該当・・・・・・・・d 2項目該当・・・・・・・・ e	
		5	□ 浚渫等の汚濁水は、仕様書に定められた水質に処理されていることが確認できる。						
		6	□ 濁り防止等、環境保全に十分注意していることが確認できる。						
		7	□ 浚渫土砂運搬経路が、仕様書等に定められた通りに施工されていることが確認できる。						
		8	□ その他 理由（　　）					□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員等が改造請求を指示した。 または、検査規程第7条に基づき、契約担当者が修補工事の請求を行った。 上記項目該当があれば・・e	

① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は横線を引いて削除する。
② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率（%）計算の値で評価する。
③ 対象評価項目数（　　）＝全項目数（　8　）-対象外項目数（　　）
　評価値（　%　）＝評価数（　　）／対象評価項目数（　　）
④ なお、削除後の評価項目数が2項目以下の場合は c 評価とする。

●判断基準

		ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能
		50%以下	80%以下	80%を超える	
評価値	90%以上	a	a’	b	b
	75%以上90%未満	a’	b	b’	b’
	60%以上75%未満	b	b’	c	c
	60%未満	b’	c	c	c

注）試験結果の打点数等が少なく、ばらつきの判断ができない場合は、評価対象項目（評価値）だけで評価する。

別紙3-3-24

工事成績表の考査項目別運用表

［記入方法］該当する項目の□に レ マークを記入する。　　検査員

考査項目	工種		a	a’	b	b’	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ Ⅱ. 品質	防護柵(網) 標識 区画線 等設置工事		品質関係の試験結果のバラツキと評価対象項目の履行状況（評価値）から判断する。＜判断基準参照＞ ［関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験］ ＊ばらつきの判断は別図参照。						
			優れている	bより優れている	やや優れている	cより優れている	他の評価に該当しない	品質がやや不適切である	品質が不適切である
			「評価対象項目」						
		1	□ 防護柵設置要綱・視線誘導標設置基準・道路標識ハンドブック等の、規定を満足していることが確認できる。					□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員等が文書で改善指示を行った。	
		2	□ 防護柵等の床掘の仕上がり面において、地山の乱れや不陸が生じないように、施工していることが確認できる。						
		3	□ 防護柵等の基礎工の施工にあたって、無筋および鉄筋コンクリートの規定を満足していることが確認できる。						
		4	□ 防護柵等の支柱の施工にあたって、既設舗装面へ影響がないように、施工していることが確認できる。					□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、検査員等が文書で、検査規程第8条に基づく修補指示を行った。	
		5	□ 基礎設置個所について、地盤の地耐力を把握して、施工していることが確認できる。						
		6	□ 防護柵等の支柱の根入れ長が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。						
		7	□ ガードケーブルを支柱に取り付ける場合、設計図書に定められた、所定の張力を与えていることが確認できる。						
		8	□ ガードケーブルの端末支柱を土中に設置する場合、打設したコンクリートが設計図書で定められた強度以上であることが確認できる。						
		9	□ ペイント式（常温式）区画線に使用するシンナーの使用量が、10%以下であることが確認できる。					上記1項目該当・・・・・・・・d 2項目該当・・・・・・・・ e	
		10	□ 区画線の厚さが、見本等で設計図書の仕様を満足していることが確認できる。						
		11	□ 区画線施工後の昼間および夜間の視認性が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。					□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員等が改造請求を指示した。 または、検査規程第7条に基づき、契約担当者が修補工事の請求を行った。	
		12	□ 区画線の施工にあたって、設置路面の水分・泥・砂塵およびほこりを、取り除いて行っていることが確認できる。						
		13	□ 区画線の消去の場合、表示材（塗料）のみの除去となっており、路面への影響が最小限となっていることが確認できる。						
		14	□ プライマーの施工にあたって、路面に均等に塗布していることが確認できる。						
		15	□ 区画線の材料が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。					上記項目該当があれば・・e	
		16	□ その他 理由（　　）						

① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は横線を引いて削除する。
② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率（%）計算の値で評価する。
③ 対象評価項目数（　　）＝全項目数（ 16 ）-対象外項目数（　　）
　評価値（　% ）＝評価数（　　）／対象評価項目数（　　）
④ なお、削除後の評価項目数が2項目以下の場合は c 評価とする。

●判断基準

		ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能
		50%以下	80%以下	80%を超える	
評価値	90%以上	a	a’	b	b
	75%以上90%未満	a’	b	b’	b’
	60%以上75%未満	b	b’	c	c
	60%未満	b’	c	c	c

注） 試験結果の打点数等が少なく、ばらつきの判断ができない場合は、評価対象項目（評価値）だけで評価する。

別紙3-3-25

工事成績表の考査項目別運用表

［記入方法］該当する項目の□にレ マークを記入する。　　検査員

考査項目	工種		a	a’	b	b’	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ Ⅱ. 品質	維持工事 清掃工 除草工 付属物工等		品質関係の試験結果のバラツキと評価対象項目の履行状況（評価値）から判断する。＜判断基準参照＞ ［関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験］ ＊ばらつきの判断は別図参照。						
			優れている	bより優れている	やや優れている	cより優れている	他の評価に該当しない	品質がやや不適切である	品質が不適切である
			「評価対象項目」						
		1	□ 使用する材料の品質・形状等が適切であり、かつ現場において材料確認を、適宜・的確に行っていることが確認できる。					□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員等が文書で改善指示を行った。	
		2	□ 構造物の劣化状況をよく把握して、適切な対策を施していることが確認できる。						
		3	□ 監督職員の指示事項に対して、現地状況を勘案し、施工方法や構造についての提案を行うなど、積極的に取り組んでいることが確認できる。					□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、検査員等が文書で、検査規程第8条に基づく修補指示を行った。 上記1項目該当・・・・・・・・d 2項目該当・・・・・・・・ e	
		4	□ 緊急的な作業において、迅速かつ適切に対応していることが確認できる。						
		5	□ その他（　　）					□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員等が改造請求を指示した。 または、検査規程第7条に基づき、契約担当者が修補工事の請求を行った。 上記項目該当があれば・・e	
		6	□ その他（　　）						
		7	□ その他（　　）						
		8	□ その他（　　）						
			＊ 記載4項目を必須の評価対象項目とし、この他に適宜、追加項目を追加して評価するものとする。 ただし、評価対象項目は最大8項目とする。						
			① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は横線を引いて削除する。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率（%）計算の値で評価する。 ③ 対象評価項目数（　　）＝全項目数（　8　）-対象外項目数（　　） 評価値（　%　）＝評価数（　　）／対象評価項目数（　　） ④ なお、削除後の評価項目数が2項目以下の場合はｃ評価とする。 ●判断基準 該当項目が90%以上・・・・・・・・・・・・・・・・・a 該当項目が80%以上90%未満・・・・・・・・・a’ 該当項目が70%以上80%未満・・・・・・・・・b 該当項目が60%以上70%未満・・・・・・・・・b’ 該当項目が60%未満・・・・・・・・・・・・・・・・・c						

別紙3-3-26

工事成績表の考査項目別運用表

［記入方法］該当する項目の□にレ マークを記入する。　　検査員

考査項目	工種		a	a’	b	b’	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ Ⅱ. 品質	修繕工事 橋脚補強 耐震補強 落橋防止等		品質関係の試験結果のバラツキと評価対象項目の履行状況（評価値）から判断する。＜判断基準参照＞ ［関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験］ ＊ばらつきの判断は別図参照。						
			優れている	bより優れている	やや優れている	cより優れている	他の評価に該当しない	品質がやや不適切である	品質が不適切である
			「評価対象項目」						
		1	□ 使用する材料の品質・形状等が適切であり、かつ現場において材料確認を、適宜・的確に行っていることが確認できる。					□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員等が文書で改善指示を行った。	
		2	□ 構造物の劣化状況をよく把握して、適切な対策を施していることが確認できる。					□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、検査員等が文書で、検査規程第8条に基づく修補指示を行った。	
		3	□ 監督職員の指示事項に対して、現地状況を勘案し、施工方法や構造についての提案を行うなど、積極的に取り組んでいることが確認できる。					上記1項目該当・・・・・・・・d 2項目該当・・・・・・・・ e	
		4	□ 施工後のメンテナンスに対する提言や修繕サイクル等を勘案した提案等を、行っていることが確認できる。					□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員等が改造請求を指示した。 または、検査規程第7条に基づき、契約担当者が修補工事の請求を行った。	
		5	□ その他（　　）					上記項目該当があれば・・e	
		6	□ その他（　　）						
		7	□ その他（　　）						
		8	□ その他（　　）						
			＊ 記載4項目を必須の評価対象項目とし、この他に適宜、追加項目を追加して評価するものとする。 ただし、評価対象項目は最大8項目とする。						
			① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は横線を引いて削除する。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率（%）計算の値で評価する。 ③ 対象評価項目数（　　）＝全項目数（　8　）-対象外項目数（　　） 評価値（　%　）＝評価数（　　）／対象評価項目数（　　） ④ なお、削除後の評価項目数が2項目以下の場合はｃ評価とする。 ●判断基準 該当項目が90%以上・・・・・・・・・・・・・・・・・a 該当項目が80%以上90%未満・・・・・・・・・a’ 該当項目が70%以上80%未満・・・・・・・・・b 該当項目が60%以上70%未満・・・・・・・・・b’ 該当項目が60%未満・・・・・・・・・・・・・・・・・c						

別紙3-3-27

工事成績表の考査項目別運用表

［記入方法］該当する項目の□に レ マークを記入する。　　検査員

考査項目	工種		a	a’	b	b’	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ Ⅱ. 品質	ほ場整備工事		品質関係の試験結果のバラツキと評価対象項目の履行状況（評価値）から判断する。＜判断基準参照＞ ［関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験］ ＊ばらつきの判断は別図参照。						
			優れている	bより優れている	やや優れている	cより優れている	他の評価に該当しない	品質がやや不適切である	品質が不適切である
			「評価対象項目」						
		1	□ 地区内の地表水および地下水を排除し、ドライの状態で施工されていることが確認できる。					□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員等が文書で改善指示を行った。	
		2	□ 濁り等の防止に十分留意して、施工していることが確認できる。						
		3	□ 整地前に、既設構造物等の雑物について、適切に処理していることが確認できる。						
		4	□ 表土はぎとりにおいて、石れき・不良土が混入していないことが確認できる。					□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、検査員等が文書で、検査規程第8条に基づく修補指示を行った。	
		5	□ 客土の土質は、含水比の高い粘土質以外の、適性な土質であることが確認できる。						
		6	□ 畦畔の土質が基盤土と同等で、線形も良く十分転圧されていることが確認できる。						
		7	□ 土の敷均し及び締固めは、設計図書等の仕様により、施工されていることが確認できる。						
		8	□ 暗渠排水工は、設計図書等の仕様に基づき、施工されていることが確認できる。						
		9	□ 給排水については、ほ場面標高等を考慮して、施工されていることが確認できる。					上記1項目該当・・・・・・・・d 2項目該当・・・・・・・・ e	
		10	□ 水路や農道の、法面の通りが良いことが確認できる。						
		11	□ 水路の施工基面が平滑に仕上げられ、水路底の高さが平滑に仕上げられていることが確認できる。						
		12	□ 道路路体および敷砂利の転圧が、十分に行われていることが確認できる。					□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員等が改造請求を指示した。 または、検査規程第7条に基づき、契約担当者が修補工事の請求を行った。	
		13	□ 二次製品に、損傷がみられないことが確認できる。						
		14	□ 構造物側面の埋戻しについては、仕様書等で示す条件により、締固めが実施されていることが確認できる。						
		15	□ その他 理由（　　）					上記項目該当があれば・・e	

① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は横線を引いて削除する。
② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率（%）計算の値で評価する。
③ 対象評価項目数（　　）＝全項目数（ 15 ）-対象外項目数（　　）
　評価値（　% ）＝評価数（　　）／対象評価項目数（　　）
④ なお、削除後の評価項目数が2項目以下の場合は c 評価とする。

●判断基準

		ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能
		50%以下	80%以下	80%を超える	
評価値	90%以上	a	a’	b	b
	75%以上90%未満	a’	b	b’	b’
	60%以上75%未満	b	b’	c	c
	60%未満	b’	c	c	c

注） 試験結果の打点数等が少なく、ばらつきの判断ができない場合は、評価対象項目（評価値）だけで評価する。

別紙3-3-28

工事成績表の考査項目別運用表

［記入方法］該当する項目の□に レ マークを記入する。　　検査員

考査項目	工種		a	a’	b	b’	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ Ⅱ. 品質	管水路工事		品質関係の試験結果のバラツキと評価対象項目の履行状況（評価値）から判断する。＜判断基準参照＞ ［関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験］ ＊ばらつきの判断は別図参照。						
			優れている	bより優れている	やや優れている	cより優れている	他の評価に該当しない	品質がやや不適切である	品質が不適切である
			「評価対象項目」						
		1	□ 管水路の基礎地盤を過度に床掘した場合は、良質土で置き換えのうえ、転圧していることが確認できる。					□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員等が文書で改善指示を行った。	
		2	□ 管水路の基礎や砂巻の転圧が適正で、埋戻しの敷均し・締固めが、指定された機械で適正に施工されていることが確認						
		3	□ 管水路の床掘後、基礎と埋め戻し時に、ドライワークの確保がされていることが確認できる。						
		4	□ 管水路の現場発生土が埋戻し土として不適切な場合、良質土で埋め戻していることが確認できる。					□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、検査員等が文書で、検査規程第8条に基づく修補指示を行った。 上記1項目該当・・・・・・・・d 2項目該当・・・・・・・・ e	
		5	□ 管水路の基礎・埋戻し土の最大粒径は、許容範囲内であることが確認できる。						
		6	□ 材料の品質が、証明書類で確認できる。						
		7	□ 管水路の溶接や接着剤による接合が、異物を除去し適正に施工されていることが確認できる。						
		8	□ 管水路のゴムリングの位置や、ジョイント間隔の確保ができていることが確認できる。						
		9	□ 管水路の接合について、ボルトの締め付けは、規定トルクで適正に締め付けられていることが確認できる。						
		10	□ 管水路の通水試験が適正に検査されており、許容範囲内にあることが確認できる。						
		11	□ 仕切弁や空気弁ボックスの天端と、道路面のすりあわせが良いことが確認できる。						
		12	□ コンクリート構造物に、きめ細かな施工を行っていることが確認できる。					□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員等が改造請求を指示した。 または、検査規程第7条に基づき、契約担当者が修補工事の請求を行った。 上記項目該当があれば・・e	
		13	□ その他 理由（　　）						

① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は横線を引いて削除する。
② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率（%）計算の値で評価する。
③ 対象評価項目数（　　）＝全項目数（ 13 ）-対象外項目数（　　）
　評価値（　% ）＝評価数（　　）／対象評価項目数（　　）
④ なお、削除後の評価項目数が2項目以下の場合は c 評価とする。

●判断基準

		ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能
		50%以下	80%以下	80%を超える	
評価値	90%以上	a	a’	b	b
	75%以上90%未満	a’	b	b’	b’
	60%以上75%未満	b	b’	c	c
	60%未満	b’	c	c	c

注） 試験結果の打点数等が少なく、ばらつきの判断ができない場合は、評価対象項目（評価値）だけで評価する。

別紙3-3-29

工事成績表の考査項目別運用表

［記入方法］該当する項目の□にレ マークを記入する。　　検査員

考査項目	工種		a	a’	b	b’	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ Ⅱ. 品質	ため池工事		品質関係の試験結果のバラツキと評価対象項目の履行状況（評価値）から判断する。＜判断基準参照＞ ［関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験］ ＊ばらつきの判断は別図参照。						
			優れている	bより優れている	やや優れている	cより優れている	他の評価に該当しない	品質がやや不適切である	品質が不適切である
			「評価対象項目」						
		1	□ 基礎処理の施工が仕様書の規定に従い、適切に施工されていることが確認できる。					□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員等が文書で改善指示を行った。	
		2	□ 刃金土や堤体の締固めが仕様書に従い、適切に施工されていることが確認できる。						
		3	□ グラウト工が適切に実施されていることが、工事書類等により確認できる。					□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、検査員等が文書で、検査規程第8条に基づく修補指示を行った。	
		4	□ 施工基面及び法面が、平滑に仕上げられていることが確認できる。						
		5	□ 湧水が適切に処理されていることが確認できる。					上記1項目該当・・・・・・・・d 2項目該当・・・・・・・・ e	
		6	□ 雨水による崩壊が起こらないように、排水対策を実施していることが確認できる。						
		7	□ 気象条件を考慮した施工が確認できる。					□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員等が改造請求を指示した。 または、検査規程第7条に基づき、契約担当者が修補工事の請求を行った。	
		8	□ 鉄筋の組み立て・継手部・かぶりは、工事図面に示されたとおりに施工していることが確認できる。						
		9	□ 付帯構造物は設計図書に基づき、適切に施工されていることが確認できる。					上記項目該当があれば・・e	
		10	□ その他 理由（　　）						

① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は横線を引いて削除する。
② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率（%）計算の値で評価する。
③ 対象評価項目数（　　）＝全項目数（ 10 ）-対象外項目数（　　）
　評価値（　% ）＝評価数（　　）／対象評価項目数（　　）
④ なお、削除後の評価項目数が2項目以下の場合は c 評価とする。

●判断基準

		ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能
		50%以下	80%以下	80%を超える	
評価値	90%以上	a	a’	b	b
	75%以上90%未満	a’	b	b’	b’
	60%以上75%未満	b	b’	c	c
	60%未満	b’	c	c	c

注） 試験結果の打点数等が少なく、ばらつきの判断ができない場合は、評価対象項目（評価値）だけで評価する。

別紙3-3-30

工事成績表の考査項目別運用表

［記入方法］該当する項目の□に レ マークを記入する。　　検査員

考査項目	工種		a	a’	b	b’	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ Ⅱ. 品質	機械設備工事		品質関係の試験結果のバラツキと評価対象項目の履行状況（評価値）から判断する。＜判断基準参照＞ ［関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験］ ＊ばらつきの判断は別図参照。						
			優れている	bより優れている	やや優れている	cより優れている	他の評価に該当しない	品質がやや不適切である	品質が不適切である
			「評価対象項目」						
		1	□ 材料・部品の品質照合の書類（現物照合）を整理し、品質の確認ができる。					□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員等が文書で改善指示を行った。	
		2	□ 設備の機能および性能が、承諾図書の通り確保され、品質の確認ができる。						
		3	□ 設計図書の仕様を踏まえた詳細設計を行い、承諾図書として提出していることが確認できる。						
		4	□ 機器の機能及び性能に係る成績書が整理され、品質の確認ができる。					□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、検査員等が文書で、検査規程第8条に基づく修補指示を行った。	
		5	□ 溶接管理基準の品質管理項目について、品質管理書類を整理し、品質の確認ができる。						
		6	□ 塗装管理基準の品質管理項目について、品質管理書類を整理し、品質の確認ができる。						
		7	□ 操作制御設備について、操作スイッチや表示灯が承諾図面の通り設置され、操作性に優れていることが確認できる。						
		8	□ 操作制御装置の安全装置及び保護装置の機能・性能確認試験について、試験書類を整理し、品質を確認できる。					上記1項目該当・・・・・・・・d 2項目該当・・・・・・・・ e	
		9	□ 小配管・電気配線・配管が、承諾図書の通り敷設していることが確認できる。						
		10	□ 設備の取扱説明書を、工夫していることが確認できる。						
		11	□ 完成図書（取扱説明書）に、部品等の点検および交換方法が、まとめられていることが確認できる。						
		12	□ 機器の配置が点検しやすいように、工夫していることが確認できる。					□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員等が改造請求を指示した。 または、検査規程第7条に基づき、契約担当者が修補工事の請求を行った。	
		13	□ 設備の構造や機器の配置が、交換頻度の高い部品等の交換作業を容易にできるよう、工夫していることが確認できる。						
		14	□ 二次コンクリートの配合試験及び試験練りを実施し、試験成績表にまとめていることが確認できる。						
		15	□ バブル類の平時の状態を示すラベルなどが、見やすい状態で、表示していることが確認できる。						
		16	□ 計器類に運転時の適用範囲を、見やすく表示していることが確認できる。						
		17	□ 回転部や高温部等の危険個所に、表示または防護をしていることが確認できる。						
		18	□ 構造物の劣化状況をよく把握して、適切な対策を施していることが確認できる。						
		19	□ 現地状況を勘案し、施工方法等について、適切な対策を施していることが確認できる。						
		20	□ その他 理由（　　）						
			① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は横線を引いて削除する。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率（%）計算の値で評価する。 ③ 対象評価項目数（　　）＝全項目数（ 20 ）-対象外項目数（　　） 評価値（　% ）＝評価数（　　）／対象評価項目数（　　） ④ なお、削除後の評価項目数が2項目以下の場合は c 評価とする。 ●判断基準 該当項目が90%以上・・・・・・・・・・・・・・・・・a 該当項目が80%以上90%未満・・・・・・・・・a’ 該当項目が70%以上80%未満・・・・・・・・・b 該当項目が60%以上70%未満・・・・・・・・・b’ 該当項目が60%未満・・・・・・・・・・・・・・・・・c						

別紙3-3-31

工事成績表の考査項目別運用表

［記入方法］該当する項目の□に レ マークを記入する。　　検査員

考査項目	工種		a	a’	b	b’	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ Ⅱ. 品質	電気設備工事 照明設備工事 その他類似工事		品質関係の試験結果のバラツキと評価対象項目の履行状況（評価値）から判断する。＜判断基準参照＞ ［関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験］ ＊ばらつきの判断は別図参照。						
			優れている	bより優れている	やや優れている	cより優れている	他の評価に該当しない	品質がやや不適切である	品質が不適切である
			「評価対象項目」						
		1	□ 製作着手前に、品質や性能の確保に係る技術検討を、実施していることが確認できる。					□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員等が文書で改善指示を行った。	
		2	□ 材料・部品の品質照合の結果が、品質保証書等（現物照合を含む）で確認でき、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。						
		3	□ 機器の品質・機能・性能が、設計図書を満足して、成績書にまとめられていることが確認できる。					□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、検査員等が文書で、検査規程第8条に基づく修補指示を行った。	
		4	□ 操作スイッチや表示灯が承諾図書の通り配置され、操作性に優れていることが確認できる。						
		5	□ ケーブル及び配管の接続などの作業が、施工計画書に記載された手順に沿って行われ、不具合がないことが確認できる。					上記1項目該当・・・・・・・・d 2項目該当・・・・・・・・ e	
		6	□ 設備の機能及び性能が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。						
		7	□ 操作制御関係の機能及び性能が、設計図書の仕様を満足しているとともに、必要な安全装置及び保護装置の作動を確認できる。						
		8	□ 設備の総合性能が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。						
		9	□ 現場条件によって機器(製品)の機能及び性能が確認できない場合において、工場試験などで確認していることが確認できる。					□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員等が改造請求を指示した。 または、検査規程第7条に基づき、契約担当者が修補工事の請求を行った。	
		10	□ 設備全体についての取扱説明書を、工夫し作成（修繕（改造・更新含む）の場合は、修正または更新）していることが確認できる。						
		11	□ 完成図書で、定期的な点検や交換を要する部品及び箇所を、明示していることが確認できる。					上記項目該当があれば・・e	
		12	□ 設備の構造において、点検や消耗品の取り換え作業が容易にできるように、工夫していることが確認できる。						
		13	□ その他 理由（　　）						

① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は横線を引いて削除する。
② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率（%）計算の値で評価する。
③ 対象評価項目数（　　）＝全項目数（ 13 ）-対象外項目数（　　）
　評価値（　% ）＝評価数（　　）／対象評価項目数（　　）
④ なお、削除後の評価項目数が2項目以下の場合は c 評価とする。

●判断基準
該当項目が90%以上・・・・・・・・・・・・・・・・・a
該当項目が80%以上90%未満・・・・・・・・・a’
該当項目が70%以上80%未満・・・・・・・・・b
該当項目が60%以上70%未満・・・・・・・・・b’
該当項目が60%未満・・・・・・・・・・・・・・・・・c

別紙3-3-32

工事成績表の考査項目別運用表

［記入方法］該当する項目の□に レ マークを記入する。　　検査員

考査項目	工種		a	a’	b	b’	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ Ⅱ. 品質	通信設備工事 受変電設備工事		品質関係の試験結果のバラツキと評価対象項目の履行状況（評価値）から判断する。＜判断基準参照＞ ［関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験］ ＊ばらつきの判断は別図参照。						
			優れている	bより優れている	やや優れている	cより優れている	他の評価に該当しない	品質がやや不適切である	品質が不適切である
			「評価対象項目」						
		1	□ 設計図書に定められている品質管理を、実施していることが確認できる。					□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員等が文書で改善指示を行った。	
		2	□ 材料及び構成部品の品質及び形状について、設計図書等と適合が確認できる証明書等を、整備していることが確認できる。						
		3	□ 材料の品質照合の結果が品質保証書等（現物照合を含む）で確認でき、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。					□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、検査員等が文書で、検査規程第8条に基づく修補指示を行った。	
		4	□ 設備及び機器の品質・機能・性能が、成績書等で確認でき、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。						
		5	□ ケーブル及び配管の接続などの作業が、施工計画書に記載された手順に沿って行われ、不具合がないことが確認できる。					上記1項目該当・・・・・・・・d 2項目該当・・・・・・・・ e	
		6	□ 設備全体としての運転性能が、所定の能力を満足していることが確認できる。						
		7	□ 完成図書において、設備の機能・性能・操作方法を容易に判別できる資料を、整備していることが確認できる。						
		8	□ 完成図書において、単体品の製造年月日及び製造者が判別できる資料を、整備していることが確認できる。						
		9	□ 設備全体及び各機器において、設計図書に規定した品質及び性能を、工場試験記録により確認できる。					□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員等が改造請求を指示した。 または、検査規程第7条に基づき、契約担当者が修補工事の請求を行った。	
		10	□ 設備全体についての取扱説明書を、工夫していることが確認できる。						
		11	□ 完成図書で、定期的な点検や交換を要する部品及び箇所を、明示していることが確認できる。						
		12	□ 設備の構造において、点検や消耗品の取り換え作業が容易にできるよう、工夫していることが確認できる。						
		13	□ その他 理由（　　）					上記項目該当があれば・・e	

① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は横線を引いて削除する。
② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率（%）計算の値で評価する。
③ 対象評価項目数（　　）＝全項目数（ 13 ）-対象外項目数（　　）
　評価値（　% ）＝評価数（　　）／対象評価項目数（　　）
④ なお、削除後の評価項目数が2項目以下の場合は c 評価とする。

●判断基準
該当項目が90%以上・・・・・・・・・・・・・・・・・a
該当項目が80%以上90%未満・・・・・・・・・a’
該当項目が70%以上80%未満・・・・・・・・・b
該当項目が60%以上70%未満・・・・・・・・・b’
該当項目が60%未満・・・・・・・・・・・・・・・・・c

別紙3-3-33

工事成績表の考査項目別運用表

［記入方法］該当する項目の□にレ マークを記入する。　　検査員

考査項目	工種		a	a’	b	b’	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ Ⅱ. 品質	電線共同溝工事		品質関係の試験結果のバラツキと評価対象項目の履行状況（評価値）から判断する。＜判断基準参照＞ ［関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験］ ＊ばらつきの判断は別図参照。						
			優れている	bより優れている	やや優れている	cより優れている	他の評価に該当しない	品質がやや不適切である	品質が不適切である
			「評価対象項目」						
		1	□ 指定材料の規格が、品質を証明する書類で確認できる。					□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員等が文書で改善指示を行った。	
		2	□ 管路の通過試験を行っており、試験結果から全箇所が導通していることが確認できる。						
		3	□ 舗装復旧で、プラント出荷時・現場到着時・舗設時等において、合材の温度管理を記録していることが確認できる。					□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、検査員等が文書で、検査規程第8条に基づく修補指示を行った。	
		4	□ 特殊部の施工基面の支持力が均等となるように、かつ不陸がないように、仕上がっていることが確認できる。						
		5	□ 特殊部等の施工において、隣接する各ブロックに目違いによる段差、及び蛇行等がないように、敷設されていることが確認できる。					上記1項目該当・・・・・・・・d 2項目該当・・・・・・・・ e	
		6	□ 埋戻しにおいて、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。						
		7	□ 舗装の復旧等が適時行われ、路面の沈下や不陸がなく、平坦性を確保していることが確認できる。						
		8	□ 管枕及び埋設シートの設置及び土被りが、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。						
		9	□ 管設置において、それぞれの管の最小曲げ半径を満足していることが確認できる。						
		10	□ その他 理由（　　）					□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員等が改造請求を指示した。 または、検査規程第7条に基づき、契約担当者が修補工事の請求を行った。	
								上記項目該当があれば・・e	

① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は横線を引いて削除する。
② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率（%）計算の値で評価する。
③ 対象評価項目数（　　）＝全項目数（ 10 ）-対象外項目数（　　）
　評価値（　% ）＝評価数（　　）／対象評価項目数（　　）
④ なお、削除後の評価項目数が2項目以下の場合は c 評価とする。

●判断基準

		ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能
		50%以下	80%以下	80%を超える	
評価値	90%以上	a	a’	b	b
	75%以上90%未満	a’	b	b’	b’
	60%以上75%未満	b	b’	c	c
	60%未満	b’	c	c	c

注） 試験結果の打点数等が少なく、ばらつきの判断ができない場合は、評価対象項目（評価値）だけで評価する。

別紙3-3-34

工事成績表の考査項目別運用表

［記入方法］該当する項目の□に レ マークを記入する。

検査員

考査項目	工種		a	a’	b	b’	c	d	e
3．出来形及び出来ばえ Ⅱ．品質	下水道工事 （開削・推進・シールド）		品質関係の試験結果のバラツキと評価対象項目の履行状況（評価値）から判断する。＜判断基準参照＞ ［関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験］ ＊ばらつきの判断は別図参照。						
			優れている	bより優れている	やや優れている	cより優れている	他の評価に該当しない	品質がやや不適切である	品質が不適切である

「評価対象項目」

［共通］

1 □ 仕様書等で定められている品質管理が、実施されていることが確認できる。
2 □ 材料の品質規格証明書が整備されていることが確認できる。
3 □ 管渠継ぎ手部及びマンホール連結部の、目地仕上げが良好であることが確認できる。
4 □ マンホールにおいて出来形管理基準を満足し、連結部には止水シール・止水ゴムが、適切に使用されていることが確認できる。
5 □ マンホールにおいて各部材にはクラックがなく、漏水もないことが確認できる。
6 □ マンホールの足掛け金物の位置・方向が適正であり、鉄蓋設置においてはガタツキがなく、仕上がり天端高も適正であることが確認できる。
7 □ インバートは形状・勾配等が適正で、表面の仕上げが適切であることが確認できる。
8 □ 管渠施設内に、土砂・モルタル・その他材料の断片等がなく、清掃されていることが確認できる。
9 □ 掘削時の土留め方法や、推進時の掘進方法による、周辺地盤への影響が見られないことが確認できる。
10 □ 埋戻しにおいて、締固めが適切な方法で施工されており、工事終了後の沈下がみられないことが確認できる。
11 □ 舗装復旧において、その施工が仕様書の規定に従って実施されており、既設舗装との段差がなく、また舗装切断跡が残っていないなど、仕上がり状態がよいことが確認できる。
12 □ 沿道の事前調査が行われ、事後調査を実施すれば対比できるように、整理されていることが確認できる。
13 □ 縁石・柵・標識等の道路付属物の復旧が、適切に行われていることが確認できる。
14 □ その他
理由（　　）

［開削工事］

15 □ 管材料の保管管理が適切に行われていることが確認できる。
16 □ 管渠止めにおいて、止水滑材や接着剤等の、はみ出しなどがないことが確認できる。
17 □ 圧力管の管理が適切に行われていることが確認できる。

［推進工事］

18 □ 管材料の保管管理が適切に行われていることが確認できる。
19 □ 漏水防止工が適切に行われていることが確認できる。
20 □ 薬液注入の材料が適正であり、適切な注入率にもとづき、設計注入量が注入されたことが確認できる。
21 □ 裏込めの注入材料が適正であり、適切な配合にもとづき、設計注入量が注入されたことが確認できる。
22 □ 鋼製カラー・ゴム輪などの継手材料が適正で、かつ適切に施工されていることが確認できる。
23 □ 推進機の機能が土質に適合し、推進力のチェックなどが行われており、かつ安全であることが確認できる。

［シールド工事］

24 □ セグメントの保管管理が適切に行われていることが確認できる。
25 □ 一時覆工時におけるセグメントの組み立てが、適切に行われていることが確認できる。
26 □ 漏水防止工が適切に行われていることが確認できる。
27 □ 薬液注入の材料が適正であり、適切な注入率にもとづき、設計注入量が注入されたことが確認できる。
28 □ 裏込めの注入材料が適正であり、適切な配合にもとづき、設計注入量が注入されたことが確認できる。
29 □ シールド機の機能が土質に適合し、推進力のチェックなどが行われており、かつ安全であることが確認できる。
30 □ 管渠の基準高・水平変位が日々管理されており、異常値がないことが確認できる。

① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は横線を引いて削除する。
② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率（%）計算の値で評価する。
③ 対象評価項目数（　　）＝全項目数（ 30 ）-対象外項目数（　　）
評価値（　% ）＝評価数（　　）／対象評価項目数（　　）
④ なお、削除後の評価項目数が2項目以下の場合は c 評価とする。

●判断基準

		ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能
		50%以下	80%以下	80%を超える	
評価値	90%以上	a	a’	b	b
	75%以上90%未満	a’	b	b’	b’
	60%以上75%未満	b	b’	c	c
	60%未満	b’	c	c	c

注） 試験結果の打点数等が少なく、ばらつきの判断ができない場合は、評価対象項目（評価値）だけで評価する。

□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員等が文書で改善指示を行った。

□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、検査員等が文書で、検査規程第8条に基づく修補指示を行った。

上記1項目該当・・・・・・・・　d
2項目該当・・・・・・・・　e

□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員等が改造請求を指示した。
または、検査規程第7条に基づき、契約担当者が修補工事の請求を行った。

上記項目該当があれば・・・　e

別紙3-3-35

工事成績表の考査項目別運用表

［記入方法］該当する項目の□にレ マークを記入する。

検査員

考査項目	工種		a	a’	b	b’	c	d	e
3．出来形及び出来ばえ Ⅱ．品質	港湾築造工事		品質関係の試験結果のバラツキと評価対象項目の履行状況（評価値）から判断する。＜判断基準参照＞ ［関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験］ ＊ばらつきの判断は別図参照。						
			優れている	bより優れている	やや優れている	cより優れている	他の評価に該当しない	品質がやや不適切である	品質が不適切である
			「評価対象項目」					□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員等が文書で改善指示を行った。	
			［共通］						
		1	□ 濁り防止等、環境保全に十分注意して、施工していることが確認できる。					□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、検査員等が文書で、検査規程第8条に基づく修補指示を行った。	
		2	□ 既設構造物に影響のないよう、十分検討して施工されていることが確認できる。						
		3	□ その他 理由（　　）					上記1項目該当・・・・・・・・　d 2項目該当・・・・・・・・　e	
			［浚渫・床掘関係］						
		4	□ 土砂処分における運搬途中で、漏出していないように施工していることが確認できる。						
		5	□ 浚渫工または床掘工について、仕様書に定められた施工上の注意事項が守られていることが確認できる。						
			［地盤改良関係］						
		6	□ 改良材の品質管理を適切に行っていることが、記録で確認できる。						
		7	□ 浮き泥を巻き込まないように、置き換え材を投入していることが確認できる。						
		8	□ サンドドレーン・砕石ドレーン・サンドコンパクションパイル・ロッドコンパクションパイルが、連続した一様な形状・品質に施工されていることが、打ち込み記録により確認できる。					□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員等が改造請求を指示した。 または、検査規程第7条に基づき、契約担当者が修補工事の請求を行った。	
		9	□ ペーパードレーンが計画深度まで破損なく正常に形成されていることが、打ち込み記録により確認できるとともに、打設をの完了したペーパードレーンの頭部が保護され、排水効果が維持されていることが確認できる。					上記項目該当があれば・・・　e	
		10	□ 深層混合処理の打ち込み記録等から、仕様書に定められていることが確認できる。						
		11	□ 前期以外の改良工法について、仕様書に定められていることが記録から確認できる。						
			［マット・捨石・均し関係］						
		12	□ 捨石・被覆石などの材料の規格・品質が、試験成績表等（現物照合を含む）で確認できる。						
		13	□ マットが破損なく施工され、それが記録により確認できる。						
		14	□ 捨石・被覆石・根固め石が、緩みのないように堅固に施工され、それが記録により確認できる。						
		15	□ 裏込めが、既設構造物および防砂目地板の破損に注意して施工され、それが記録により確認できる。						
			［本体：杭及び矢板、控え工関係］						
		16	□ 鋼材の規格・数量がミルシート等（現物照合を含む）で確認されている。						
		17	□ 鋼材の保管にあたり、変形・塗覆装面に損傷などがないように、適切に処置されていることが確認できる。						
		18	□ 杭及び矢板に損傷及び補修痕がなく、施工されていることが確認できる。						
		19	□ 杭及び矢板の打ち止めの施工管理方法等が整備され、かつ記録が確認できる。						
		20	□ 腹起し材を全長にわたり規定の水平高さに取り付け、ボルトで十分に締め付け、矢板壁に密着させていることが確認できる。						
		21	□ 溶接および切断の品質管理に関して、仕様書に定められた事項が確認できる。						
			［本体：ケーソン据付及びブロック据付関係］						
		22	□ ケーソン仮置きに先立ち仮置き場を調査し、仮置き作業が所定の位置に異常なく行われていることが確認できる。						
		23	□ ケーソン据付に先立ち気象・海象等を十分調査し、据え付け作業が所定の精度で行われていることが確認できる。						
		24	□ ケーソン据付および中詰において、ケーソン及び既設構造物の破損がなく、施工されていることが確認できる。						
		25	□ コンクリートブロック据付に先立ち気象・海象等を十分調査し、据え付け作業が所定の精度で行われていることが確認できる。						
		26	□ ブロック据付等において、ブロック及び既設構造物の破損がなく、施工されていることが確認できる。						

① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は横線を引いて削除する。
② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率（%）計算の値で評価する。
③ 対象評価項目数（　　）＝全項目数（ 26 ）-対象外項目数（　　）
　評価値（　% ）＝評価数（　　）／対象評価項目数（　　）
④ なお、削除後の評価項目数が2項目以下の場合は c 評価とする。

●判断基準

		ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能
		50%以下	80%以下	80%を超える	
評価値	90%以上	a	a’	b	b
	75%以上90%未満	a’	b	b’	b’
	60%以上75%未満	b	b’	c	c
	60%未満	b’	c	c	c

注） 試験結果の打点数等が少なく、ばらつきの判断ができない場合は、評価対象項目（評価値）だけで評価する。

別紙3-3-36

工事成績表の考査項目別運用表

［記入方法］該当する項目の□にレ マークを記入する。　　検査員

考査項目	工種		a	a’	b	b’	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ Ⅱ. 品質	港湾ブロック据付工事 評価対象項目のみで評価		□ 品質関係の試験結果のバラツキと評価対象項目の履行状況（評価値）から判断する。＜判断基準参照＞ ［関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験］ ＊ばらつきの判断は別図参照。						
			優れている	bより優れている	やや優れている	cより優れている	他の評価に該当しない	品質がやや不適切である	品質が不適切である
			「評価対象項目」 1 □ 気象・海象条件に適した、運搬・据付を行っていることが確認できる。 2 □ コンクリートブロックの転置き・仮置き・据付に際し、強度確認を行っていることが確認できる。 3 □ コンクリートブロックの仮置きは、転倒・崩壊等の恐れがないことが確認できる。 4 □ コンクリートブロックの据付の、施工上の注意事項（仕様書等による）が守られていることが確認できる。 5 □ 捨て石基礎の均し面又はかごマット等が、破損なく施工されていることが記録により確認できる。 6 □ その他 理由（　　）					□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員等が文書で改善指示を行った。 □ 測定方法又は測定値が不適切であったため、検査員等が文書で、検査規程第8条に基づく修補指示を行った。 上記1項目該当・・・・・・・・d 2項目該当・・・・・・・・ e □ 測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員等が改造請求を指示した。 または、検査規程第7条に基づき、契約担当者が修補工事の請求を行った。 上記項目該当があれば・・e	

① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は横線を引いて削除する。
② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率（%）計算の値で評価する。
③ 対象評価項目数（　　）＝全項目数（　６　）-対象外項目数（　　）
　評価値（　　%）＝評価数（　　）／対象評価項目数（　　）
④ なお、削除後の評価項目数が2項目以下の場合はｃ評価とする。

●判断基準
該当項目が90%以上・・・・・・・・・・・・・・・・・a
該当項目が80%以上90%未満・・・・・・・・・a’
該当項目が70%以上80%未満・・・・・・・・・b
該当項目が60%以上70%未満・・・・・・・・・b’
該当項目が60%未満・・・・・・・・・・・・・・・・・c

別紙3-3-37

工事成績表の考査項目別運用表

［記入方法］該当する項目の□に レ マークを記入する。　　検査員

考査項目	工種		a	a’	b	b’	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ Ⅱ. 品質	港湾維持修繕工事 （電気・防食塗装・被覆防食工）		品質関係の試験結果のバラツキと評価対象項目の履行状況（評価値）から判断する。＜判断基準参照＞ ［関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験］ ＊ばらつきの判断は別図参照。						
			優れている	bより優れている	やや優れている	cより優れている	他の評価に該当しない	品質がやや不適切である	品質が不適切である
			「評価対象項目」						
		1	□ 陽極の規格が証明書類で確認できる。					□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員等が文書で改善指示を行った。	
		2	□ 陽極の設置までに、さび・泥・油等の有害物質が、陽極に付着しないように、管理していることが確認できる。						
		3	□ ボンド及び立ち上がり鉄筋は、白ペイントで塗装されていることが確認できる。						
		4	□ 陽極板の電流効率等（陽極電位・発生電流）が、承諾された値を満足していることが確認できる。					□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、検査員等が文書で、検査規程第8条に基づく修補指示を行った。	
		5	□ 陽極の取り付け位置が確認できる。						
		6	□ 溶接部の下地処理が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。						
		7	□ 溶接の形状寸法（のど厚・脚長・溶接長等）が確認できる。						
		8	□ 電気防食の効果確認が、整理・記録されている。						
		9	□ 防食塗装工では、雨天または波浪による海水のしぶきが著しい場合、及び空中湿度85%以上の場合は、作業を中止していることが確認できる。						
		10	□ 被覆防食の種類・規格・品質・材質は、設計図書等の定めと一致していることが確認できる。						
		11	□ その他 理由（　　）					□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員等が改造請求を指示した。 または、検査規程第7条に基づき、契約担当者が修補工事の請求を行った。	
								上記1項目該当・・・・・・・・d 2項目該当・・・・・・・・ e	
								上記項目該当があれば・・e	

① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は横線を引いて削除する。
② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率（%）計算の値で評価する。
③ 対象評価項目数（　　）＝全項目数（ 11 ）-対象外項目数（　　）
　評価値（　% ）＝評価数（　　）／対象評価項目数（　　）
④ なお、削除後の評価項目数が2項目以下の場合は c 評価とする。

●判断基準

		ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能
		50%以下	80%以下	80%を超える	
評価値	90%以上	a	a’	b	b
	75%以上90%未満	a’	b	b’	b’
	60%以上75%未満	b	b’	c	c
	60%未満	b’	c	c	c

注） 試験結果の打点数等が少なく、ばらつきの判断ができない場合は、評価対象項目（評価値）だけで評価する。

別紙3-3-38

工事成績表の考査項目別運用表

［記入方法］該当する項目の□にレ マークを記入する。　　検査員

考査項目	工種		a	a’	b	b’	c	d	e
3．出来形及び出来ばえ Ⅱ．品質	港湾維持修繕工事 （電気防食材設置工事）		品質関係の試験結果のバラツキと評価対象項目の履行状況（評価値）から判断する。＜判断基準参照＞ ［関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験］ ＊ばらつきの判断は別図参照。						
			優れている	bより優れている	やや優れている	cより優れている	他の評価に該当しない	品質がやや不適切である	品質が不適切である
			「評価対象項目」 1 □ 電気防食材の規格が証明書類で確認できる。 2 □ 電気防食材の設置までの保管管理が、適切であることが確認できる。 3 □ 電気防食材と構造物の取り付け面が平滑であり、取り付けが適切であることが確認できる。 4 □ 電気防食材が強固に取り付けられていることが確認できる。 5 □ 電気防食材に損傷等がなく、有害な欠点がみられない。 6 □ その他 理由（　　）					□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員等が文書で改善指示を行った。 □ 測定方法又は測定値が不適切であったため、検査員等が文書で、検査規程第8条に基づく修補指示を行った。 上記1項目該当・・・・・・・・d 2項目該当・・・・・・・・ e □ 測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員等が改造請求を指示した。 または、検査規程第7条に基づき、契約担当者が修補工事の請求を行った。 上記項目該当があれば・・e	

① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は横線を引いて削除する。
② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率（%）計算の値で評価する。
③ 対象評価項目数（　　）＝全項目数（　6　）-対象外項目数（　　）
　評価値（　%　）＝評価数（　　）／対象評価項目数（　　）
④ なお、削除後の評価項目数が2項目以下の場合はｃ評価とする。

●判断基準

		ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能
		50%以下	80%以下	80%を超える	
評価値	90%以上	a	a’	b	b
	75%以上90%未満	a’	b	b’	b’
	60%以上75%未満	b	b’	c	c
	60%未満	b’	c	c	c

注）試験結果の打点数等が少なく、ばらつきの判断ができない場合は、評価対象項目（評価値）だけで評価する。

別紙3-3-39

工事成績表の考査項目別運用表

［記入方法］該当する項目の□にレ マークを記入する。　　検査員

考査項目	工種		a	a’	b	b’	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ Ⅱ. 品質	港湾維持修繕工事 （防舷材設置工事）		品質関係の試験結果のバラツキと評価対象項目の履行状況（評価値）から判断する。＜判断基準参照＞ ［関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験］ ＊ばらつきの判断は別図参照。						
			優れている	bより優れている	やや優れている	cより優れている	他の評価に該当しない	品質がやや不適切である	品質が不適切である
			「評価対象項目」 1 □ 防舷材の規格が証明書類で確認できる。 2 □ 防舷材の設置までの保管管理が、適切であることが確認できる。 3 □ 防舷材と構造物の取り付け面が平滑であり、取り付けが適切であることが確認できる。 4 □ アンカーボルトが強固に取り付けられていることが確認できる。 5 □ ボルトの締め付け確認が実施され、資料が管理されている。 6 □ 防舷材に損傷等がなく、有害な欠点がみられない。 7 □ その他 理由（　　）					□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員等が文書で改善指示を行った。 □ 測定方法又は測定値が不適切であったため、検査員等が文書で、検査規程第8条に基づく修補指示を行った。 上記1項目該当・・・・・・・・d 2項目該当・・・・・・・・ e □ 測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員等が改造請求を指示した。 または、検査規程第7条に基づき、契約担当者が修補工事の請求を行った。 上記項目該当があれば・・e	

① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は横線を引いて削除する。
② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率（%）計算の値で評価する。
③ 対象評価項目数（　　）＝全項目数（　7　）-対象外項目数（　　）
　評価値（　%　）＝評価数（　　）／対象評価項目数（　　）
④ なお、削除後の評価項目数が2項目以下の場合はｃ評価とする。

●判断基準

		ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能
		50%以下	80%以下	80%を超える	
評価値	90%以上	a	a’	b	b
	75%以上90%未満	a’	b	b’	b’
	60%以上75%未満	b	b’	c	c
	60%未満	b’	c	c	c

注）試験結果の打点数等が少なく、ばらつきの判断ができない場合は、評価対象項目（評価値）だけで評価する。

別紙3-3-40

工事成績表の考査項目別運用表

［記入方法］該当する項目の□に レ マークを記入する。　　検査員

考査項目	工種		a	a’	b	b’	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ Ⅱ. 品質	海岸工事		□ 品質関係の試験結果のバラツキと評価対象項目の履行状況（評価値）から判断する。＜判断基準参照＞ ［関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験］ ＊ばらつきの判断は別図参照。						
			優れている	bより優れている	やや優れている	cより優れている	他の評価に該当しない	品質がやや不適切である	品質が不適切である
			「評価対象項目」						
		1	□ コンクリートの圧縮強度を管理し、必要な強度に達した後に、型枠・支保工の取り外しを行っていることが確認できる。					□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員等が文書で改善指示を行った。	
		2	□ 運搬・打設・締固めが、気象条件に適しており、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。						
		3	□ 圧縮強度試験に使用したコンクリート供試体が、当該現場の供試体であることが確認できる。					□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、検査員等が文書で、検査規程第8条に基づく修補指示を行った。	
		4	□ コンクリートブロックの転置き及び仮置きにあたって、強度確認を行っている。						
		5	□ 転倒や崩壊等がないように、コンクリートブロックの仮置きを行っていることが確認できる。					上記1項目該当・・・・・・・・d 2項目該当・・・・・・・・ e	
		6	□ 捨て石基礎の均し面を、平坦に仕上げていることが確認できる。						
		7	□ 工事期間中、1日1回は潮位観測を実施して、記録していることが確認できる。					□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員等が改造請求を指示した。 または、検査規程第7条に基づき、契約担当者が修補工事の請求を行った。	
		8	□ 台風などの異常気象に備えて、施工前に避難場所の確保及び待避設備の対策を講じていることが確認できる。						
		9	□ その他 理由（　　）					上記項目該当があれば・・e	

① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は横線を引いて削除する。
② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率（%）計算の値で評価する。
③ 対象評価項目数（　　）＝全項目数（ 9 ）-対象外項目数（　　）
　評価値（　% ）＝評価数（　　）／対象評価項目数（　　）
④ なお、削除後の評価項目数が2項目以下の場合は c 評価とする。

●判断基準

		ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能
		50%以下	80%以下	80%を超える	
評価値	90%以上	a	a’	b	b
	75%以上90%未満	a’	b	b’	b’
	60%以上75%未満	b	b’	c	c
	60%未満	b’	c	c	c

注） 試験結果の打点数等が少なく、ばらつきの判断ができない場合は、評価対象項目（評価値）だけで評価する。

別紙3-3-41

工事成績表の考査項目別運用表

［記入方法］該当する項目の□に レ マークを記入する。　　検査員

考査項目	工種		a	a’	b	b’	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ Ⅱ. 品質	トンネル工事		□ 品質関係の試験結果のバラツキと評価対象項目の履行状況（評価値）から判断する。＜判断基準参照＞ ［関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験］ ＊ばらつきの判断は別図参照。						
			優れている	bより優れている	やや優れている	cより優れている	他の評価に該当しない	品質がやや不適切である	品質が不適切である
			「評価対象項目」						
		1	□ コンクリートの配合試験及び試験練りが行われており、コンクリートの品質（強度・W／C・最大骨材粒径・塩基総量・単位水量・アルカリ骨材反応等）が確認できる。					□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員等が文書で改善指示を行った。	
		2	□ コンクリート受け入れ時に必要な試験を実施しており、強度・スランプ・空気量等の測定結果が確認できる。						
		3	□ 圧縮強度試験に使用したコンクリート供試体が、当該現場の供試体であることが確認できる。					□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、検査員等が文書で、検査規程第8条に基づく修補指示を行った。	
		4	□ 施工条件及び気象条件に適した運搬時間・打設時の投入高さ・締固め方法が、定められた条件を満足していることが確認できる。						
		5	□ 吹き付けコンクリートの配合、及びロックボルトの種別・規格が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。					上記1項目該当・・・・・・・・d 2項目該当・・・・・・・・ e	
		6	□ 設計図書に定められた岩区分（支保工パターンを含む）の境界を確認し、施工していることが確認できる。						
		7	□ 坑内観察調査などについて、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。						
		8	□ 計測管理を日々行っており、その結果に基づいた施工を行っていることが確認できる。						
		9	□ 金網の継ぎ目を、15cm以上重ね合わせて施工していることが確認できる。						
		10	□ 吹き付けコンクリートの施工にあたって、浮石等を除いた後に、吹き付けコンクリートの一層の厚さが15cm以下で、地山と密着するよう施工していることが確認できる。					□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員等が改造請求を指示した。 または、検査規程第7条に基づき、契約担当者が修補工事の請求を行った。	
		11	□ 吹付けコンクリートを打継ぎする場合は、吹付け完了面を清掃した上、湿潤状態で施工していることが確認できる。						
		12	□ ロックボルトの定着長が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。						
		13	□ 防水工に防水シートを使用する場合は、ロックボルト等の突起物部に、モルタルや保護マット等で防護対策を行っていることが確認できる。					上記項目該当があれば・・e	
		14	□ 逆巻きの場合において、側壁コンクリートとアーチコンクリートの打継ぎ面が、同一線上で施工していないことが確認できる。						
		15	□ その他 理由（　　）						

① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は横線を引いて削除する。
② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率（%）計算の値で評価する。
③ 対象評価項目数（　　）＝全項目数（ 15 ）-対象外項目数（　　）
　評価値（　% ）＝評価数（　　）／対象評価項目数（　　）
④ なお、削除後の評価項目数が2項目以下の場合は c 評価とする。

●判断基準

		ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能
		50%以下	80%以下	80%を超える	
評価値	90%以上	a	a’	b	b
	75%以上90%未満	a’	b	b’	b’
	60%以上75%未満	b	b’	c	c
	60%未満	b’	c	c	c

注） 試験結果の打点数等が少なく、ばらつきの判断ができない場合は、評価対象項目（評価値）だけで評価する。

別紙3-3-42

工事成績表の考査項目別運用表

［記入方法］該当する項目の□に レ マークを記入する。　　検査員

考査項目	工種		a	a’	b	b’	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ Ⅱ. 品質			品質関係の試験結果のバラツキと評価対象項目の履行状況（評価値）から判断する。＜判断基準参照＞ ［関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験］ ＊ばらつきの判断は別図参照。						
			優れている	bより優れている	やや優れている	cより優れている	他の評価に該当しない	品質がやや不適切である	品質が不適切である
	バラツキによる評価が適切な工事		「評価対象項目」					□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員等が文書で改善指示を行った。 □ 測定方法又は測定値が不適切であったため、検査員等が文書で、検査規程第8条に基づく修補指示を行った。 上記1項目該当・・・・・・・・d 2項目該当・・・・・・・・ e □ 測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員等が改造請求を指示した。 または、検査規程第7条に基づき、契約担当者が修補工事の請求を行った。 上記項目該当があれば・・e	
		1	□						
		2	□						
		3	□						
		4	□						
		5	□						
		6	□						
		7	□						
		8	□						
		9	□						
		10	□						
		11	□						
		12	□						
		13	□						
		14	□						
		15	□						
		16	□						
		17	□						
		18	□						
		19	□						

① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は横線を引いて削除する。
② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率（%）計算の値で評価する。
③ 対象評価項目数（　　）＝全項目数（ 19 ）-対象外項目数（　　）
　評価値（　% ）＝評価数（　　）／対象評価項目数（　　）
④ なお、削除後の評価項目数が2項目以下の場合は c 評価とする。

●判断基準

		ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能
		50%以下	80%以下	80%を超える	
評価値	90%以上	a	a’	b	b
	75%以上90%未満	a’	b	b’	b’
	60%以上75%未満	b	b’	c	c
	60%未満	b’	c	c	c

注） 試験結果の打点数等が少なく、ばらつきの判断ができない場合は、評価対象項目（評価値）だけで評価する。

別紙3-3-43

工事成績表の考査項目別運用表

［記入方法］該当する項目の□に レ マークを記入する。　　検査員

考査項目	工種		a	a’	b	b’	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ Ⅱ. 品質			品質関係の試験結果のバラツキと評価対象項目の履行状況（評価値）から判断する。＜判断基準参照＞ ［関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験］ ＊ばらつきの判断は別図参照。						
			優れている	bより優れている	やや優れている	cより優れている	他の評価に該当しない	品質がやや不適切である	品質が不適切である
	バラツキによる評価が不適切な工事		「評価対象項目」						
		1	□					□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員等が文書で改善指示を行った。	
		2	□						
		3	□					□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、検査員等が文書で、検査規程第8条に基づく修補指示を行った。	
		4	□						
		5	□					上記1項目該当・・・・・・・・d	
		6	□					2項目該当・・・・・・・・ e	
		7	□						
		8	□						
		9	□					□ 測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員等が改造請求を指示した。 または、検査規程第7条に基づき、契約担当者が修補工事の請求を行った。	
		10	□						
		11	□					上記項目該当があれば・・e	
		12	□						
		13	□						
		14	□						
		15	□						
		16	□						
		17	□						
		18	□						
		19	□						

① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は横線を引いて削除する。
② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率（%）計算の値で評価する。
③ 対象評価項目数（　　）＝全項目数（ 19 ）-対象外項目数（　）
　評価値（　% ）＝評価数（　　）／対象評価項目数（　）
④ なお、削除後の評価項目数が2項目以下の場合は c 評価とする。

●判断基準
該当項目が90%以上・・・・・・・・・・・・・・・・・a
該当項目が80%以上90%未満・・・・・・・・・a’
該当項目が70%以上80%未満・・・・・・・・・b
該当項目が60%以上70%未満・・・・・・・・・b’
該当項目が60%未満・・・・・・・・・・・・・・・・・c

別紙3-4-1

工事成績表の考査項目別運用表

［記入方法］該当する項目の□に レ マークを記入する。

検査員

考査項目	工種	a 仕上げがきめ細かく、全体的に美観がよい 優れている	b やや優れている	c 他の事項に該当しない	d 仕上げが悪く、全体的に美観が悪い
3. 出来形及び出来ばえ Ⅲ. 出来ばえ	コンクリート構造物工事 砂防構造物工事 海岸工事 トンネル工事 RC床版工事	□ コンクリート構造物の肌が良い。 □ コンクリート構造物の通りが良い。 □ 天端仕上げ、端部仕上げ等が良い。 □ クラックがない。 □ 漏水がない。 □ 全体的な美観が良い。		＊ 該当5項目以上‥‥‥‥ a 該当4項目 ‥‥‥‥ b 該当3項目 ‥‥‥‥ c 該当2項目以下‥‥‥‥ d	
	土工事 （盛土工事・築堤工事等）	□ 仕上げが良い。 □ 通りが良い。 □ 端部処理が良い。 □ 構造物へのすりつけ等が良い。 □ 全体的な美観が良い。		＊ 該当4項目以上‥‥‥‥ a 該当3項目 ‥‥‥‥ b 該当2項目 ‥‥‥‥ c 該当1項目以下‥‥‥‥ d	
	土工事 （切土工事）	□ 規定された勾配が確保されている。 □ 切土法面の施工にあたって、法面の浮石が除去されている等、適切に施工されている。 □ 法面勾配の変化部について、干渉部等を設けるなど、適切に施工されている。 □ 滞水などによる施工面の損傷が発生しないよう、処理が行われている。 □ 関係構造物等との取り合いが、設計図書を満足するよう施工されている。 □ 全体的な美観が良い。		＊ 該当5項目以上‥‥‥‥ a 該当4項目 ‥‥‥‥ b 該当3項目 ‥‥‥‥ c 該当2項目以下‥‥‥‥ d	
	護岸・根固め・水制工事	□ 通りが良い。 □ 材料のかみ合わせが良い、またはクラックがない。 □ 天端、端部の仕上げが良い。 □ 既設構造物とのすりつけが良い。 □ 全体的な美観が良い。		＊ 該当4項目以上‥‥‥‥ a 該当3項目 ‥‥‥‥ b 該当2項目 ‥‥‥‥ c 該当1項目以下‥‥‥‥ d	
	舗装工事	□ 舗装の平坦性が良い。 □ 構造物の通りが良い。 □ 端部処理が良い。 □ 構造物へのすりつけ等が良い。 □ 雨水処理が良い。 □ 全体的な美観が良い。		＊ 該当5項目以上‥‥‥‥ a 該当4項目 ‥‥‥‥ b 該当3項目 ‥‥‥‥ c 該当2項目以下‥‥‥‥ d	
	基礎工工事 （地盤改良等を含む）	□ 土工関係の仕上げが良い。 □ 通りが良い。 □ 端部、天端仕上げが良い。 □ 施工管理記録等から、不可視部分の出来ばえの良さがうかがえる。		＊ 該当3項目以上‥‥‥‥ a 該当2項目 ‥‥‥‥ b 該当1項目 ‥‥‥‥ c 該当項目なし ‥‥‥‥ d	
	現場打ち用水路工事 コンクリート二次製品水路工事	□ 土工の仕上げが良い。 □ 水路底が平滑・均平で、線形が通っている。 □ 部材のかみ合わせ、または連結等が、適切に施工されている。 □ 止水板・伸縮目地・ダウエルバーの取り付けが良い。 □ 土羽や床版など他の構造物との取り付きが良い。 □ 天端仕上げ、端部仕上げ等が良い。 □ 全体的な美観が良い。		＊ 該当5項目以上‥‥‥‥ a 該当4項目 ‥‥‥‥ b 該当3項目 ‥‥‥‥ c 該当2項目以下 ‥‥‥‥ d	

別紙3-4-2

工事成績表の考査項目別運用表

［記入方法］該当する項目の□に レ マークを記入する。

検査員

考査項目	工種	a 仕上げがきめ細かく、全体的に美観がよい 優れている	b やや優れている	c 他の事項に該当しない	d 仕上げが悪く、全体的に美観が悪い
3. 出来形及び出来ばえ Ⅲ. 出来ばえ	ブロック舗装工事 （インターロッキング・タイル系舗装）	□ 仕上げがよい。 □ 通りがよい。 □ かみ合わせがよい。 □ 構造物へのすり付け等、端部の仕上げがよい。 □ 全体的な美観がよい。		＊ 該当4項目以上‥‥‥‥ a 該当3項目 ‥‥‥‥ b 該当2項目 ‥‥‥‥ c 該当1項目以下‥‥‥‥ d	
	解体工事	□ きめ細かな施工がなされ、解体後の整地の状態がよい。 □ 関連工事(工種)または既存部分との調整がなされ、調和がよい仕上がりである。 □ 跡地の利用者の安全に対する配慮に優れている。 □ 全般的な仕上がり状態が良好である。 □ その他（ ）		＊ 該当4項目以上‥‥‥‥ a 該当3項目 ‥‥‥‥ b 該当2項目 ‥‥‥‥ c 該当1項目以下‥‥‥‥ d	
	補強土壁工事	□ 仕上げがよい。 □ 通りがよい。 □ 端部処理がよい。 □ 構造物へのすり付け等がよい。 □ 全体的な美観がよい。		＊ 該当4項目以上‥‥‥‥ a 該当3項目 ‥‥‥‥ b 該当2項目 ‥‥‥‥ c 該当1項目以下‥‥‥‥ d	
	軽量盛土工事	□ 仕上げがよい。 □ 通りがよい。 □ 端部処理がよい。 □ 構造物へのすり付け等がよい。 □ 全体的な美観がよい。		＊ 該当4項目以上‥‥‥‥ a 該当3項目 ‥‥‥‥ b 該当2項目 ‥‥‥‥ c 該当1項目以下‥‥‥‥ d	
		□ □ □ □ □			
		□ □ □ □ □			
		□ □ □ □ □			
		□ □ □ □ □			

別紙3-4-3

工事成績表の考査項目別運用表

［記入方法］該当する項目の□に レ マークを記入する。

検査員

考査項目	工種	a 仕上げがきめ細かく、全体的に美観がよい 優れている	b やや優れている	c 他の事項に該当しない	d 仕上げが悪く、全体的に美観が悪い
3. 出来形及び出来ばえ Ⅲ. 出来ばえ	法面工事 （植生工・コン吹付工など）	□ 通りが良い。 □ 植生、吹き付け等の状態が均一である。 □ 端部処理が良い。 □ 全体的な美観が良い。		＊ 該当3項目以上・・・・・・・ a 該当2項目　・・・・・・・ b 該当1項目　・・・・・・・ c 該当項目なし ・・・・・・・ d	
	法面工事 （ロックネットエ カーテンネット工・CCM協会用 ロープネット工・CCM協会用）	□ 通りが良い。 □ 端部処理が良い。 □ 部材表面に傷・さびがない。 □ きめ細かな施工がなされている。 □ 全体的な美観が良い。		＊ 該当4項目以上・・・・・・・ a 該当3項目　・・・・・・・ b 該当2項目　・・・・・・・ c 該当1項目以下・・・・・・・ d	

別紙3-4-4

工事成績表の考査項目別運用表

［記入方法］該当する項目の□にレ マークを記入する。

検査員

考査項目	工種	a 仕上げがきめ細かく、全体的に美観がよい 優れている	b やや優れている	c 他の事項に該当しない	d 仕上げが悪く、全体的に美観が悪い
3. 出来形及び出来ばえ Ⅲ. 出来ばえ	アンカー工	□ 表面に補修箇所・さび等がない。 □ 施工管理記録等から、不可視部の出来ばえの良さが伺える。 □ 受圧版（張りコン、プレキャスト）等の、肌・配置等が良い。 □ 天端仕上げ・端部の取り合い等が良い。 □ 全体的な美観が良い。		＊ 該当4項目以上・・・・・・・ a 該当3項目 ・・・・・・・ b 該当2項目 ・・・・・・・ c 該当1項目以下・・・・・・・ d	
		□ □ □ □ □		＊ 該当4項目以上・・・・・・・ a 該当3項目 ・・・・・・・ b 該当2項目 ・・・・・・・ c 該当1項目以下・・・・・・・ d	
	鋼製フトンかご工	□ 構造物の通りが良い。 □ 部材表面に、傷・さび等がない。 □ 地山との取り合いが良い。 □ 施工管理記録等から、不可視部の出来ばえの良さがうかがえる。 □ 全体的な美観が良い。		＊ 該当4項目以上・・・・・・・ a 該当3項目 ・・・・・・・ b 該当2項目 ・・・・・・・ c 該当1項目以下・・・・・・・ d	
	暗渠排水管工	□ 基礎面や砂巻きが、均平にできている。 □ 埋戻し面の転圧が、均平にできている。 □ 端部の構造物との取り合いが良い。 □ 施工状況写真等から、接続部等の不可視部の出来ばえの良さがうかがえる。 □ 全体的な美観が良い。		＊ 該当4項目以上・・・・・・・ a 該当3項目 ・・・・・・・ b 該当2項目 ・・・・・・・ c 該当1項目以下・・・・・・・ d	
		□ □ □ □ □		＊ 該当4項目以上・・・・・・・ a 該当3項目 ・・・・・・・ b 該当2項目 ・・・・・・・ c 該当1項目以下・・・・・・・ d	
		□ □ □ □ □		＊ 該当4項目以上・・・・・・・ a 該当3項目 ・・・・・・・ b 該当2項目 ・・・・・・・ c 該当1項目以下・・・・・・・ d	
		□ □ □ □ □		＊ 該当4項目以上・・・・・・・ a 該当3項目 ・・・・・・・ b 該当2項目 ・・・・・・・ c 該当1項目以下・・・・・・・ d	
		□ □ □ □ □		＊ 該当4項目以上・・・・・・・ a 該当3項目 ・・・・・・・ b 該当2項目 ・・・・・・・ c 該当1項目以下・・・・・・・ d	

別紙3-4-5

工事成績表の考査項目別運用表

［記入方法］該当する項目の□に レ マークを記入する。　　検査員

考査項目	工種	a 仕上げがきめ細かく、全体的に美観がよい 優れている	b やや優れている	c 他の事項に該当しない	d 仕上げが悪く、全体的に美観が悪い
3. 出来形及び出来ばえ Ⅲ. 出来ばえ	鋼橋工事 （堰・水門等工場製作の鋼構造物を含む）	□ 表面に補修箇所がない。 □ 部材表面に傷、さびがない。 □ 溶接に均一性がある。 □ 塗装に均一性がある。 □ 全体的な美観が良い。		＊ 該当4項目以上・・・・・・・ a 該当3項目　・・・・・・・ b 該当2項目　・・・・・・・ c 該当1項目以下・・・・・・・ d	
	コンクリート橋工事	□ コンクリート構造物の肌が良い。 □ コンクリート構造物の通りが良い。 □ 天端仕上げ、端部仕上げ等が良い。 □ 支承部の仕上げが良い。 □ クラックがない。 □ 漏水がない。 □ 全体的な美観が良い。		＊ 該当6項目以上・・・・・・・ a 該当4～5項目 ・・・・・・・ b 該当3項目　・・・・・・・ c 該当2項目以下・・・・・・・ d	
	塗装工事 （工場塗装を除く）	□ 塗装の均一性が良い。 □ 細部までできめ細かな施工がされている。 □ 補修箇所がない。 □ ケレンの施工状況が良好である。 □ 全体的な美観が良い。		＊ 該当4項目以上・・・・・・・ a 該当3項目　・・・・・・・ b 該当2項目　・・・・・・・ c 該当1項目以下 ・・・・・・・ d	
	地すべり防止工事 （集水井工事を含む）	□ 地山との取り合いが良い。 □ 天端、端部の仕上げが良い。 □ 施工管理記録等から、不可視部分の出来ばえの良さがうかがえる。 □ 全体的な美観が良い。		＊ 該当3項目以上・・・・・・・ a 該当2項目　・・・・・・・ b 該当1項目　・・・・・・・ c 該当項目なし ・・・・・・・ d	
	植栽工事	□ 樹木の活着状況が良い。 □ 支柱の取り付けが、きめ細かく施工されている。 □ 支柱の取り付けが、堅固である。 □ 植栽帯の全体的な美観が良い。		＊ 該当3項目以上・・・・・・・ a 該当2項目　・・・・・・・ b 該当1項目　・・・・・・・ c 該当項目なし ・・・・・・・ d	
	浚渫工事	□ 記録紙等から、不可視部分の出来ばえがよいことが確認できる。 □ 横断図等から、通りが良い、また指定された法勾配が確保されていることが確認できる。 □ 横断図等から、端部処理が良いことが確認できる。 □ 測深記録にばらつきがなく、全体的な美観が良い。		＊ 該当3項目以上・・・・・・・ a 該当2項目　・・・・・・・ b 該当1項目　・・・・・・・ c 該当項目なし ・・・・・・・ d	

別紙3-4-6

工事成績表の考査項目別運用表

［記入方法］該当する項目の□に レ マークを記入する。

検査員

考査項目	工種	a 仕上げがきめ細かく、全体的に美観がよい 優れている	b やや優れている	c 他の事項に該当しない	d 仕上げが悪く、全体的に美観が悪い
3. 出来形及び出来ばえ Ⅲ. 出来ばえ	防護柵(網)工事	□ 通りが良い。 □ 端部処理が良い。 □ 部材表面に傷、さびがない。 □ 既設構造物とのすり付けが良い。 □ きめ細かな施工がなされている。 □ 全体的な美観が良い。		＊ 該当5項目以上・・・・・・・ a 該当4項目 ・・・・・・・ b 該当3項目 ・・・・・・・ c 該当2項目以下・・・・・・・ d	
	標識工事	□ 設置位置に配慮がある。 □ 標識の向き、角度、支柱の通りが良い。 □ 標識板、支柱に変色がない。 □ 支柱基礎の埋め戻し等が入念に施工されている。 □ 全体的な美観がよい。		＊ 該当4項目以上・・・・・・・ a 該当3項目 ・・・・・・・ b 該当2項目 ・・・・・・・ c 該当1項目以下・・・・・・・ d	
	区画線工事	□ 塗料の塗布が均一である。 □ 視認性が良い。 □ 接着状態が良い。 □ 施工前の清掃が入念に実施されている。 □ 全体的な美観がよい。		＊ 該当4項目以上・・・・・・・ a 該当3項目 ・・・・・・・ b 該当2項目 ・・・・・・・ c 該当1項目以下・・・・・・・ d	
	維持修繕工事	□ 小構造物等にも細心の注意が払われている。 □ きめ細かな施工がなされている。 □ 既設構造物とのすり付けが良い。 □ 全体的な美観が良い。		＊ 該当3項目以上・・・・・・・ a 該当2項目 ・・・・・・・ b 該当1項目 ・・・・・・・ c 該当項目なし ・・・・・・・ d	
	橋梁修繕工 (断面修復、クラック補修等)	□ 既設部と修繕部の擦り付けが良い(段差等がない) □ 施工管理記録等から不可視部分の出来ばえの良さが伺える。 □ 修繕箇所の表面及び端部の仕上げが良い。 □ きめ細かな施工がなされている。 □ 全体的な美観が良い。		＊ 該当4項目以上・・・・・・・ a 該当3項目 ・・・・・・・ b 該当2項目 ・・・・・・・ c 該当1項目以下・・・・・・・ d	
		□ □ □ □			

別紙3-4-7

工事成績表の考査項目別運用表

［記入方法］該当する項目の□に レ マークを記入する。　　検査員

考査項目	工種	a 仕上げがきめ細かく、全体的に美観がよい 優れている	b やや優れている	c 他の事項に該当しない	d 仕上げが悪く、全体的に美観が悪い
3. 出来形及び出来ばえ Ⅲ. 出来ばえ	ほ場整備工事	□ 基盤面が均平にできて見栄えが良い。 □ 表土が均平にできて見栄えが良い。 □ 用・排水路の通りが良い。 □ 土工の通りが良い。 □ 土羽等の構造物とのすりつけが良い。 □ 耕作道の路面が均平で線形も良い。 □ 全体的な美観が良い。		＊ 該当6項目以上・・・・・・・ a 該当4～5項目 ・・・・・・・ b 該当3項目 ・・・・・・・ c 該当2項目以下・・・・・・・ d	
	管水路工事	□ 基礎や砂巻きが均平にできている。 □ 埋め戻しの転圧が均平にできている。 □ 旧舗装面はカッターで丁寧に切り取られている。 □ 舗装復旧面の既設舗装面との取り付けが良い。 □ 給水栓の設置状況が良く、見栄えも良い。 □ 管水路の仕切り弁や空気弁ボックスの天端が、道路面に適合している。 □ 全体的な美観が良い。		＊ 該当6項目以上・・・・・・・ a 該当4～5項目 ・・・・・・・ b 該当3項目 ・・・・・・・ c 該当2項目以下・・・・・・・ d	
	ため池工事	□ 土工の仕上げが良い。 □ 土工の通りが良い。 □ 土工の構造物等へのすりつけが良い。 □ 吹き付け（植生・コンクリート等）の状態が均一である。 □ コンクリート構造物の肌が良い。 □ コンクリート構造物の通りが良い。 □ 天端仕上げ、端部仕上げ等が良い。 □ クラックがない。 □ 漏水がない。 □ 施設の通りが良い。（排水側溝、フェンス等） □ 全体的な美観が良い。		＊ 該当9項目以上・・・・・・・ a 該当7～8項目 ・・・・・・・ b 該当6項目 ・・・・・・・ c 該当5項目以下・・・・・・・ d	

別紙3-4-8

工事成績表の考査項目別運用表

［記入方法］該当する項目の□にレ マークを記入する。

検査員

考査項目	工種	a 仕上げがきめ細かく、全体的に美観がよい 優れている	b やや優れている	c 他の事項に該当しない	d 仕上げが悪く、全体的に美観が悪い
3. 出来形及び出来ばえ Ⅲ. 出来ばえ	機械設備工事	□ 主設備、関連設備、操作制御設備が全体的に統制されており、運転操作性が良い。 □ きめ細かな施工がなされている。 □ 土木構造物、既設構造物等とのすり付けが良い。 □ 溶接・塗装・組立等にあたって、細部にわたる配慮がなされている。 □ 全体的な美観が良い。		＊ 該当4項目以上・・・・・・・ a 該当3項目 ・・・・・・・ b 該当2項目 ・・・・・・・ c 該当1項目以下・・・・・・・ d	
	電気設備工事 照明設備工事 その他類似工事	□ きめ細やかな施工がなされている。 □ 公共物としての安全・環境・維持管理等への配慮が良い。 □ 動作状態において、電気的及び機械的な異常がなく、総合的な機能及び運用性がよい。 □ ケーブル等の接続方法及び収納方法が適切である。 □ 操作・保守点検等の容易さを確保するための、配慮がなされている。 □ 全体的な美観が良い。		＊ 該当4項目以上・・・・・・・ a 該当3項目 ・・・・・・・ b 該当2項目 ・・・・・・・ c 該当1項目以下・・・・・・・ d	
	通信設備工事 受変電設備工事 その他類似工事	□ 主設備、関連設備等にきめ細かな施工がなされている。 □ 公共物としての安全性の確保、環境及び維持管理等への配慮がなされている。 □ 動作状態において、電気的及び機械的な異常がなく、総合的な機能や運用性がよい。 □ 当該設備及び関連設備が、全体的に協調及び統制され、総合的な性能向上への配慮がなされ □ 操作・保守点検等の容易さを確保するための、配慮がなされている。 □ 全体的な美観が良い。		＊ 該当4項目以上・・・・・・・ a 該当3項目 ・・・・・・・ b 該当2項目 ・・・・・・・ c 該当1項目以下・・・・・・・ d	
	電線共同溝工事	□ 歩道及び車道の舗装（含む仮復旧舗装）の勾配が適切で、有害な段差がなく平坦性が確保 □ プレキャストコンクリートブロックの蓋に、がたつきや不要な隙間が生じていない。 □ 施工管理記録などから、不可視部分の出来ばえの良さが伺える。 □ 全体的な美観が良い。		＊ 該当3項目以上・・・・・・・ a 該当2項目 ・・・・・・・ b 該当1項目 ・・・・・・・ c 該当項目なし ・・・・・・・ d	

別紙3-4-9

工事成績表の考査項目別運用表

［記入方法］該当する項目の□にレ マークを記入する。　　検査員

考査項目	工種	a 仕上げがきめ細かく、全体的に美観がよい 優れている	b やや優れている	c 他の事項に該当しない	d 仕上げが悪く、全体的に美観が悪い
3. 出来形及び出来ばえ Ⅲ. 出来ばえ	下水道工事 （開削工事）	□ 構造物の通りが良い。 □ 天端仕上げ・端部仕上げ等が良い。 □ クラックがない。 □ 漏水がない。 □ 施工管理記録等から、不可視部分の出来ばえの良さがうかがえる。 □ 全体的な美観が良い。		＊ 該当5項目以上・・・・・・・ a 該当4項目 ・・・・・・・ b 該当3項目 ・・・・・・・ c 該当2項目以下・・・・・・・ d	
	下水道工事 （推進工事）	□ 構造物の通りが良い。 □ 天端仕上げ・端部仕上げ等が良い。 □ クラックがない。 □ 漏水がない。 □ 施工管理記録等から、不可視部分の出来ばえの良さがうかがえる。 □ 全体的な美観が良い。		＊ 該当5項目以上・・・・・・・ a 該当4項目 ・・・・・・・ b 該当3項目 ・・・・・・・ c 該当2項目以下・・・・・・・ d	
	下水道工事 （シールド工事）	□ 構造物の通りが良い。 □ 天端仕上げ・端部仕上げ等が良い。 □ 一次覆工時において、通り・仕上げ等が良いことが確認できる。 □ クラックがない。 □ 漏水がない。 □ 施工管理記録等から、不可視部分の出来ばえの良さがうかがえる。 □ 全体的な美観が良い。		＊ 該当6項目以上・・・・・・・ a 該当4～5項目 ・・・・・・・ b 該当3項目 ・・・・・・・ c 該当2項目以下・・・・・・・ d	

別紙3-4-10

工事成績表の考査項目別運用表

［記入方法］該当する項目の□にレ マークを記入する。

検査員

考査項目	工種	a 仕上げがきめ細かく、全体的に美観がよい 優れている	b やや優れている	c 他の事項に該当しない	d 仕上げが悪く、全体的に美観が悪い
3. 出来形及び出来ばえ Ⅲ. 出来ばえ	港湾築造工事	□ 通りが良い。 □ 施工管理記録等から不可視部分の出来ばえの良さが伺える。 □ 構造物の表面及び端部の仕上げが良い。 □ きめ細かな施工がなされている。 □ 全体的な美観が良い。		＊ 該当4項目以上‥‥‥‥ a 該当3項目 ‥‥‥‥ b 該当2項目 ‥‥‥‥ c 該当1項目以下‥‥‥‥ d	
	港湾ブロック据付工事	□ 凹凸がない。 □ 幅・勾配が定規等の範囲に概ね入っている。 □ 天端が、計画高さからブロックの高さの概ね1／3以内にある。 □ 据付個数の確認が、写真等でできる。 □ 全体的な美観が良い。		＊ 該当4項目以上‥‥‥‥ a 該当3項目 ‥‥‥‥ b 該当2項目 ‥‥‥‥ c 該当1項目以下‥‥‥‥ d	
	港湾維持修繕工事 （電気・防食塗装・被覆防食工）	□ 通りが良い。 □ 施工管理記録等から不可視部分の出来ばえの良さが伺える。 □ 構造物の表面及び端部の仕上げが良い。 □ きめ細かな施工がなされている。 □ 全体的な美観が良い。		＊ 該当4項目以上‥‥‥‥ a 該当3項目 ‥‥‥‥ b 該当2項目 ‥‥‥‥ c 該当1項目以下‥‥‥‥ d	
	港湾維持修繕工事 （電気防食材設置工事）	□ 通りが良い。 □ 施工管理記録等から不可視部分の出来ばえの良さが伺える。 □ 構造物の表面及び端部の仕上げが良い。 □ きめ細かな施工がなされている。 □ 全体的な美観が良い。		＊ 該当4項目以上‥‥‥‥ a 該当3項目 ‥‥‥‥ b 該当2項目 ‥‥‥‥ c 該当1項目以下 ‥‥‥‥d	
	港湾維持修繕工事 （防舷材設置工事）	□ 通りが良い。 □ 施工管理記録等から不可視部分の出来ばえの良さが伺える。 □ 構造物の表面及び端部の仕上げが良い。 □ きめ細かな施工がなされている。 □ 全体的な美観が良い。		＊ 該当4項目以上‥‥‥‥ a 該当3項目 ‥‥‥‥ b 該当2項目 ‥‥‥‥ c 該当1項目以下‥‥‥‥ d	

別紙3-4-11

工事成績表の考査項目別運用表

［記入方法］該当する項目の□にレ マークを記入する。

検査員

考査項目	工種	a 仕上げがきめ細かく、全体的に美観がよい 優れている	b やや優れている	c 他の事項に該当しない	d 仕上げが悪く、全体的に美観が悪い
3. 出来形及び出来ばえ Ⅲ. 出来ばえ		□ □ □ □ □		＊ 該当4項目以上・・・・・・・ a 該当3項目　・・・・・・・ b 該当2項目　・・・・・・・ c 該当1項目以下・・・・・・・ d	
＊その他工事 または合併工事等		＊該当工種からの考査項目で考査し、最大考査項目は5項目とする。			